

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5376380号
(P5376380)

(45) 発行日 平成25年12月25日(2013.12.25)

(24) 登録日 平成25年10月4日(2013.10.4)

| | | | | | |
|----------------|----------------|------------------|----------------|--------------|--------------|
| (51) Int.Cl. | | F 1 | | | |
| A 6 1 B | 17/115 | (2006.01) | A 6 1 B | 17/11 | 3 1 0 |
| A 6 1 B | 17/3211 | (2006.01) | A 6 1 B | 17/32 | 3 1 0 |
| A 6 1 B | 17/072 | (2006.01) | A 6 1 B | 17/10 | 3 1 0 |

請求項の数 23 (全 58 頁)

| | | | |
|---------------|------------------------------|-----------|---------------------|
| (21) 出願番号 | 特願2010-510128 (P2010-510128) | (73) 特許権者 | 505246789 |
| (86) (22) 出願日 | 平成21年4月28日(2009.4.28) | | 学校法人自治医科大学 |
| (86) 国際出願番号 | PCT/JP2009/058328 | | 栃木県下野市薬師寺3311-1 |
| (87) 国際公開番号 | W02009/133875 | (74) 代理人 | 110000051 |
| (87) 国際公開日 | 平成21年11月5日(2009.11.5) | | 特許業務法人共生国際特許事務所 |
| 審査請求日 | 平成24年3月6日(2012.3.6) | (72) 発明者 | 大平 猛 |
| (31) 優先権主張番号 | 特願2008-119277 (P2008-119277) | | 栃木県下野市薬師寺3311-1 学校法 |
| (32) 優先日 | 平成20年4月30日(2008.4.30) | | 人自治医科大学内 |
| (33) 優先権主張国 | 日本国(JP) | | |

審査官 寺澤 忠司

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES) 用外科手術システム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

主軸(X軸)に沿って後方に突設され後端に套管針が設けられたアンビル軸を有し、先端部を構成するアンビル部と、

該アンビル部に対向して生体管を横断方向円管状に切断及び吻合するサーキュラーカッター及び吻合用ステープルを備えたヘッド部、及び該ヘッド部に接続された長尺可撓性の支持軸部を有する生体管内挿入本体と、

該生体管内挿入本体に接続されて前記サーキュラーカッター及び吻合用ステープルの駆出操作を制御する操作部と、

前記生体管内挿入本体内に挿通され、前記套管針の尖鋭端に巻取り/解放自在に接続されたガイド細線部材と、

前記アンビル軸及びヘッド部内中央部に相互に係脱可能な被ロック部、ロック部がそれぞれ設けられ、前記アンビル部とヘッド部とを連結又は離脱する連結機構と、を備え、

前記アンビル部が連結された生体管内挿入本体が生物の自然開口部から病巣部を有する生体管内に挿入され、前記アンビル部がヘッド部から離脱されて残置されるとともに前記ヘッド部側の生体管内挿入本体が後退してそれぞれ前記生体管病巣部の前/後端部近傍まで離間した状態で、別途生体に開口された内視鏡用生体腔部から挿入され、前記ガイド細線部材を切らずに生体管のみを切断するための逃げ機構を有して生体管を横断方向直線状に切断するリニアカッター及びその生体管の切断端部を巾着縫合する縫合用ステープルを有するリニア切断/縫合装置により前記生体管外から病巣部が切断除去されるとともに前

10

20

記生体管の切断端部双方が巾着縫合された後に、その生体管の切断端部双方同士を生体管内から円筒状に吻合すると同時に前記巾着縫合部の生体管部分を円形状に切断して連通状態に修復するサーキュラー吻合装置を具備し、

前記ガイド細線部材は、導電体からなるガイド電線であり、そのガイド電線の先端は、前記套管針の尖鋭端にモノポーラ電極部を介して接続され、前記套管針は、絶縁体からなるか、又は別途絶縁体を介して前記アンビル部軸に連設され、

前記巻取られるガイド電線を介して前記モノポーラ電極部にモノポーラ電流が通電されることにより前記アンビル部側及びヘッド部側生体管の双方の巾着縫合部位が順次焼灼され、前記套管針により挿通されて開口されることを特徴とする自然開口部越管腔内視鏡手術（NOTES）用外科手術システム。

10

【請求項2】

後端に套管針が形成された尖頭部（34Aa）が係脱可能に連結され主軸（X軸）に沿って後端側に突設されたアンビル軸を有し、先端部を構成するアンビル部と、

該アンビル部に対向して生体管を横断方向円管状に切断及び吻合するサーキュラーカッター及び吻合用ステーブルを備えたヘッド部、及び該ヘッド部に接続された長尺可撓性の支持軸部を有する生体管内挿入本体と、

該生体管内挿入本体に接続されて前記サーキュラーカッター及び吻合用ステーブルの駆出操作を制御する操作部と、

前記生体管内挿入本体内に挿通され、前記套管針の尖鋭端に巻取り／解放自在に接続されたガイド細線部材と、

20

前記アンビル軸及びヘッド部内中央部に相互に係脱可能な被ロック部、ロック部がそれぞれ設けられ、前記アンビル部とヘッド部とを連結又は離脱する連結機構と、を備え、

前記アンビル部が連結された生体管内挿入本体が生物の自然開口部から病巣部を有する生体管内に挿入され、前記アンビル部がヘッド部から離脱されて残置されるとともに前記ヘッド部側の生体管内挿入本体が後退してそれぞれ前記生体管病巣部の前／後端部近傍まで離間した状態で、別途生体に開口された内視鏡用生体腔部から挿入され、前記ガイド細線部材を切らずに生体管のみを切断するための逃げ機構を有して生体管を横断方向直線状に切断するリニアカッター及びその生体管の切断端部を巾着縫合する縫合用ステーブルを有するリニア切断／縫合装置により前記生体管外から病巣部が切断除去されるとともに前記生体管の切断端部双方が巾着縫合された後に、その生体管の切断端部双方同士を生体管内から円筒状に吻合すると同時に前記巾着縫合部の生体管部分を円形状に切断して連通状態に修復するサーキュラー吻合装置を具備し、

30

前記ガイド細線部材は、導電体からなるガイド電線であり、そのガイド電線の先端は、前記套管針の尖鋭端にモノポーラ電極部を介して接続され、前記套管針は、絶縁体からなるか、又は別途絶縁体を介して前記アンビル部軸に連設され、

前記巻取られるガイド電線を介して前記モノポーラ電極部にモノポーラ電流が通電されることにより前記アンビル部側及びヘッド部側生体管の双方の巾着縫合部位が順次焼灼され、前記套管針により挿通されて開口されることを特徴とする自然開口部越管腔内視鏡手術（NOTES）用外科手術システム。

【請求項3】

40

前記アンビル部をヘッド部と連結／離脱させるためのプッシュ管を前進／後退させるプッシュ管駆動機構と、

前記吻合用ステーブル及びサーキュラーカッターを駆出させるステーブル／カッター駆出機構と、

前記ガイド細線部材を巻き取る巻取り装置と、が前記ヘッド部と支持軸部との接続部近傍内に収容され、

これらの駆動操作が前記操作部で遠隔制御されることを特徴とする請求項1又は請求項2記載の自然開口部越管腔内視鏡手術（NOTES）用外科手術システム。

【請求項4】

前記ヘッド部と支持軸部との接続部近傍内には、さらにワイヤレス送受信器及び電池が

50

備えられ、

前記プッシュ管駆動機構、ステープル/カッター駆出機構及び巻取り装置の遠隔制御がワイヤレスで行われることを特徴とする請求項3記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システム。

【請求項5】

前記連結機構は、

前記套管針近傍のアンビル軸に設けられた凸面体状の被ロック部と、

前記ヘッド部内中央部に収設され、外周方向に複数に分割された凹面体状に形成されて前記被ロック部に係脱可能に嵌合して捕捉する分割捕捉部、及び前記アンビル部をヘッド部と連結/離脱させるための前進/後退自在なプッシュ管の前端部に設けられ、フリー状態では前記分割捕捉部をそれぞれ主軸(X0軸)心から拡径方向に開くように屈曲されて弾支する複数の弾性支持部材からなるロック部と、

前記プッシュ管に前進/後退自在に外嵌され、その前端部が前記ロック部後端部まで前進することにより前記弾性支持部材を外側から押圧して前記分割捕捉部を縮径方向に閉じ、その前端部が前記弾性支持部材から後退することにより前記分割捕捉部を拡径方向に開くロック調整管と、からなることを特徴とする請求項1乃至請求項4のいずれか1項記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システム。

【請求項6】

前記ロック部を被ロック部と係脱させるためのロック調整管を前進/後退させるロック調整管駆動機構が前記ヘッド部と支持軸部との接続部近傍内に収容され、

この駆動操作が前記操作部で遠隔制御されることを特徴とする請求項5記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システム。

【請求項7】

前記ヘッド部と支持軸部との接続部近傍内には、さらにワイヤレス送受信器及び電池が備えられ、

前記ロック調整管駆動機構の遠隔制御がワイヤレスで行われることを特徴とする請求項6記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システム。

【請求項8】

前記モノポーラ電極部は、前記套管針の後端部外周面に狭小面積が露出し埋設されていることを特徴とする請求項1又は請求項2記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システム。

【請求項9】

前記モノポーラ電極部は、前記套管針の後端部外周面に軸方向に沿って適宜長の細帯状に露出されていることを特徴とする請求項1又は請求項2記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システム。

【請求項10】

前記套管針が連結されたアンビル軸は、前記アンビル軸支持部に回転自在に支持されて回転手段に連結され、前記モノポーラ電極部にモノポーラ電流が通電される際に前記回転手段により回転されることを特徴とする請求項1又は請求項2記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システム。

【請求項11】

前記尖頭部(34Aa)は、前記巻取られるガイド電線により、前記套管針を介して順次焼灼された前記アンビル部側及びヘッド部側生体管の巾着縫合部位を貫通し、前記アンビル軸から離脱して前記ヘッド部内側に牽引されることを特徴とする請求項2記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システム。

【請求項12】

前記アンビル部を前記ヘッド部に再連結する際に、前記ガイド細線部材を牽引して前記尖頭部(34Aa)をアンビル軸後端部から引き離し、前記アンビル部をヘッド部と連結/離脱させるためのプッシュ管が前記操作部の後端部まで開口し延設された後端開口部外に引き出した後、前記後端開口部から前記支持軸部内を経てヘッド部の前端部に至り挿脱

10

20

30

40

50

自在に挿入され、先端部が套管針状に形成されて前記ロック部の分割捕捉部内を貫通する套管針状尖頭部(55a)、及び該套管針状尖頭部(55a)に連結された長尺可撓性のシャフト部(55b)からなり、

前記アンビル軸側の尖頭部(34Aa)が離脱されたアンビル軸後端部内に前記シャフト部(55b)先端の套管針状尖頭部(55a)を挿入することにより連結補助となるアンビル部連結補助具を備えることを特徴とする請求項2記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システム。

【請求項13】

前記アンビル部は、前記アンビル軸を支持し、前記ヘッド部に対し離間後に再度連結される際にヘッド部の主軸(X0軸)心と略一致するようにアンビル軸に対する傾斜姿勢を自動制御するアンビル姿勢制御機構が備えられていることを特徴とする請求項1又は請求項2記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システム。

10

【請求項14】

前記アンビル姿勢制御機構は、アンビル軸の主軸(X軸)に対して直交する2軸(Y、Z軸)回りにそれぞれ揺動自在な2軸揺動機構と、

前記アンビル軸接続部位に設けられたY軸及びZ軸回り角度センサーと、

前記2軸揺動機構をY軸及びZ軸回りにそれぞれ駆動する駆動手段と、が備えられていることを特徴とする請求項13記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システム。

【請求項15】

20

前記2軸揺動機構は、前記アンビル部内に固定される第1の枠体にY軸回りに揺動自在な第2の枠体が設けられ、この第2の枠体にZ軸回りに揺動自在な前記アンビル軸を支持するアンビル軸支持部が設けられたジンバル機構からなることを特徴とする請求項14記載のNOTES用外科手術システム。

【請求項16】

前記駆動手段は、前記2軸揺動機構をY軸及びZ軸回りにそれぞれ駆動制御するサーボモータからなることを特徴とする請求項14記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システム。

【請求項17】

前記アンビル部は、前記アンビル軸を支持し、前記ヘッド部に対し離間後に再度連結される際にヘッド部の主軸(X0軸)心と略一致するようにアンビル軸に対する傾斜姿勢を自動制御するアンビル姿勢制御機構が備えられ、

30

前記アンビル姿勢制御機構は、アンビル軸の主軸(X軸)に対して直交する2軸(Y、Z軸)回りにそれぞれ揺動自在な2軸揺動機構と、

前記アンビル軸接続部位に設けられたY軸及びZ軸回り角度センサーと、

前記2軸揺動機構をY軸及びZ軸回りにそれぞれ駆動するサーボモータと、が備えられ、

前記ヘッド部内に設けられ、前記ヘッド部の主軸(X0軸)に直交する2軸(Y0軸、Z0軸)回り角度センサー及びこれら角度センサーの出力をワイヤレス送信するヘッド部側送受信器と、

40

前記アンビル部内に設けられ、前記ヘッド部側送受信器からY0軸及びZ0軸回り角度センサーの出力を受信するアンビル部側送受信器と、

前記アンビル姿勢制御機構のY軸及びZ軸回り角度センサーの出力と前記アンビル部側送受信器からのY0軸及びZ0軸回り角度センサーの出力とが入力されてそれぞれの角度データを検出する角度検出部、及び角度検出部からの角度データに基づいて第2の枠体及びアンビル軸のそれぞれの回転角度指標値を算出する指令算出部を有し、それらの回転角度指標値を基に第2の枠体及びアンビル軸の角度指令値を生成する角度指令生成部と、

前記角度指令生成部からの角度指令値に基づき、Y軸及びZ軸サーボモータに対して個別にサーボ制御を行うY軸及びZ軸制御部を有する駆動制御部と、を有し、

前記アンビル部が前記ヘッド部に再連結される際に、前記アンビル部がガイド細線部材

50

により牽引されて前記ヘッド部のロック部内又はロック部が連設されて前記アンビル部をヘッド部と連結／離脱させるためのプッシュ管の前端部近傍内に当接した状態の套管針の後端部を基点（一時的固定点）として、その時点の前記ヘッド部の角度データに略一致するように前記アンビル軸の目標角度が与えられてアンビル部の姿勢を自動制御するアンビル姿勢制御システムをさらに備えたことを特徴とする請求項 1 記載の自然開口部越管腔内視鏡手術（NOTES）用外科手術システム。

【請求項 18】

前記アンビル部は、前記アンビル軸を支持し、前記ヘッド部に対し離間後に再度連結される際にヘッド部の主軸（X 軸）心と略一致するようにアンビル軸に対する傾斜姿勢を自動制御するアンビル姿勢制御機構が備えられ、

10

前記アンビル姿勢制御機構は、アンビル軸の主軸（X 軸）に対して直交する 2 軸（Y、Z 軸）回りにそれぞれ揺動自在な 2 軸揺動機構と、

前記アンビル軸接続部位に設けられた Y 軸及び Z 軸回り角度センサーと、

前記 2 軸揺動機構を Y 軸及び Z 軸回りにそれぞれ駆動するサーボモータと、が備えられ

、前記ヘッド部内に設けられ、前記ヘッド部の主軸（X 軸）に直交する 2 軸（Y 軸、Z 軸）回り角度センサー及びこれら角度センサーの出力をワイヤレス送信するヘッド部側送受信器と、

前記アンビル部内に設けられ、前記ヘッド部側送受信器から Y 軸及び Z 軸回り角度センサーの出力を受信するアンビル部側送受信器と、

20

前記アンビル姿勢制御機構の Y 軸及び Z 軸回り角度センサーの出力と前記アンビル部側送受信器からの Y 軸及び Z 軸回り角度センサーの出力とが入力されてそれぞれの角度データを検出する角度検出部、及び角度検出部からの角度データに基づいて第 2 の枠体及びアンビル軸のそれぞれの回転角度指標値を算出する指令算出部を有し、それらの回転角度指標値を基に第 2 の枠体及びアンビル軸の角度指令値を生成する角度指令生成部と、

前記角度指令生成部からの角度指令値に基づき、Y 軸及び Z 軸サーボモータに対して個別にサーボ制御を行う Y 軸及び Z 軸制御部を有する駆動制御部と、を有し、

前記アンビル部が前記ヘッド部に再連結される際に、前記ヘッド部側の生体管内挿入本体及び前記アンビル部連結補助具が挿通されて前記アンビル部をヘッド部と連結／離脱させるためのプッシュ管が共に前進し押出されて前記アンビル軸の後端部に設けられた尖頭部連結穴内に当接した前記アンビル部連結補助具の套管針状尖頭部を基点（一時的固定点）として、その時点の前記ヘッド部の角度データに略一致するように前記アンビル軸の目標角度が与えられてアンビル部の姿勢を自動制御するアンビル姿勢制御システムをさらに備えたことを特徴とする請求項 1 2 記載の自然開口部越管腔内視鏡手術（NOTES）用外科手術システム。

30

【請求項 19】

前記ヘッド部の先端近傍内に内視鏡先端部が配置されるワイヤレス内視鏡装置又はカプセル内視鏡装置が組込まれていることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 記載の自然開口部越管腔内視鏡手術（NOTES）用外科手術システム。

【請求項 20】

40

主軸（X 軸）に沿って後方に突設され後端に套管針が設けられたアンビル軸を有し、先端部を構成するアンビル部と、

該アンビル部に対向して生体管を横断方向円管状に切断及び吻合するサーキュラーカッター及び吻合用ステーブルを備えたヘッド部、及び該ヘッド部に接続された長尺可撓性の支持軸部を有する生体管内挿入本体と、

該生体管内挿入本体に接続されて前記サーキュラーカッター及び吻合用ステーブルの駆出操作を制御する操作部と、

前記生体管内挿入本体内に挿通され、前記套管針の尖鋭端に巻取り／解放自在に接続されたガイド細線部材と、

前記アンビル軸及びヘッド部内中央部に相互に係脱可能な被ロック部、ロック部がそれ

50

ぞれ設けられ、前記アンビル部とヘッド部とを連結又は離脱する連結機構と、

両端とも開放され、前記アンビル軸の後端部及び套管針部が挿通可能な長尺可撓性の中空管状体と、該中空管状体の後端部に設けられた把持部とからなり、前端部に前記アンビル軸の後端部及び套管針部を挿入して前記アンビル部を連結した状態で生体内に挿入されるアンビル部挿入補助具と、を備え、

前記アンビル部が連結されたアンビル部挿入補助具が生物の自然開口部から病巣部を有する生体内に挿入され、前記アンビル部がアンビル部挿入補助具の前端部から離脱されて残置されるとともに前記アンビル部挿入補助具が後退してそれぞれ前記生体管病巣部の前／後端部近傍まで離間した状態で、別途生体に開口された内視鏡用生体腔部から挿入され、前記ガイド細線部材を切らずに生体管のみを切断するための逃げ機構を有して生体管を横断方向直線状に切断するリニアカッター及びその生体管の切断端部を巾着縫合する縫合用ステーブルを有するリニア切断／縫合装置により前記生体管外から病巣部が切断除去されるとともにその生体管の切断端部双方が巾着縫合された後に、前記アンビル部挿入補助具を後退させて自然開口部外に抜き取り、前記ヘッド部側の生体内挿入本体を自然開口部から前記生体内の巾着縫合部部位まで挿入してその生体管の切断端部双方同士を生体内から円筒状に吻合すると同時に前記巾着縫合部の生体管部分を円形状に切断して連通状態に修復するサーキュラー吻合装置を具備し、

前記ガイド細線部材は、導電体からなるガイド電線であり、そのガイド電線の先端は、前記套管針の尖鋭端にモノポーラ電極部を介して接続され、前記套管針は、絶縁体からなるか、又は別途絶縁体を介して前記アンビル部軸に連設され、

前記巻取られるガイド電線を介して前記モノポーラ電極部にモノポーラ電流が通電されることにより前記アンビル部側及びヘッド部側生体管の双方の巾着縫合部位が順次焼灼され、前記套管針により挿通されて開口されることを特徴とする自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES) 用外科手術システム。

【請求項 2 1】

開閉する一方の顎に対向して生体管外から生体管を横断方向直線状に縫合する縫合用ステーブル、及び前端側及び後端側の双方向から中間部に向けてそれぞれ往復移動可能な一対のリニアカッターを備えた他方の顎を有するエンド・エフェクタ、及び該エンド・エフェクタに接続された長尺可撓性の支持軸部を有する生体腔内挿入本体と、

該生体腔内挿入本体に接続されて前記縫合用ステーブル及びリニアカッターの駆出操作を制御する操作部と、を有し、

主軸 (X 軸) に沿って後方に突設され後端に套管針が形成されたアンビル軸を有し、先端部を構成するアンビル部と、該アンビル部に対向して生体管を横断方向円管状に切断及び吻合するサーキュラーカッター及び吻合用ステーブルを備えたヘッド部、及び該ヘッド部に接続された長尺可撓性の支持軸部を有する生体内挿入本体と、該生体内挿入本体に接続されて前記サーキュラーカッター及び吻合用ステーブルの駆出操作を制御する操作部と、前記アンビル軸及びヘッド部内中央部に相互に係脱可能な被ロック部、ロック部がそれぞれ設けられ、前記アンビル部とヘッド部とを連結又は離脱させる連結機構と、を有するサーキュラー吻合装置のアンビル部及び生体内挿入本体が連結された状態で生物の自然開口部から病巣部を有する生体内に挿入され、アンビル部とヘッド部とがそれぞれ前記生体管病巣部の前／後端部近傍まで離間した状態で、

前記生体に別途開口された内視鏡用生体腔部から挿入され、生体管外から前記病巣部の前／後端部近傍を順次前記一対のリニアカッターにより横断方向直線状に切断するとともにその生体管の切断端部双方を前記縫合用ステーブルによりそれぞれ巾着縫合して閉鎖するリニア切断／縫合装置を具備することを特徴とする自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES) 外科手術システム。

【請求項 2 2】

前記エンド・エフェクタの一対のリニアカッターは、前記他方の顎内に設けられた切断／縫合ドライブ機構により相互に前後逆方向に往復移動することを特徴とする請求項 2 1 記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES) 用外科手術システム。

10

20

30

40

50

【請求項 2 3】

前記切断／縫合ドライブ機構は、

前記他方の顎内の前記一方の顎との対向面内に着脱自在に嵌装され、前記複数の縫合用ステーブルを収容するステーブルカートリッジの裏面側に対向して穿設されたチャンネル内に回転自在に並設され、前半部と後半部とに左右いずれか逆ねじの雄ねじが形成された切断／縫合ドライブシャフトと、

前記切断／縫合ドライブシャフトの左右逆ねじの雄ねじにそれぞれ螺合して切断／縫合ドライブシャフトの正逆回転に伴い前記チャンネル内を相互に前後逆方向に往復移動することにより前記縫合用ステーブルを駆出するための楔機構を有する先側ステーブル駆出駒及び後側ステーブル駆出駒と、が備えられ、

前記一对のリニアカッターは、それぞれ前記先側ステーブル駆出駒及び後側ステーブル駆出駒に搭載され、双方の刃先が対向するように配置されて前記ステーブルカートリッジ側方向に立設されていることを特徴とする請求項 2 2 記載の 自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES) 用外科手術システム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、生物の生体管の病巣部を切除してその切断端部双方同士を吻合する外科手術システムに関し、特に従来行われている腹部切開などの大掛かりな生体手術を省いて手術侵襲を少なくする自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES) 用外科手術システムに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、消化管などの生体管の病巣部を切除してその切断端部を円管状に吻合する外科手術等においては、例えば腸管の癌等の病巣部は腹部を切開して外部から切除し、その切断端部双方同士を外部から吻合する外科手術方法を取らざるを得なかった。近年、以下に述べるように、腸管の病巣部切除は腸管を外部から横断方向直線状に切断すると同時に腸管の切断部を巾着縫合して閉鎖するリニア切断／縫合装置により行い、その切断端部双方同士の吻合は切断端部双方同士を円筒状に吻合すると同時に前記巾着縫合部の腸管部分を切断するサーキュラー吻合装置により行う外科手術方法が提案され、かなり有効的に実用化が進みつつある。

【0003】

以下の説明において、生体の自然開口部又は別途開口された内視鏡用生体腔部に対して、生体内方向の機材又は生体管の部分を「先端」又は「前部」、生体外方向の機材又は生体管の部分を「後端」又は「後部」と呼ぶ。

【0004】

従来のサーキュラー吻合装置は、例えば図 3 9 に示すように、先端のアンビル部 1 0 0 0、及びアンビル部 1 0 0 0 に対向して生体管の吻合用ステーブル及び切断用カッターを備えたヘッド部 1 0 6 1 からなる結紮ヘッドアセンブリー 1 0 6 0、ヘッド部 1 0 6 1 に接続された長尺可撓性の支持軸部 1 0 7 0 を有する生体管内挿入本体である軸アセンブリー 1 0 5 0 と、軸アセンブリー 1 0 5 0 に接続されて前記サーキュラーカッター及び吻合用ステーブルの駆出操作を制御する操作部であるアクチュエータ・ハンドルアセンブリー 1 0 8 6 とからなり、アンビル部 1 0 0 0 はアンビル軸 1 1 0 4 及びこれに連結する套管針 (図示しない) 部を介してヘッド部 1 0 6 1 と連結／離脱可能なように構成されている (例えば特許文献 1 の図 5 乃至図 4 7 等参照)。

【0005】

一方、従来のリニア切断／縫合装置 1 5 0 0 は、例えば図 4 0 に示すように、開閉する上顎 1 5 0 4 に対向して生体管の縫合用ステーブルとリニアカッターとを備えた下顎 1 5 0 5 を有するエンド・エフェクタ 1 5 0 3 及びエンド・エフェクタ 1 5 0 3 に接続した長尺可撓性の支持軸部 1 5 0 6 を有する生体腔内挿入本体 1 5 0 1 と、支持軸部 1 5 0 6 に

10

20

30

40

50

接続して前記縫合用ステーブル及びリニアカッターの駆出操作を制御する操作部 1 5 0 2 とから構成されている（例えば特許文献 2 の図 1 等参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献 1】特開 2 0 0 0 - 1 6 6 9 3 2 号公報

【特許文献 2】特表 2 0 0 3 - 5 0 4 1 0 4 号公報（優先権主張番号：U S 0 9 / 3 5 1 , 5 3 4）

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

しかしながら、従来の特許文献 1 等に記載のサーキュラー吻合装置（図 3 9）及び特許文献 2 等に記載のリニア切断／縫合装置（図 4 0）を用いた例えば腸管の病巣部を切除してその切断端部双方同士を吻合する外科手術は、次のような手順で行われている。

【0008】

サーキュラー吻合装置の先端のアンビル部 1 0 0 0 がヘッド部 1 0 6 1 と連結した状態で例えば肛門から軸アセンブリー 1 0 5 0 が腸管内に挿入され、アンビル部 1 0 0 0 が前記腸管の病巣部の口側端（先端）部近傍を十分通過した時点でヘッド部 1 0 6 1 から押し出されて分離され、ヘッド部 1 0 0 0 側の軸アセンブリー 1 0 5 0 が後退して前記腸管病巣部の肛門側端（後端）部近傍まで離間した状態で、別途腹部の切開開口部からリニア切断／縫合装置 1 5 0 0 により腸管外から前記病巣部の前後両端部近傍を順次切断除去すると同時に巾着縫合して閉鎖する。

【0009】

この際の前記病巣部の両端部近傍の切断及び巾着縫合は、下顎 1 5 0 5 内の後端側から先端側に向けて駆出／駆動される複数のステーブル及び 1 枚のカッター（いずれも図示しない）により腸管に対して横断方向直線状に行われる。

【0010】

そして、前記腹部切開開口部の外部から人手により、アンビル部 1 0 0 0 及びヘッド部 1 0 6 1 側のいずれかにそれぞれ装着され相互に連結／離脱可能なアンビル軸 1 1 0 4 及び套管針部（図示しない）が前記双方の腸管切断端部近傍をそれぞれ挿通して表出された状態でそれぞれ糸により巾着状にアンビル軸 1 1 0 4 及び套管針部に固縛する（いずれも図示しない）。

【0011】

その後、前記腹部切開開口部の外部から人手によりアンビル部 1 0 0 0 をヘッド部 1 0 6 1 側に引き寄せてアンビル軸 1 1 0 4 及び套管針部を介して連結し対面させた状態で、前記腸管の巾着縫合部のそれぞれ口側及び肛門側寄りの近傍を重合させて腸管内から円筒状に吻合すると同時に前記腸管の巾着縫合部側を円筒状に切断して切り離す。この際、ヘッド部 1 0 6 1 側へのアンビル部 1 0 0 0 の引き寄せ及び前記腸管の巾着縫合部近傍の吻合及び切断は、アクチュエータ・ハンドルアセンブリー 1 0 8 6 の握り締め操作により半自動的に行われる。

【0012】

このように、リニア切断／縫合装置及びサーキュラー吻合装置が現今に至るまで種々工夫され進歩しつつあるにも拘らず、生体管内に一方の自然開口部（例えば肛門）からサーキュラー吻合装置の生体管内挿入本体である軸アセンブリー 1 0 5 0 を挿入するようになっているが、リニア切断／縫合装置による生体腸管の病巣部切除後のアンビル軸 1 1 0 4 及び套管針部への生体管切断端部近傍の糸による巾着状固縛、及びアンビル軸 1 1 0 4 及び套管針部を介してのアンビル部 1 0 0 0 とヘッド部 1 0 6 1 との連結等の各処置を腹部切開などの生体切開開口部の外部から人手により行わざるを得ない構成となっていることから、依然として大掛かりな生体切開手術が必須となっている。

【0013】

10

20

30

40

50

このため、大掛かりな手間と費用が必要となるとともに、治療期間も長期に及ぶなど患者にとって手術侵襲が過大になるという本質的な問題点がある。

【0014】

また、近年のサーキュラー吻合装置が生体管の病巣部切断端部双方同士を「自動的に吻合する」（例えば特許文献1）とうたわれているが、アンビル軸及び套管針部への生体管切断端部近傍の糸による巾着状固縛及びアンビル部1000とヘッド部1061との連結を生体切開開口部の外部からの人手によらざるを得ない構造となっている限り、正しくは「自動吻合」というには値しないものである。

【0015】

そこで、本発明は、上記従来技術の問題点に鑑みてなされたものであり、本発明の目的は、大掛かりな腹部切開などの生体手術を省いて手術時間及び手術侵襲を低減し、手術の操作性及び信頼性、ならびに経済性に優れる自然開口部越管腔内視鏡手術（NOTES）用外科手術システムを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0016】

上記目的を達成するため、請求項1の発明の自然開口部越管腔内視鏡手術（NOTES）用外科手術システムは、主軸（X軸）に沿って後方に突設され後端に套管針が設けられたアンビル軸を有し、先端部を構成するアンビル部と、該アンビル部に対向して生体管を横断方向円管状に切断及び吻合するサーキュラーカッター及び吻合用ステープルを備えたヘッド部、及び該ヘッド部に接続された長尺可撓性の支持軸部を有する生体管内挿入本体と、該生体管内挿入本体に接続されて前記サーキュラーカッター及び吻合用ステープルの駆出操作を制御する操作部と、前記生体管内挿入本体内に挿通され、前記套管針の尖鋭端に巻取り／解放自在に接続されたガイド細線部材と、前記アンビル軸及びヘッド部内中央部に相互に係脱可能な被ロック部、ロック部がそれぞれ設けられ、前記アンビル部とヘッド部とを連結又は離脱する連結機構と、を備え、前記アンビル部が連結された生体管内挿入本体が生物の自然開口部から病巣部を有する生体管内に挿入され、前記アンビル部がヘッド部から離脱されて残置されるとともに前記ヘッド部側の生体管内挿入本体が後退してそれぞれ前記生体管病巣部の前／後端部近傍まで離間した状態で、別途生体に開口された内視鏡用生体腔部から挿入され、前記ガイド細線部材を切らずに生体管のみを切断するための逃げ機構を有して生体管を横断方向直線状に切断するリニアカッター及びその生体管の切断端部を巾着縫合する縫合用ステープルを有するリニア切断／縫合装置により前記生体管外から病巣部が切断除去されるとともに前記生体管の切断端部双方が巾着縫合された後に、その生体管の切断端部双方同士を生体管内から円筒状に吻合すると同時に前記巾着縫合部の生体管部分を円形状に切断して連通状態に修復するサーキュラー吻合装置を具備し、前記ガイド細線部材は、導電体からなるガイド電線であり、そのガイド電線の先端は、前記套管針の尖鋭端にモノポーラ電極部を介して接続され、前記套管針は、絶縁体からなるか、又は別途絶縁体を介して前記アンビル部軸に連設され、前記巻取られるガイド電線を介して前記モノポーラ電極部にモノポーラ電流が通電されることにより前記アンビル部側及びヘッド部側生体管の双方の巾着縫合部位が順次焼灼され、前記套管針により挿通されて開口されることを特徴とする。

【0017】

請求項2の発明の自然開口部越管腔内視鏡手術（NOTES）用外科手術システムは、後端に套管針が形成された尖頭部（34Aa）に係脱可能に連結されて主軸（X軸）に沿って後端側に突設されたアンビル軸を有し、先端部を構成するアンビル部と、該アンビル部に対向して生体管を横断方向円管状に切断及び吻合するサーキュラーカッター及び吻合用ステープルを備えたヘッド部、及び該ヘッド部に接続された長尺可撓性の支持軸部を有する生体管内挿入本体と、該生体管内挿入本体に接続されて前記サーキュラーカッター及び吻合用ステープルの駆出操作を制御する操作部と、前記生体管内挿入本体内に挿通され、前記套管針の尖鋭端に巻取り／解放自在に接続されたガイド細線部材と、前記アンビル軸及びヘッド部内中央部に相互に係脱可能な被ロック部、ロック部がそれぞれ設けられ、

前記アンビル部とヘッド部とを連結又は離脱する連結機構と、を備え、前記アンビル部が連結された生体内挿入本体が生物の自然開口部から病巣部を有する生体内に挿入され、前記アンビル部がヘッド部から離脱されて残置されるとともに前記ヘッド部側の生体内挿入本体が後退してそれぞれ前記生体管病巣部の前/後端部近傍まで離間した状態で、別途生体に開口された内視鏡用生体腔部から挿入され、前記ガイド細線部材を切らずに生体管のみを切断するための逃げ機構を有して生体管を横断方向直線状に切断するリニアカッター及びその生体管の切断端部を巾着縫合する縫合用ステーブルを有するリニア切断/縫合装置により前記生体管外から病巣部が切断除去されるとともに前記生体管の切断端部双方が巾着縫合された後に、その生体管の切断端部双方同士を生体内から円筒状に吻合すると同時に前記巾着縫合部の生体管部分を円形状に切断して連通状態に修復するサーキュラー吻合装置を具備し、前記ガイド細線部材は、導電体からなるガイド電線であり、そのガイド電線の先端は、前記套管針の尖鋭端にモノポーラ電極部を介して接続され、前記套管針は、絶縁体からなるか、又は別途絶縁体を介して前記アンビル部軸に連設され、前記巻取られるガイド電線を介して前記モノポーラ電極部にモノポーラ電流が通電されることにより前記アンビル部側及びヘッド部側生体管の双方の巾着縫合部位が順次焼灼され、前記套管針により挿通されて開口されることを特徴とする。

10

【0018】

請求項3の発明は、請求項1又は請求項2記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システムであって、前記アンビル部をヘッド部と連結/離脱させるためのプッシュ管を前進/後退させるプッシュ管駆動機構と、前記吻合用ステーブル及びサーキュラーカッターを駆出させるステーブル/カッター駆出機構と、前記ガイド細線部材を巻き取る巻取り装置と、が前記ヘッド部と支持軸部との接続部近傍内に収容され、これらの駆動操作が前記操作部で遠隔制御されることを特徴とする。

20

【0019】

請求項4の発明は、請求項3記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システムであって、前記ヘッド部と支持軸部との接続部近傍内には、さらにワイヤレス送受信器及び電池が備えられ、前記プッシュ管駆動機構、ステーブル/カッター駆出機構及び巻取り装置の遠隔制御がワイヤレスで行われることを特徴とする。

【0020】

請求項5の発明は、請求項1乃至請求項4のいずれか1項記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システムであって、前記連結機構は、前記套管針近傍のアンビル軸に設けられた凸面体状の被ロック部と、前記ヘッド部内中央部に収設され、外周方向に複数に分割された凹面体状に形成されて前記被ロック部に係脱可能に嵌合して捕捉する分割捕捉部、及び前記アンビル部をヘッド部と連結/離脱させるための前進/後退自在なプッシュ管の前端部に設けられ、フリー状態では前記分割捕捉部をそれぞれ主軸(X0軸)心から拡径方向に開くように屈曲されて弾支する複数の弾性支持部材からなるロック部と、前記プッシュ管に前進/後退自在に外嵌され、その前端部が前記ロック部後端部まで前進することにより前記弾性支持部材を外側から押圧して前記分割捕捉部を縮径方向に閉じ、その前端部が前記弾性支持部材から後退することにより前記分割捕捉部を拡径方向に開くロック調整管と、からなることを特徴とする。

30

40

【0021】

請求項6の発明は、請求項5記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システムであって、前記ロック部を被ロック部と係脱させるためのロック調整管を前進/後退させるロック調整管駆動機構が前記ヘッド部と支持軸部との接続部近傍内に収容され、この駆動操作が前記操作部で遠隔制御されることを特徴とする。

【0022】

請求項7の発明は、請求項6記載の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システムであって、前記ヘッド部と支持軸部との接続部近傍内には、さらにワイヤレス送受信器及び電池が備えられ、前記ロック調整管駆動機構の遠隔制御がワイヤレスで行われることを特徴とする。

50

【 0 0 2 4 】

請求項 8 の発明は、請求項 1 又は請求項 2 記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムであって、前記モノポーラ電極部は、前記套管針の後端部外周面に狭小面積が露出し埋設されていることを特徴とする。

【 0 0 2 5 】

請求項 9 の発明は、請求項 1、請求項 2 又は請求項 8 のいずれか 1 項記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムであって、前記モノポーラ電極部は、前記套管針の後端部外周面に軸方向に沿って適宜長の細帯状に露出されていることを特徴とする。

【 0 0 2 6 】

請求項 10 の発明は、請求項 1、請求項 2、請求項 8 又は請求項 9 のいずれか 1 項記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムであって、前記套管針が連結されたアンビル軸は、前記アンビル軸支持部に回転自在に支持されて回転手段に連結され、前記モノポーラ電極部にモノポーラ電流が通電される際に前記回転手段により回転されることを特徴とする。

【 0 0 2 7 】

請求項 11 の発明は、請求項 2、請求項 8 乃至請求項 10 のいずれか 1 項記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムであって、前記尖頭部は、前記巻取られるガイド電線により、前記套管針を介して順次焼灼された前記アンビル部側及びヘッド部側生体管の巾着縫合部位を貫通し、前記アンビル軸から離脱して前記ヘッド部内側に牽引されることを特徴とする。

【 0 0 2 8 】

請求項 12 の発明は、請求項 2 乃至請求項 11 のいずれか 1 項記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムであって、前記アンビル部を前記ヘッド部に再連結する際に、前記ガイド細線部材を牽引して前記尖頭部をアンビル軸後端部から引き離し、前記操作部の後端部まで前記プッシュ管が延設された後端開口部外に引き出した後、前記後端開口部から前記支持軸部内を経てヘッド部の前端部に至り挿脱自在に挿入され、先端部が套管針状に形成されて前記ロック部の分割捕捉部内を貫通する套管針状尖頭部、及び該套管針状尖頭部に連結された長尺可撓性のシャフト部からなり、前記アンビル軸側の尖頭部が離脱されたアンビル軸後端部内に前記シャフト部先端の套管針状尖頭部を挿入することにより連結補助となるアンビル部連結補助具を備えることを特徴とする。

【 0 0 2 9 】

請求項 13 の発明は、請求項 1 乃至請求項 12 のいずれか 1 項記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムであって、前記アンビル部は、前記アンビル軸を支持し、前記ヘッド部に対し離間後に再度連結される際にヘッド部の主軸 (X 軸) 心と略一致するようにアンビル軸に対する傾斜姿勢を自動制御するアンビル姿勢制御機構が備えられていることを特徴とする。

【 0 0 3 0 】

請求項 14 の発明は、請求項 13 記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムであって、前記アンビル姿勢制御機構は、アンビル軸の主軸 (X 軸) に対して直交する 2 軸 (Y、Z 軸) 回りにそれぞれ揺動自在な 2 軸揺動機構と、前記アンビル軸接続部位に設けられた Y 軸及び Z 軸回り角度センサーと、前記 2 軸揺動機構を Y 軸及び Z 軸回りにそれぞれ駆動する駆動手段と、が備えられていることを特徴とする。

【 0 0 3 1 】

請求項 15 の発明は、請求項 14 記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムであって、前記 2 軸揺動機構は、前記アンビル部内に固定される第 1 の枠体に Y 軸回りに揺動自在な第 2 の枠体が設けられ、この第 2 の枠体に Z 軸回りに揺動自在な前記アンビル軸を支持するアンビル軸支持部が設けられたジンバル機構からなることを特徴とする。

【 0 0 3 2 】

10

20

30

40

50

請求項 1 6 の発明は、請求項 1 4 又は請求項 1 5 記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムであって、前記駆動手段は、前記 2 軸揺動機構を Y 軸及び Z 軸回りにそれぞれ駆動制御するサーボモータからなることを特徴とする。

【 0 0 3 3 】

請求項 1 7 の発明は、請求項 1 6 記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムであって、前記ヘッド部に設けられ、前記ヘッド部の主軸 (X 0 軸) に直交する 2 軸 (Y 0 軸、Z 0 軸) 回り角度センサー及びこれら角度センサーの出力をワイヤレス送信するヘッド部側送受信器と、前記アンビル部内に設けられ、前記ヘッド部側送受信器から Y 0 軸及び Z 0 軸回り角度センサーの出力を受信するアンビル部側送受信器と、前記アンビル姿勢制御機構の Y 軸及び Z 軸回り角度センサーの出力と前記アンビル部側送受信器からの Y 0 軸及び Z 0 軸回り角度センサーの出力とが入力されてそれぞれの角度データを検出する角度検出部、及び角度検出部からの角度データに基づいて第 2 の枠体及びアンビル軸のそれぞれの回転角度指標値を算出する指令算出部を有し、それらの回転角度指標値を基に第 2 の枠体及びアンビル軸の角度指令値を生成する角度指令生成部と、前記角度指令生成部からの角度指令値に基づき、Y 軸及び Z 軸サーボモータに対して個別にサーボ制御を行う Y 軸及び Z 軸制御部を有する駆動制御部と、を有し、前記アンビル部が前記ヘッド部に再連結される際に、前記アンビル部がガイド細線部材により牽引されて前記ヘッド部のロック部内又はロック部が連設されるプッシュ管前端部近傍内に当接した状態の套管針の後端部を基点 (一時的固定点) として、その時点の前記ヘッド部の角度データに略一致するように前記アンビル軸の目標角度が与えられてアンビル部の姿勢を自動制御するアンビル姿勢制御システムをさらに備えたことを特徴とする。

【 0 0 3 4 】

請求項 1 8 の発明は、請求項 1 6 記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術方法であって、前記ヘッド部に設けられ、前記ヘッド部の主軸 (X 0 軸) に直交する 2 軸 (Y 0 軸、Z 0 軸) 回り角度センサー及びこれら角度センサーの出力をワイヤレス送信するヘッド部側送受信器と、前記アンビル部内に設けられ、前記ヘッド部側送受信器から Y 0 軸及び Z 0 軸回り角度センサーの出力を受信するアンビル部側送受信器と、前記アンビル姿勢制御機構の Y 軸及び Z 軸回り角度センサーの出力と前記アンビル部側送受信器からの Y 0 軸及び Z 0 軸回り角度センサーの出力とが入力されてそれぞれの角度データを検出する角度検出部、及び角度検出部からの角度データに基づいて第 2 の枠体及びアンビル軸のそれぞれの回転角度指標値を算出する指令算出部を有し、それらの回転角度指標値を基に第 2 の枠体及びアンビル軸の角度指令値を生成する角度指令生成部と、前記角度指令生成部からの角度指令値に基づき、Y 軸及び Z 軸サーボモータに対して個別にサーボ制御を行う Y 軸及び Z 軸制御部を有する駆動制御部と、を有し、前記アンビル部が前記ヘッド部に再連結される際に、前記ヘッド部側の生体管内挿入本体及び前記アンビル部連結補助具が挿通された前記プッシュ管が共に前進し押出されて前記アンビル軸の後端部に設けられた尖頭部連結穴内に当接した前記アンビル部連結補助具の套管針状尖頭部を基点 (一時的固定点) として、その時点の前記ヘッド部の角度データに略一致するように前記アンビル軸の目標角度が与えられてアンビル部の姿勢を自動制御するアンビル姿勢制御システムをさらに備えたことを特徴とする。

【 0 0 3 5 】

請求項 1 9 の発明は、請求項 1 乃至請求項 1 8 のいずれか 1 項記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムであって、前記ヘッド部の先端近傍内に内視鏡先端部が配置されるワイヤレス内視鏡装置又はカプセル内視鏡装置が組込まれていることを特徴とする。

【 0 0 3 6 】

請求項 2 0 の発明の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムは、主軸 (X 軸) に沿って後方に突設され後端に套管針が設けられたアンビル軸を有し、先端部を構成するアンビル部と、該アンビル部に対向して生体管を横断方向円管状に切断及び吻合するサーキュラーカッター及び吻合用ステーブルを備えたヘッド部、及び該ヘッド

部に接続された長尺可撓性の支持軸部を有する生体内挿入本体と、該生体内挿入本体に接続されて前記サーキュラーカッター及び吻合用ステーブルの駆出操作を制御する操作部と、前記生体内挿入本体内に挿通され、前記套管針の尖鋭端に巻取り／解放自在に接続されたガイド細線部材と、前記アンビル軸及びヘッド部内中央部に相互に係脱可能な被ロック部、ロック部がそれぞれ設けられ、前記アンビル部とヘッド部とを連結又は離脱する連結機構と、両端とも開放され、前記アンビル軸の後端部及び套管針部が挿通可能な長尺可撓性の中空管状体と、該中空管状体の後端部に設けられた把持部とからなり、前端部に前記アンビル軸の後端部及び套管針部を挿入して前記アンビル部を連結した状態で生体内に挿入されるアンビル部挿入補助具と、を備え、前記アンビル部が連結されたアンビル部挿入補助具が生物の自然開口部から病巣部を有する生体内に挿入され、前記アンビル部がアンビル部挿入補助具の前端部から離脱されて残置されるとともに前記アンビル部挿入補助具が後退してそれぞれ前記生体管病巣部の前／後端部近傍まで離間した状態で、別途生体に開口された内視鏡用生体腔部から挿入され、前記ガイド細線部材を切らずに生体管のみを切断するための逃げ機構を有して生体管を横断方向直線状に切断するリニアカッター及びその生体管の切断端部を巾着縫合する縫合用ステーブルを有するリニア切断／縫合装置により前記生体管外から病巣部が切断除去されるとともにその生体管の切断端部双方が巾着縫合された後に、前記アンビル部挿入補助具を後退させて自然開口部外に抜き取り、前記ヘッド部側の生体内挿入本体を自然開口部から前記生体内の巾着縫合部位まで挿入してその生体管の切断端部双方同士を生体内から円筒状に吻合すると同時に前記巾着縫合部の生体管部分を円形状に切断して連通状態に修復するサーキュラー吻合装置を具備し、前記ガイド細線部材は、導電体からなるガイド電線であり、そのガイド電線の先端は、前記套管針の尖鋭端にモノポーラ電極部を介して接続され、前記套管針は、絶縁体からなるか、又は別途絶縁体を介して前記アンビル部軸に連設され、前記巻取られるガイド電線を介して前記モノポーラ電極部にモノポーラ電流が通電されることにより前記アンビル部側及びヘッド部側生体管の双方の巾着縫合部位が順次焼灼され、前記套管針により挿通されて開口されることを特徴とする。

【 0 0 3 7 】

請求項 2 1 の発明の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES) 用外科手術システムは、開閉する一方の顎に対向して生体外から生体管を横断方向直線状に縫合する縫合用ステーブル、及び前端側及び後端側の双方向から中間部に向けてそれぞれ往復移動可能な一対のリニアカッターを備えた他方の顎を有するエンド・エフェクタ、及び該エンド・エフェクタに接続された長尺可撓性の支持軸部を有する生体腔内挿入本体と、該生体腔内挿入本体に接続されて前記縫合用ステーブル及びリニアカッターの駆出操作を制御する操作部と、を有し、主軸 (X 軸) に沿って後方に突設され後端に套管針が形成されたアンビル軸を有し、先端部を構成するアンビル部と、該アンビル部に対向して生体管を横断方向円管状に切断及び吻合するサーキュラーカッター及び吻合用ステーブルを備えたヘッド部、及び該ヘッド部に接続された長尺可撓性の支持軸部を有する生体内挿入本体と、該生体内挿入本体に接続されて前記サーキュラーカッター及び吻合用ステーブルの駆出操作を制御する操作部と、前記アンビル軸及びヘッド部内中央部に相互に係脱可能な被ロック部、ロック部がそれぞれ設けられ、前記アンビル部とヘッド部とを連結又は離脱させる連結機構と、を有するサーキュラー吻合装置のアンビル部及び生体内挿入本体が連結された状態で生物の自然開口部から病巣部を有する生体内に挿入され、アンビル部とヘッド部とがそれぞれ前記生体管病巣部の前／後端部近傍まで離間した状態で、前記生体に別途開口された内視鏡用生体腔部から挿入され、生体外から前記病巣部の前／後端部近傍を順次前記一対のリニアカッターにより横断方向直線状に切断するとともにその生体管の切断端部双方を前記縫合用ステーブルによりそれぞれ巾着縫合して閉鎖するリニア切断／縫合装置を具備することを特徴とする。

【 0 0 3 8 】

請求項 2 2 の発明は、請求項 2 1 記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES) 用外科手術システムであって、前記エンド・エフェクタの一対のリニアカッターは、前記他

10

20

30

40

50

方の顎内に設けられた切断／縫合ドライブ機構により相互に前後逆方向に往復移動することを特徴とする。

【 0 0 3 9 】

請求項 2 3 の発明は、請求項 2 2 記載の自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムであって、前記切断／縫合ドライブ機構は、前記他方の顎内の前記一方の顎との対向面内に着脱自在に嵌装され、前記複数のステーブルを収容するステーブルカートリッジの裏面側に対向して穿設されたチャンネル内に回転自在に並設され、前半部と後半部とに左右いずれか逆ねじの雄ねじが形成された切断／縫合ドライブシャフトと、前記切断／縫合ドライブシャフトの左右逆ねじの雄ねじにそれぞれ螺合して切断／縫合ドライブシャフトの正逆回転に伴い前記チャンネル内を相互に前後逆方向に往復移動することにより前記ステーブルを駆出するための楔機構を有する先側ステーブル駆出駒及び後側ステーブル駆出駒と、が備えられ、前記対のリニアカッターは、それぞれ前記先側ステーブル駆出駒及び後側ステーブル駆出駒に搭載され、双方の刃先が対向するように配置されて前記ステーブルカートリッジ側方向に立設されていることを特徴とする。

10

【発明の効果】

【 0 0 4 7 】

請求項 1 及び請求項 2 の発明によれば、サーキュラー吻合装置の生体管内挿入本体が生物の自然開口部から病巣部を有する生体管内に挿入され、アンビル部がヘッド部に対して生体管病巣部の前／後端部近傍まで離間した状態で、別途生体の内視鏡用生体腔部から挿入されたリニア切断／縫合装置及びこれと同時に別途内視鏡により観察しながら生体管外から病巣部が切断除去されるとともにその生体管の切断端部双方が巾着縫合された後に、その生体管の切断端部双方同士の吻合を前記サーキュラー吻合装置により生体管内から半自動的あるいは自動的に行うことができるので、従来のような大掛かりな腹部切開などの生体手術を省いて手術時間及び手術侵襲を低減し、手術の操作性及び信頼性、ならびに経済性に優れた自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES) 用外科手術システムを提供することが可能となる効果がある。

20

【 0 0 4 8 】

請求項 3 の発明によれば、請求項 1 の発明と同様な効果を有するのに加えて、アンビル部をヘッド部に連結／離脱させるプッシュ管駆動機構、吻合用ステーブル及びサーキュラーカッターを駆出させるステーブル／カッター駆出機構及びガイド細線部材を巻き取る巻取り装置の駆動部全てをヘッド部と支持軸部との接続部近傍内に収容して操作部で遠隔制御する構成としたことから、従来操作部に設けていたこれらの駆動部及びこれらから支持軸部内を挿通してヘッド部に連結する連結管、プッシュ管及びドライバーチューブ等の駆動部連結部材を全て省くことができるため、操作部及び支持軸部の構造が大幅に簡素化され、操作性及び経済性に一層優れた自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムを提供できる効果がある。

30

【 0 0 4 9 】

請求項 4 の発明によれば、請求項 3 の発明と同様な効果を有するのに加えて、ヘッド部と支持軸部との接続部近傍内にはさらにワイヤレス送受信器及び電池を備え、プッシュ管駆動機構、ステーブル／カッター駆出機構及び巻取り装置の遠隔制御をワイヤレスで行うことから、操作部から支持軸部内を挿通してヘッド部に連結する制御電線を全て省くことができるため、操作部及び支持軸部の構造がさらに簡素化され、操作性及び経済性に一層優れた自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES)用外科手術システムを提供できる効果がある。

40

【 0 0 5 0 】

請求項 5 の発明によれば、請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項の発明と同様な効果を有するのに加えて、ヘッド部に対して離間されたアンビル部が生体管の病巣部が切断除去された後に再度連結される際に、ロック調整管の前後方向の進退操作によりプッシュ管前端部の分割捕捉部を前進させつつ開閉することによってアンビル軸の被ロック部を捕捉してプッシュ管を後退させことでアンビル部をヘッド部側に引き寄せるとともにロックする

50

ことが容易に可能となり、アンビル部とヘッド部との連結機構の信頼性を向上させる効果がある。

【 0 0 5 1 】

請求項 6 の発明によれば、請求項 1、請求項 2 又は請求項 5 のいずれか 1 項の発明と同様な効果を有するのに加えて、プッシュ管駆動機構、ロック調整管駆動機構、ステーブル/カッター駆出機構をヘッド部内に収容して操作部で遠隔制御する構成とすることから、従来操作部に設けていたこれらの駆動部及びこれらから支持軸部内を挿通してヘッド部に連結するプッシュ管、ロック調整管及びステーブル/カッターを駆出するためのドライバーチューブ等の駆動部連結部材を全て省くことができるため、操作部及び支持軸部の構造が大幅に簡素化され、操作性及び経済性に一層優れる自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES) 用外科手術システムを提供できる効果がある。

10

【 0 0 5 2 】

請求項 7 の発明によれば、請求項 6 の発明と同様な効果を有するのに加えて、ヘッド部内にはさらにワイヤレス送受信器及び電池を備え、プッシュ管駆動機構、ロック調整管駆動機構、ステーブル/カッター駆出機構の遠隔制御をワイヤレスで行うことから、操作部から支持軸部内を挿通してヘッド部に連結する制御電線を全て省くことができるため、操作部及び支持軸部の構造がさらに簡素化され、操作性及び経済性に一層優れる自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES) 用外科手術システムを提供できる効果がある。

【 0 0 5 4 】

請求項 8 の発明によれば、請求項 1 又は請求項 2 の発明と同様な効果を有するのに加えて、モノポーラ電極部が套管針の後端部外周面に狭小面積が露出し埋設されていることから、モノポーラ電極部へのモノポーラ電流通電による生体管巾着縫合部位の焼灼効率をアップさせる効果がある。

20

【 0 0 5 5 】

請求項 9 の発明によれば、請求項 1、請求項 2 又は請求項 8 のいずれか 1 項の発明と同様な効果を有するのに加えて、モノポーラ電極部が套管針の後端部外周面に軸方向に沿って適宜長の細帯状に露出されていることから、モノポーラ電極部へのモノポーラ電流通電による生体管巾着縫合部位の焼灼が順次軸方向に移動して行われるためさらに焼灼効率をアップさせる効果がある。

【 0 0 5 6 】

請求項 10 の発明によれば、請求項 1、請求項 2、請求項 8 又は請求項 9 のいずれか 1 項の発明と同様な効果を有するのに加えて、モノポーラ電極部にモノポーラ電流を通電する際に套管針が連結されたアンビル軸が回転することから、モノポーラ電極部へのモノポーラ電流通電による生体管巾着縫合部位の焼灼部の焼き付きを防止してさらに一層焼灼効率をアップさせる効果がある。

30

【 0 0 5 7 】

請求項 11 の発明によれば、請求項 2、請求項 8 乃至請求項 10 のいずれか 1 の発明と同様な効果を有するのに加えて、ガイド細線部材のガイド電線を介してモノポーラ電極部にモノポーラ電流を通電して順次焼灼されたアンビル部側及びヘッド部側生体管の両方の巾着縫合部位をアンビル軸の尖頭部が容易に貫通し、ヘッド部側に牽引され、尖頭部を操作部後端外に取外した後で、ヘッド部に対してアンビル部を再度連結及びロックする操作が容易になることから、従来のようなアンビル部とヘッド部との連結を生体切開開口部の外部から人手により行う必要がなく、従来のような大掛かりな生体手術を省いて手術時間及び手術侵襲を低減し、手術の操作性及び信頼性、ならびに経済性に優れる自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES) 用外科手術システム及び外科手術方法の実現をさらに確実に可能にする効果がある。

40

【 0 0 5 8 】

請求項 12 の発明によれば、請求項 2 乃至請求項 11 のいずれか 1 項の発明と同様な効果を有するのに加えて、アンビル部がヘッド部に対して離間された状態で生体管の病巣部が切断除去されその生体管切断端部の双方が巾着縫合され、さらに尖頭部が操作部後端外

50

に取外された後でアンビル部をヘッド部に再連結する際に、操作部の後端部から挿入されたアンビル部連結補助具の套管針状先端部がアンビル軸の後端部の連結穴内に嵌入し易い構成とすることができることから、アンビル部とヘッド部との再連結/ロック操作の容易性及び信頼性を向上させる効果がある。

【0059】

請求項13の発明によれば、請求項1乃至請求項12のいずれか1項の発明と同様な効果を有するのに加えて、アンビル部は、ヘッド部に対し離間後に再度連結される際にヘッド部の軸心と略一致するようにアンビル軸に対する傾斜姿勢を自動制御するアンビル姿勢制御機構を備えていることから、アンビル部とヘッド部との連結を自動的に容易に行うことができるため従来のような生体切開開口部の外部から人手により行う必要がなく、従来

10

のような大掛かりな生体手術を省いて手術時間及び手術侵襲を低減し、手術の操作性及び信頼性、ならびに経済性に優れる自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システムの実現をさらに確実に可能にする効果がある。

【0060】

請求項14の発明によれば、請求項13の発明と同様な効果を有するのに加えて、前記アンビル姿勢制御機構は、アンビル軸の主軸X軸に対して直交するY、Z軸回りにそれぞれ揺動自在な2軸揺動機構、Y、Z軸回り角度センサー及びY、Z軸回り駆動手段を備えていることから、ヘッド部の軸心と略一致するようにアンビル軸の傾斜姿勢の信頼性の高い自動制御を安定的に行うことができるという効果がある。

【0061】

請求項15の発明によれば、請求項14の発明と同様な効果を有するのに加えて、前記2軸揺動機構は、前記アンビル部内に固定される第1の枠体にY軸回りに揺動自在な第2の枠体、及び第2の枠体にZ軸回りに揺動自在なアンビル軸支持部が設けられたジンバル機構からなることから、コンパクトでアンビル軸の傾斜姿勢のさらに信頼性の高い自動制御を安定的に行うことができるという効果がある。

20

【0062】

請求項16の発明によれば、請求項14又は請求項15の発明と同様な効果を有するのに加えて、前記駆動手段は、前記2軸揺動機構をY軸及びZ軸回りにそれぞれ駆動制御するサーボモータからなることから、アンビル軸の傾斜姿勢を高精度に素早く自動制御することができるという効果がある。

30

【0063】

請求項17の発明によれば、請求項16の発明と同様な効果を有するのに加えて、アンビル姿勢制御システムにより、前記アンビル部がガイド細線部材であるガイド電線により牽引されて前記ヘッド部のロック部内又はロック部が連設されるプッシュ管の前端部近傍内に当接した状態の套管針の後端部を基点(一時的固定点)として、その時点のヘッド部の角度データに略一致するようにアンビル軸の目標角度が与えられてアンビル部の姿勢を自動制御することから、ヘッド部の軸心と略一致させるアンビル軸傾斜姿勢自動制御の信頼性を確保する効果がある。

【0064】

請求項18の発明によれば、請求項16の発明と同様な効果を有するのに加えて、アンビル姿勢制御システムにより、プッシュ管及びヘッド部が共に前進し押出されてアンビル軸後端部の尖頭部連結穴内に当接したアンビル部連結補助具の套管針状尖頭部を基点(一時的固定点)として、その時点のヘッド部の角度データに略一致するようにアンビル軸の目標角度が与えられてアンビル部の姿勢を自動制御することから、ヘッド部の軸心と略一致させるアンビル軸傾斜姿勢自動制御の信頼性を確保する効果がある。

40

【0065】

請求項19の発明によれば、請求項1乃至請求項18のいずれか1項の発明と同様な効果を有するのに加えて、サーキュラー吻合装置のヘッド部の先端近傍内に内視鏡先端部が配置され組込まれているワイヤレス内視鏡装置又はカプセル内視鏡装置により、ヘッド部から離間したアンビル部及びアンビル軸の傾斜姿勢などを観察確認しながら確実に生体管

50

内から前記生体管の切断端部双方同士の吻合操作を行うことができるという効果がある。

【0066】

請求項20の発明によれば、先に、構成及び操作共簡易なアンビル部挿入補助具の前端部にアンビル部を連結した状態で生物の自然開口部から病巣部を有する生体管内に挿入し、アンビル部をアンビル部挿入補助具から離脱して残置し、それぞれ前記生体管病巣部の前/後端部近傍まで離間した状態で、内視鏡用生体腔部からリニア切断/縫合装置を挿入して生体管の病巣部を切断するとともにその生体管の切断端部双方を巾着縫合して除去する処置を行ってからアンビル部挿入補助具を自然開口部から抜取った後で、生体管内に挿入された生体管内挿入本体のヘッド部にアンビル部を再連結して前記生体管の切断端部双方同士を生体管内から円管状に吻合すると同時に前記巾着縫合部の生体管部分を切断して

10

【0067】

請求項21の発明によれば、前記内視鏡用生体腔部から挿入されたりニア切断/縫合装置が、生体管外から生体管病巣部の前/後端部近傍を順次前端側及び後端側の双方向から中間部に向けてそれぞれ移動する一対のリニアカッターにより挟むようにして短時間に横断方向直線状に切断すると同時に、縫合用ステープルにより前端側及び後端側の双方向から短時間にそれぞれ巾着縫合して閉鎖することから、従来のような大掛かりな生体手術を省いて手術時間及び手術侵襲を低減し、手術の操作性及び信頼性、ならびに経済性に優れるNOTES用外科手術システム及び外科手術方法の確実な実現を可能にする効果がある。

20

【0068】

請求項22の発明によれば、請求項21の発明と同様な効果を有するのに加えて、前記エンド・エフェクタの他方の顎内に設けられた切断/縫合ドライブ機構によりエンド・エフェクタの一対のリニアカッターが相互に前後逆方向に往復移動して生体管を横断方向直線状に両側から挟み付けるようにして短時間に切断することから、従来の先端に向けて一方向移動式の一枚カッターを備えたものに比べて切断時間が略半減するとともに、前記サーキュラー吻合装置のガイド細線部材を中央部に残した状態で生体管のみを効率よく切断することも可能な安定した切断機能を確保する効果がある。

【0069】

請求項23の発明によれば、請求項22の発明と同様な効果を有するのに加えて、前記切断/縫合ドライブ機構は、他方の顎内に並設された切断/縫合ドライブシャフトの前半部と後半部とに形成された左右逆ねじの雄ねじにそれぞれ螺合して相互に前後逆方向に往復移動する一対の先側及び後側ステープル駆出駒が備えられ、一対のリニアカッターはそれぞれ先側及び後側ステープル駆出駒に立設されていることから、切断/縫合ドライブ機構を簡潔かつコンパクトに構成することができる効果がある。

30

【図面の簡単な説明】

【0070】

【図1】本発明の一実施形態（実施例1）によるNOTES用外科手術システムの主要構成概念を示す概念図である。

【図2】実施例1のNOTES用外科手術システムのサーキュラー吻合装置の主要構成概念を示す透視図である。

40

【図3】図2のヘッド部の縦断面図である。

【図4】(a)は図2のアンビル部の縦断面図、(b)は(a)のP-P矢視断面図である。

【図5】図2のアンビル部とヘッド部の連結状態の縦断面図である。

【図6】図2の操作部の主要構成概念を示す縦断面図である。

【図7】図2のアンビル部とヘッド部の離脱状態の縦断面図である。

【図8】図6のE部又は図30のF部の拡大断面図である。

【図9】図2のワイヤレス内視鏡の主要構成概念を示す概念図で、(a)は側面図、(b)は内視鏡先端部の正面図である。

50

【図10】実施例1のNOTES用外科手術システムのアンビル部姿勢制御システムの主要構成概念を示すブロック図である。

【図11】実施例1のNOTES用外科手術システムのリニア切断/縫合装置の主要構成概念を示す透視図である。

【図12】図11のエンド・エフェクタの上顎部開口状態の縦断面図である。

【図13】図11のエンド・エフェクタの上顎部閉口状態の縦断面図である。

【図14】図13のA-A矢視断面図である。

【図15】図13のB-B矢視断面図である。

【図16】図13のC-C矢視断面図である。

【図17】実施例1のNOTES用外科手術システムを用いたNOTES用外科手術方法の主要手順を示すブロック図である。

【図18】本発明の実施例1の変形実施形態によるサーキュラー吻合装置のヘッド部の主要構成概念を示す縦断面図である。

【図19】図18のサーキュラー吻合装置の操作部の主要構成概念を示す縦断面図である。

【図20】本発明の別の実施形態(実施例2)のNOTES用外科手術システムの主要構成概念を示す概念図である。

【図21】実施例2のサーキュラー吻合装置の主要構成概念を示す透視図である。

【図22】(a)は図21のアンビル部の構成概念を示す縦断面図、(b)は(a)のR-R矢視断面図である。

【図23】(a)は図21のヘッド部の構成概念を示す縦断面図、(b)は(a)のQ-Q矢視断面図である。

【図24】図21の操作部の主要構成概念を示す縦断面図である。

【図25】図21のアンビル部とヘッド部の連結状態での生体管内挿入中における縦断面図である。

【図26】図25に引続き、アンビル部とヘッド部の離脱状態でリニア切断/縫合装置による生体管病変部切断及び巾着縫合後の縦断面図である。

【図27】図26に引続き、アンビル軸から套管針を有する尖頭部が、ガイド電線(モノポーラ電流通電中)に牽引されて離脱するとともにアンビル部側及びヘッド部側生体管の両方の巾着縫合部位を順次焼灼して貫通しヘッド部内後方に牽引される状態を示す縦断面図である。

【図28】図27に引続き、アンビル部がヘッド部に再連結される際に、操作部の後端部からプッシュ管内に挿入されたアンビル部連結補助具がロック部(開いた状態)及びヘッド部と共に前進し押出されてアンビル軸の後端部に接近した状態の縦断面図である。

【図29】図28に引続き、アンビル部連結補助具がプッシュ管内後方に後退するとともにロック調整管が前進してロック部が閉じ、アンビル軸の被ロック部に係合した状態の縦断面図である。

【図30】図29に引続き、ロック状態のプッシュ管を後退させ、アンビル部が所定位置まで引寄せられてヘッド部に連結した状態の縦断面図である。

【図31】(a)、(b)は、それぞれ実施例2の変形実施形態によるサーキュラー吻合装置のヘッド部、操作部の主要構成概念を示す縦断面図である。

【図32】実施例2のNOTES用外科手術システムのアンビル部姿勢制御システムの主要構成概念を示すブロック図である。

【図33】実施例2のNOTES用外科手術システムを用いたNOTES用外科手術方法の主要手順を示すブロック図である。

【図34】実施例2の別の変形実施形態のサーキュラー吻合装置のアンビル部挿入補助具の主要構成概念を示し、アンビル部との連結状態での生体管内挿入中における縦断面図である。

【図35】図34に引続き、アンビル部とアンビル部挿入補助具の離脱状態でリニア切断/縫合装置による生体管病変部切断及び巾着縫合後の縦断面図である。

10

20

30

40

50

【図36】実施例2のまた別の变形実施形態のNOTES用外科手術システムを用いたNOTES用外科手術方法の主要手順を示すブロック図である。

【図37】実施例1のまた別の变形実施形態のサーキュラー吻合装置のアンビル部とヘッド部の連結状態の縦断面図である。

【図38】実施例2のまた別の变形実施形態のサーキュラー吻合装置のロック部が開いた状態のヘッド部の縦断面図である。

【図39】従来の消化管吻合装置の一例を示す外観図である。

【図40】従来の切断/吻合装置の一例を示す外観図である。

【発明を実施するための形態】

【0071】

以下、本発明の自然開口部越管腔内視鏡手術(NOTES)用外科手術システムを最良に実施するための形態の具体例を、添付図面を参照しながら詳細に説明する。

【実施例1】

【0072】

図1は本発明の一実施形態(実施例1)のNOTES用外科手術システムの主要構成概念を示す概念図、図2は実施例1のNOTES用外科手術システムのサーキュラー吻合装置1の主要構成概念を示す透視図、図3は図2のヘッド部4の縦断面図、図4の(a)はアンビル部3の縦断面図、(b)は(a)のP-P矢視断面図、図5はアンビル部3とヘッド部4の連結状態の縦断面図、図6は図2の操作部6の主要構成概念を示す縦断面図、図7はアンビル部3とヘッド部4の離脱状態の縦断面図、図8は図6のE部の拡大断面図である。なお、ここに添付した図面はいずれもノットスケールで表現された主要構成概念を示す概念図であり、特に図3乃至5及び7は内部構造を分かり易くするため軸方向に比べて径方向を拡大して表現している。

【0073】

実施例1のNOTES用外科手術システムは、図1に示すように、生体Mの自然開口部Maから病巣部を有する生体管T内に挿入され、前記生体管病巣部が切断除去されるとともにその生体管の切断端部双方が巾着縫合された後に、その生体管の切断端部双方同士の吻合を生体管T内から行うサーキュラー吻合装置1と、別途開口された内視鏡用生体腔Mb又はMdからカニューレMcを介し挿入されて生体管T外から生体管病巣部T3を切断するとともにその生体管の切断端部双方を巾着縫合して除去するリニア切断/縫合装置500とを具備し、さらに、このNOTES用外科手術を行う際に、別途複数の内視鏡用生体腔Md又はMb等から挿入され、生体管外から観察するための複数の内視鏡600が備えられていることが望ましい。

【0074】

実施例1のサーキュラー吻合装置1は、図1、2に示すように、主軸(X軸)に沿って後方に突設されたアンビル軸34を有し先端部を構成するアンビル部3、アンビル部3に対向して生体管Tの吻合用ステープル10及びサーキュラーカッター45(図3参照)を備えたヘッド部4、及びヘッド部4に接続された長尺可撓性の支持軸部5を有する生体管内挿入本体2と、生体管内挿入本体2の後端部に接続され、アンビル軸34及びヘッド部4内にそれぞれ設けられて相互に係脱可能な被ロック部35(図4参照)、ロック部54(図3参照)を備える連結機構のロック及びロック解除操作や、吻合用ステープル10及びサーキュラーカッター45の駆出操作などを制御する操作部6とから概略構成されている。

【0075】

ヘッド部4は、図3に示すように、後端部が支持軸部5の外径と略等しくなるようにテーパ状に縮径されたヘッド外筒41と、ヘッド外筒41内の前端部に嵌入され、複数の吻合用ステープル10をそれぞれ収容するステープル収容スロット44aが2重同心円周上に穿設された(図2参照)円筒状のステープルカートリッジ44と、ステープルカートリッジ44内に同心円筒状に配置された円筒状のサーキュラーカッター45と、ヘッド外筒41の後端部側に嵌入され、前端面に吻合用ステープル10を駆出する円筒状のステー

10

20

30

40

50

ル駆出フィンガ43及びサーキュラーカッター45の後端を固設して吻合用ステーブル10及びサーキュラーカッター45を同時に主軸(X0軸)方向前方に駆出するステーブル/カッター駆出部材42と、を備えている。

【0076】

また、ヘッド部4の中央部には、操作部6から支持軸部5に至る内部中央に挿通されて(図6参照)同心円管状に配置されたプッシュ管7及び連結管53の前端部7a、53aがヘッド部4内まで併設されている。連結管53は、後端部が操作部6内に固定されている。プッシュ管7の詳細については、後述する。

【0077】

ステーブル/カッター駆出部材42は、ドライバーチューブ52の前端部に連結されており、後述する操作部6の操作によりドライバーチューブ52を介して(図6参照)前後方向に往復移動可能に連結管53の外面に遊嵌されている。このステーブル/カッター駆出部材42の前進(駆出)操作により複数の吻合用ステーブル10及びサーキュラーカッター45が同時に前方に駆出される。

10

【0078】

これらヘッド部4の上記部材は、従来の例えば前記特許文献1等に記載されたものと同様構成とすることができる。

【0079】

プッシュ管7の前端部7aには、後述するアンビル部3の後方に突設されたアンビル軸34の被ロック部35を係脱可能に捕捉してロックするロック部54が設けられている(図3、5参照)。このロック部54及びプッシュ管7の構成及び作用については後述する

20

【0080】

プッシュ管7は、前端部7aのロック部54を介して、後述する操作部6の操作によりヘッド部4側に引き寄せられたアンビル部3のアンビル軸34先端部を内部に嵌入させるとともに、反対にアンビル軸34を先端側に押し出してロック部54から離間させるように、前後方向に往復移動可能に連結管53内に遊嵌されている(図5、6参照)。

【0081】

プッシュ管7内には、操作部6から支持軸部5に至り挿通されたいずれも後述するワイヤレス内視鏡挿入部121の内視鏡先端部122がプッシュ管7の前端部7a近傍まで併設されているとともに、ガイド細線部材であるガイド電線100が挿通されている(図3乃至6参照)。このプッシュ管7内の構成はアンビル部3の構成とともに、従来の技術にない本発明の主要な特徴の一部を示す構成となっており、これらの構成及び作用については詳しく後述する。

30

【0082】

アンビル部3は、図4に示すように、円筒状のアンビル31と、アンビル31の前端部に着脱可能に装着され、先端面が小さな凸曲面状に形成された突出部を有する中空略円錐体形の先端キャップ36と、アンビル31の後端部内面に形成された溝部31aに嵌合され、サーキュラーカッター45の刃先を受け止める円筒状の裏打ちワッシャ37と、アンビル31内の後方部に主軸(X軸)に沿って突設され、套管針34bが後端部に接続されたアンビル軸34と、アンビル31内面に立設されたブラケット32に取り付けられ、後端側中央部に設けられたアンビル軸支持部33cにアンビル軸34を回転自在に支持してアンビル軸34に対する傾斜姿勢を自動制御するアンビル姿勢制御機構30と、変形可能なひだを有し、外周部が溝部31aと裏打ちワッシャ37との間に挟設され、内周部がアンビル軸支持部33c近傍のアンビル軸34に挿通固着されてアンビル部3内を密閉するフレキシブルカバー38と、を備えている。

40

【0083】

アンビル31の後端面には、前記対向するヘッド部4内のステーブルカートリッジ44の先端面の2重同心円周上に穿設された複数のステーブル収容スロット44aから駆出される複数の各吻合用ステーブル10の先端を受け止めて前記生体管Tの病巣部T3切断端部双方同士を吻合する状態に吻合用ステーブル10を成形するための複数のステーブル成

50

形溝 3 1 b がステーブル収容スロット 4 4 a に対応した 2 重同心円周上に穿設されている。

【 0 0 8 4 】

アンビル軸 3 4 の後端には、後端にモノポーラ電極部 3 4 c を有する套管針 3 4 b が絶縁体 3 4 a を介して接続されている。アンビル軸 3 4、絶縁体 3 4 a 及び套管針 3 4 b はいずれも略同径に連結され、モノポーラ電極部 3 4 c を有する套管針 3 4 b の後端部は後述する生体管巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位 (図 7 参照) を貫通し易いように尖鋭状に形成されている。この絶縁体 3 4 a 及びモノポーラ電極部 3 4 c を備える理由については、後述する。

【 0 0 8 5 】

モノポーラ電極部 3 4 c は、図 4 (a)、(b) に示すように、套管針 3 4 b の後端部外周面に軸方向に沿って狭小面積となるように適宜長の細帯状に露出し埋設されている。この細帯状のモノポーラ電極部 3 4 c の露出幅及び長さは、生体管巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位 (図 7) の管壁厚さなどの特性に適應するように設定される。

【 0 0 8 6 】

モノポーラ電極部 3 4 c が套管針 3 4 b の後端部外周面に狭小面積の細帯状に露出し埋設されていることから、モノポーラ電極部 3 4 c へのモノポーラ電流通電による生体管巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位 (図 7) の焼灼が順次軸方向に移動して行われるため焼灼効率をアップさせることができる。

【 0 0 8 7 】

また、套管針 3 4 b が連結されたアンビル軸 3 4 は、アンビル軸支持部 3 3 c に回転自在に支持されて後述する回転手段に連結され、モノポーラ電極部 3 4 c にモノポーラ電流通電する際にこの回転手段により回転される。

【 0 0 8 8 】

モノポーラ電極部 3 4 c にモノポーラ電流通電する際に、套管針 3 4 b が連結されたアンビル軸 3 4 が回転することにより、モノポーラ電極部 3 4 c へのモノポーラ電流通電による生体管巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位 (図 7) の焼灼部の焼き付きを防止してさらに一層焼灼効率をアップさせることができる。

【 0 0 8 9 】

また、絶縁体 3 4 a の前方近傍のアンビル軸 3 4 の外面には、ヘッド部 4 内のプッシュ管 7 の前端部 7 a に設けられたロック部 5 4 に係合ロックされる凸面体形状の被ロック部 3 5 が形成されている。

【 0 0 9 0 】

このロック部 5 4 及び被ロック部 3 5 からなる連結機構は、図 5、8 に示すように、前記生体管 T の病巣部 T 3 切断端部双方同士を吻合する際に、アンビル部 3 をヘッド部 4 に対面状態に後述する所定のギャップ E を有して連結保持する機能、及びヘッド部 4 内のステーブルカートリッジ 4 4 先端面の複数のステーブル収容スロット 4 4 a とアンビル 3 1 後端面の複数のステーブル成形溝 3 1 b とが相互に正対するようにアンビル部 3 とヘッド部 4 の主軸 (X 及び X 0 軸) 回りの位置決め機能を備えることが必要である。

【 0 0 9 1 】

このため、連結機構は、従来の例えば前記特許文献 1 等に記載された種々の実施の形態と同様の構成とすることができるが、この実施の形態では一例として、相互に主軸 (X、X 0 軸) 周りの回転が拘束されて主軸方向に移動自在に摺接するスプライン機構が形成されている。すなわち、ロック部 5 4 の凹面体形状例えば円筒状内面には凹状スプライン溝 (雌スプライン歯) 5 4 a が、被ロック部 3 5 の凸面体形状例えば円筒状外面には凸状スプライン歯 (雄スプライン歯) 3 5 a が相互に係合 (歯合) するように形成され、これにより、ヘッド部 4 内のステーブルカートリッジ 4 4 のステーブル収容スロット 4 4 a とアンビル 3 1 のステーブル成形溝 3 1 b とが相互に正対するようにアンビル部 3 とヘッド部 4 の主軸 (X 及び X 0 軸) 回りの位置決めが規定される。

【 0 0 9 2 】

なお、被ロック部 3 5 及びロック部 5 4 のそれぞれ前後両端段差部の外周角部はカットされ、後述する生体管 T の巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位の焼灼開口部を貫通し易いとともに、被ロック部 3 5 がロック部 5 4 内に嵌入して係合し易いように、滑らかな傾斜面 3 5 b、5 4 b を有している。

【 0 0 9 3 】

また、ロック部 5 4 は、例えば電圧を印加することにより収縮する性状を有する電場応答性高分子 (EAP: Electroactive Polymer) 材料から構成することができる。この場合、ロック部 5 4 は、電圧を印加することにより収縮して被ロック部 3 5 を緊迫保持してロックし、電圧を遮断することにより被ロック部 3 5 の緊迫ロックを解除する。

10

【 0 0 9 4 】

誘電エラストマーである EAP 材料を強い電場の中に置くと、電場の方向に収縮し、電場と垂直な方向には膨張する。この変形力は「マクスウェル応力」と呼ばれている。例えば、いずれも図示しないが、帯電した 2 枚の電極板の間に EAP 誘電体を挟み、ゴムのような弾性を持つコンデンサー様の部材とし、これに電圧をかけると、一方の電極にはプラスの電荷が、反対側の電極にはマイナスの電荷が蓄えられる。電極間に引力が生じ、この力によって EAP 誘電体が押しつぶされ、面方向に膨張する特性を利用することができる。このような EAP 材料は、例えば、米国のアーティフィシャル・マッスル・インコーポレーテッド (Artificial Muscle Inc、)、サンタ・フェ・サイエンス・アンド・テクノロジー (Santa Fe Science and Technology) や日本のイーメックス株式会社などにより製造あるいは販売されている。

20

【 0 0 9 5 】

アンビル軸 3 4 の後端に連結された套管針 3 4 b 後端部のモノポーラ電極部 3 4 c には、操作部 6 からヘッド部 4 に至りプッシュ管 7 内を経て挿通されたガイド細線部材であるガイド電線 1 0 0 が連結されている。このガイド電線 1 0 0 は、前記生体管 T の病巣部 T 3 切断端部双方同士を吻合する際に、ガイド電線 1 0 0 を巻取ることにより離間したアンビル部 3 をヘッド部 4 に引き寄せせる機能と、この引き寄せ (ガイド電線 1 0 0 巻取り) を継続してアンビル部 3 をヘッド部 4 に連結 / ロックした状態に保持する機能及びガイド電線 1 0 0 解放によるアンビル部 3 とヘッド部 4 との離間及びロック解除が可能となる補助機能と、アンビル軸 3 4 が前記アンビル部側及びヘッド部側生体管 T 1、T 2 双方の巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位を貫通してヘッド部 4 側に牽引されるようにモノポーラ電極部 3 4 c にモノポーラ電流を通電することにより前記アンビル部側及びヘッド部側生体管 T 1、T 2 双方の巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位を順次焼灼して套管針 3 4 b の挿通による焼灼開口部を形成する機能との 3 つの機能を有する。絶縁体 3 4 a は、アンビル軸 3 4 からアンビル部 3 側へのモノポーラ電流の通電を遮断する。

30

【 0 0 9 6 】

このアンビル部 3 及びヘッド部 4 の連結 / ロック時のガイド電線 1 0 0 巻取り保持 / 解放により、前記 EAP 材料等によるアンビル部 3 及びヘッド部 4 の緊迫ロック / ロック解除機構を省略することもできる。

【 0 0 9 7 】

アンビル姿勢制御機構 3 0 は、アンビル軸 3 4 の主軸すなわち X 軸に対して直交する 2 軸 Y、Z 軸回りにそれぞれ揺動自在な 2 軸揺動機構 3 3 と、アンビル軸支持部 3 3 c に設けられた Y 軸及び Z 軸回り角度センサー 3 0 5、3 0 6 と、2 軸揺動機構 3 3 を Y 軸及び Z 軸回りに駆動する駆動手段と、を備えている。

40

【 0 0 9 8 】

この実施例 1 における 2 軸揺動機構 3 3 は、アンビル 3 1 内面のブラケット 3 2 に固定される第 1 の枠体 3 3 f に Y 軸回りに揺動自在な第 2 の枠体 3 3 b が設けられ、この第 2 の枠体 3 3 b に Z 軸回りに揺動自在なアンビル軸支持部 3 3 c が設けられたジンバル機構からなる。

【 0 0 9 9 】

50

アンビル軸 3 4 は、図 4 に示すように、アンビル軸支持部 3 3 c 内に挿通されて回転自在に支持され、先端部が前記回転手段であるアンビル軸回転モータ 3 0 7 の回転軸に連結されている。この場合、第 1 の枠体 3 3 f の X 軸回り中心部には、アンビル軸回転モータ 3 0 7 を干渉しないように挿通する非干渉孔 3 3 e が開口されている。

【 0 1 0 0 】

また、前記駆動手段は、第 2 の枠体 3 3 b を Y 軸回りに駆動制御する Y 軸サーボモータ 3 0 0 及びアンビル軸支持部 3 3 c を Z 軸回りに駆動制御する Z 軸サーボモータ 3 0 1 から構成することができる。これにより、アンビル軸 3 4 の傾斜姿勢を高精度に素早く自動制御することができる。

【 0 1 0 1 】

さらに、アンビル部 3 内には、Y、Z 軸サーボモータ 3 0 0、3 0 1 及び Y、Z 軸回り角度センサー 3 0 5、3 0 6 用の電源となる電池 3 0 2 と、これらの制御信号を操作部 6 とワイヤレスで遣り取りするワイヤレス送受信器 3 0 3 が備えられている。

【 0 1 0 2 】

サーキュラー吻合装置 1 の支持軸部 5 は、図 2、3、6 に示すように、前端部がヘッド部 4 のヘッド外筒 4 1 に連結され、後端部が操作部 6 の操作部筐体 6 1 に連結された外管 5 1 と、外管 5 1 の内部に順次同心円状に挿通されて併設された前記ドライバーチューブ 5 2、連結管 5 3 及びプッシュ管 7 とから構成され、プッシュ管 7 内には前記ワイヤレス内視鏡挿入管部 1 2 1 及びガイド電線 1 0 0 が挿通されている。これら支持軸部 5 を構成あるいは内部を挿通する部材は、いずれも可撓性材料からなっており、従来のサーキュラー吻合装置や内視鏡などの医療用機器に用いられている部材を適用することができる。

【 0 1 0 3 】

サーキュラー吻合装置 1 の操作部 6 は、図 6 に示すように、前端部に支持軸部 5 の外管 5 1 が連結された略円筒型の操作部筐体 6 1、プッシュ管 7 を前進 / 後退させるプッシュ管駆動機構 6 4、吻合用ステープル 1 0 及びサーキュラーカッター 4 5 を駆出させるステープル / カッター駆出機構 6 6 を備えている。この実施例 1 では、プッシュ管駆動機構 6 4 及びステープル / カッター駆出機構 6 6 はいずれも電動式で、従来の特許文献 1 等のサーキュラー吻合装置の手動式の調節用ノブ機構及びステープル / カッター駆出ハンドル機構とは異なっている。

【 0 1 0 4 】

プッシュ管駆動機構 6 4 は、主に、中央内部に挿通され前後軸方向に摺動自在に併設されたプッシュ管 7 の後端と U 字型クリップ 7 6 を介して連結された雄ねじ軸 7 2 と、操作部筐体 6 1 の後端部に固設されたプッシュ管駆動モータ 9 0 と、前端部が操作部筐体 6 1 内面に立設されたブラケット 6 1 b に回転自在に支持されるとともに中空内部前端側に形成された雌ねじ部 6 2 b が雄ねじ軸 7 2 に螺合され、雄ねじ軸 7 2 が遊嵌し挿通する中空内部後端側のモータ軸連結孔 6 2 a にプッシュ管駆動モータ 9 0 の回転軸 9 0 a が嵌合連結された回転ナット 6 2 と、から構成されている。

【 0 1 0 5 】

プッシュ管駆動モータ 9 0 に駆動される回転ナット 6 2 の正 / 逆回転により、回転ナット 6 2 に螺合された雄ねじ軸 7 2 の前 / 後軸方向の推進力でプッシュ管 7 が前 / 後進する。この際、側面に回転止めねじ 7 8 が挿通された U 字型クリップ 7 6 により、プッシュ管 7 の軸回り回転が規制されている。プッシュ管 7 に連結された雄ねじ軸 7 2 は、通常は図 6 に示すように、退避位置に後退している。

【 0 1 0 6 】

なお、プッシュ管 7 の前進 / 後退と連動して指示器窓 6 1 d の図示しない目盛に沿って前後に傾動し、ステープル / カッター駆出部材 4 2 の所定駆出ストロークを示す指示器やステープル / カッター駆出機構 6 6 の誤作動防止用の安全機構等の小部材は、従来の種々の実施形態のサーキュラー吻合装置と同様に構成できるためここでは図示及び詳細な説明を省略している。前記安全機構は、アンビル部 3 がヘッド部 4 に対し所定ギャップ E (図 8 参照) を有して連結 / ロックされると、指示器と係合して指示器を指示器窓 6 1 d の図

10

20

30

40

50

示さない目盛に沿って後方に傾動し、ステーブル/カッター駆出部材 4 2 の所定駆出ストロークを示す。

【 0 1 0 7 】

前記アンビル部 3 及びヘッド部 4 のロック時における両者の間の所定ギャップ E は、図 8 に示すように、アンビル部 3 側の生体管 T 1 及びヘッド部 4 側の生体管 T 2 の生体管壁厚さを加えた値に略等しい。

【 0 1 0 8 】

ステーブル/カッター駆出機構 6 6 は、外周に雄ねじ 5 2 b が形成され、連結管 5 3 が内部に遊嵌/挿通してステーブル/カッター駆出部材 4 2 を前方に押し出すドライバチューブ 5 2 の後端部に連結された雄ねじチューブ 5 2 a と、外周前半部に外歯 6 5 a が形成されるとともに中空前半部に雌ねじ 6 5 b が形成されて雄ねじチューブ 5 2 a に螺合し、中空後半部 6 5 c が連結管 5 3 に回転自在に吻合し支持された外歯付回転ナット 6 5 と、操作部筐体 6 1 の前端下部開口部 6 1 c に固設されたステーブル/カッター駆出モータ 9 1 と、先端部に雄ねじチューブ 5 2 a の外歯 6 5 a と歯合するピニオン 6 3 a が形成され、後端部がステーブル/カッター駆出モータ 9 1 の回転軸に連結されたステーブル/カッタードライブシャフト 6 3 と、から構成されている。

【 0 1 0 9 】

ドライバチューブ 5 2 に連結された雄ねじチューブ 5 2 a は、通常は図 6 に示すように、退避位置に後退している。ステーブル/カッター駆出モータ 9 1 に駆動される外歯付回転ナット 6 5 の正/逆回転により、外歯付回転ナット 6 5 に螺合された雄ねじチューブ 5 2 a の前/後軸方向の推進力を受けたドライバチューブ 5 2 が前/後進する。この際、例えば連結管 5 3 とプッシュ管 7 との間に設けられた図示しないキー/ガイド溝機構により、プッシュ管 7 の軸回り回転が規制されている。

【 0 1 1 0 】

この実施例 1 では、さらに、操作部 6 の内部に、アンビル軸 3 4 の套管針 3 4 b 後端部のモノポーラ電極部 3 4 c に連結され、ヘッド部 4 からプッシュ管 7 内に至り挿通されてプッシュ管 7 の後端下部に開口された一对のローラ付きガイド口部 7 g から引き出されたガイド電線 1 0 0 を図示しないモータにより巻き取りあるいは逆に解放する巻き取り装置 1 1 0、及びヘッド部 4 からプッシュ管 7 内に至り挿通されてプッシュ管 7 の後端上部に開口された一对のローラ付きガイド口部 7 b から U 字状に屈曲されて引き出された挿入管部 1 2 1 とその後端に連結されたワイヤレス内視鏡ユニット 1 3 0 とを有するワイヤレス内視鏡 1 2 0 を備えている。

【 0 1 1 1 】

前記従来の安全機構及び指示器等による機械的制御構成に換えて、アンビル部 3 に直結するガイド電線 1 0 0 の出入り量を例えば巻き取り装置 1 1 0 の巻き取り量検出センサー（図示しない）などで捕らえることによりアンビル部 3 とヘッド部 4 との間の所定ギャップ E 及び吻合用ステーブル 1 0 の所定ストロークを表示させることやステーブル/カッター駆出モータ 9 1 などのモータ駆動インターロックによる安全電子制御構成とすることもできる。この実施の変形実施形態によれば、従来の安全機構及び指示器等による複雑な機械的制御構成を省き、操作部 6 の構成を簡略化できる。

【 0 1 1 2 】

図 9 は、ワイヤレス内視鏡 1 2 0 の主要構成概念を示す概念図で、(a) は側面図、(b) は内視鏡先端部 1 2 2 の正面図である。

【 0 1 1 3 】

この実施例 1 のワイヤレス内視鏡 1 2 0 は、先端部に内視鏡先端部 1 2 2 を有するフレキシブルな挿入管部 1 2 1 と、挿入管部 1 2 1 の後端に連結されたワイヤレス内視鏡ユニット 1 3 0 とからなり、従来の例えば特表 2 0 0 4 - 5 2 4 0 7 6 号公報等に記載のものと同様に構成することができる。このため、詳細な説明は省略する。

【 0 1 1 4 】

内視鏡先端部 1 2 2 は、図 9 (a)、(b) に示すように、先端面に、例えば画像形成

状態を最適化するのに好適な楕円形状などの凸曲面状に形成されて挿入管部に装着された光学窓124と、中央部に配置されたCMOS撮像装置125と、CMOS撮像装置125の周辺部に複数(図示では4個)等配された発光ダイオード(LED)126と、下端周縁部に例えばエアや洗浄水供給あるいは血液や水分等吸引用のユーティリティーチャンネル127を備えたユーティリティーチャンネル部121aとを備えている。

【0115】

また、内視鏡先端部122の内部には、ワイヤレス内視鏡ユニット130と制御及び画像信号等を遣り取りするワイヤレス送受信器131と、CMOS撮像装置125及びワイヤレス送受信器131の電源用の電池132とを備えている。

【0116】

この実施例1では、低電力構成要素の発光ダイオード(LED)126及びCMOS撮像装置125を用いることにより、電源用の電池132を用いることが可能となっている。CMOSは、CCDに比べて低消費電力及びシステムオンチップの点で有利である。

【0117】

ワイヤレス内視鏡ユニット130内には、いずれも図示しないエア/洗浄水供給源、エア/洗浄水供給/血液や水分等吸引用のユーティリティー制御装置、内視鏡先端部122を動かすための制御ノブ及びこれらの制御信号を操作部6と遣り取りするためのワイヤレス送受信器等を備えている。

【0118】

CMOS撮像装置125からの画像データなどの信号は、種々のデジタル又はアナログ変調技術の例えばマイクロ波又は無線周波数を使用しワイヤレス送受信器131を介して操作部6のワイヤレス送受信器(図示しない)に送信される。例えば、無線チャンネルによるデジタル画像の送信には、FSK(周波数偏移変調)変調技術を使用することができる。画像形成ユニットのいくつかの構成要素、例えば画像センサー及び照射源は、単回使用の電池操作ユニットである。このようなワイヤレス内視鏡120は、通常ワイヤ式内視鏡よりも一層操作性が優れるという利点がある。

【0119】

操作部筐体61の上部には、図1に概念的に示すように、少なくとも内視鏡画像モニター、アンビル軸角度モニター、プッシュ管駆動モータ運転LED(プッシュ管駆動モータ90運転表示灯)、ステーブル/カッター駆動モータ運転LED、内視鏡ON/OFF SW(ワイヤレス内視鏡120の運転用スイッチ)、ガイド電線解放/巻取りSW(巻取り装置110のガイド電線100解放/巻取りスイッチ)、モノポーラON/OFF SW(モノポーラ電流ON/OFFスイッチ)、アンビル軸回転/停止SW、X軸サーボモータ運転LED、Y軸サーボモータ運転LED、アンビル軸回転モータ運転LED、アンビル軸姿勢制御ON/OFF SW、プッシュ管前進・後退SW、ステーブル/カッター駆出/後退SW、さらに図示しないが、アンビル部3及びワイヤレス内視鏡120内のワイヤレス送受信器303、131等と制御及び画像信号等を遣り取りするワイヤレス送受信器及び電池などを備える操作ユニット140が設けられている。

【0120】

この操作ユニット140の上記構成によるワイヤレス操作によって、後述するサーキュラー吻合装置1の操作が行われる。

【0121】

図10は、実施例1のNOTES用外科手術システムのアンビル部姿勢制御システムの主要構成概念を示すブロック図である。

【0122】

この実施例1のアンビル部姿勢制御システムは、ヘッド部4内に設けられ、ヘッド部4の主軸X0軸に直交する2軸Y0軸、Z0軸回り角度センサー401、402及びこれら角度センサー401、402の出力をワイヤレス送信するヘッド部側送受信器403と、アンビル部3内に設けられ、ヘッド部側送受信器403からY0、Z0軸回り角度センサー401、402の出力を受信するアンビル部側送受信器303と、アンビル姿勢制御機

10

20

30

40

50

構 30 の Y、Z 軸回り角度センサー 305、306 の出力とアンビル部側送受信器 303 からの Y0、Z0 軸回り角度センサー 401、402 の出力とが入力されてそれぞれの角度データを検出する角度検出部 311、及び角度検出部 311 からの角度データに基づいて第 2 の枠体 33b 及びアンビル軸 34 のそれぞれの回転角度指標値を算出する指令算出部 312 を有し、それらの回転角度指標値を基にする第 2 の枠体 33b 及びアンビル軸 34 の角度指令値を生成する角度指令生成部 310 と、角度指令生成部 310 からの角度指令値に基づき、Y、Z 軸サーボモータ 300、301 に対して個別にサーボ制御を行う Y、Z 軸制御部 321、322 を有する駆動制御部 320 と、を有する。

【0123】

ヘッド部 4 から離間して生体 M (図 1 参照) 内で定まらない姿勢すなわちヘッド部 4 に対し傾斜状態で浮遊しているアンビル部 3 をガイド電線 100 により牽引してヘッド部 4 に連結する場合、前記アンビル姿勢制御システムにより、アンビル部 3 の套管針 34b 後端部がガイド電線 100 により牽引されてアンビル軸 34 の被ロック部 35 をロックするアンビル軸連結部であるロック部 54 内又はロック部 54 の後端部が連結するプッシュ管 7 前端部 7a 近傍内に当接した状態の套管針 34b の後端部を基点 (一時的固定点) として、その時点のヘッド部 4 の Y0、Z0 軸回り角度センサー 401、402 からの角度データに略一致するようにアンビル軸 34 の目標角度が与えられてアンビル部 3 の姿勢が自動制御される。そして、アンビル軸 34 の主軸 X 軸とヘッド部 4 の主軸 X0 軸とが略一致すると、図 5 に示すように、アンビル軸 34 はプッシュ管 7 内に容易に嵌合してアンビル部 3 とヘッド部 4 との連結 / ロック状態とすることができる。

【0124】

以上記したように、本発明のサーキュラー吻合装置 1 は、前記ワイヤレス制御によりアンビル軸 34 に対するアンビル部 3 の姿勢制御を行うアンビル姿勢制御機構 30、套管針 34b 後端部のモノポーラ電極部 34c、モノポーラ電極部 34c に連結されたガイド電線 100 及びその巻取り装置 110、プッシュ管 7 を前後軸方向に移動させてアンビル部 3 を前方に押し込みヘッド部 4 から離脱させるなどプッシュ管 7 の前進 / 後退を行うプッシュ管駆動モータ 90、吻合用ステープル 10 及びサーキュラーカッター 45 を前進 / 後退させるステープル / カッター駆出機構 66、ヘッド部 4 内のプッシュ管 7 の前端部まで挿通されたワイヤレス内視鏡 120 等を備え、全てワイヤレス電子制御化されている点がある。これら構成の作用については、さらに詳しく後述する。

【0125】

図 11 は本発明の一実施の形態 (実施例 1) による NOTES 用外科手術システムのリニア切断 / 縫合装置 500 の主要構成概念を示す透視図、図 12 は図 11 のエンド・エフェクタ 503 の上顎部 504 開口状態の縦断面図、図 13 はエンド・エフェクタ 503 の上顎部 504 閉口状態の縦断面図、図 14 は図 13 の A - A 矢視断面図、図 15 は図 13 の B - B 矢視断面図、図 16 は図 13 の C - C 矢視断面図である。

【0126】

本発明の実施例 1 のリニア切断 / 縫合装置 500 は、図 1、11 に示すように、先端側から、開閉可能な上顎 504、上顎 504 に対向して生体管 T の縫合用ステープル 511 と先端側及び後端側の両方向から中間部に向けてそれぞれ往復移動可能な一対のリニアカッター 558、559 (図 12、13 参照) とを備えた下顎 505 を有するエンド・エフェクタ 503、及びエンド・エフェクタ 503 に接続された長尺可撓性の支持軸部 506 を有する生体腔内挿入本体 501 と、支持軸部 506 に接続されて前記縫合用ステープル及びリニアカッターの駆出操作を制御する操作部 602 とから概略構成されている。

【0127】

本発明のリニア切断 / 縫合装置 500 は、特に一対のリニアカッター 558、559 及びこれらを駆動するための後述する切断 / 縫合ドライブ機構 520 (図 12 参照) が従来の例えば前記特許文献 2 等に記載されたりニア切断 / 縫合装置とは異なる主要な特徴点であり、この点を除く上記の構成部材は従来の種々の実施形態のリニア切断 / 縫合装置と同

10

20

30

40

50

様の構成とすることができる。

【0128】

実施例1の下顎505は、例えば図12に示すように、後端部550bが直立した略逆向きL字状に形成された平面長方形(図16参照)の下顎本体550と、下顎本体550の上顎504との対向面である上面に着脱自在に嵌装され、複数の縫合用ステーブル511が長手方向直線状に收容されたステーブルカートリッジ510と、ステーブルカートリッジ510の下面側に対向して穿設されたチャンネル551内に設けられ、一对のリニアカッター558、559を相互に前後逆方向に往復移動する切断/縫合ドライブ機構520と、を備えている。

【0129】

後端部550bの直立部には、前端面に穿設され、上顎504の後端部を係合/支持して上下方向にスライドさせる蟻溝型スライド溝550a(図15参照)及び前後方向に穿設された上部軸支持穴552内に回転自在に挿通された上顎開閉ドライブシャフト554が設けられている。

【0130】

ステーブルカートリッジ510には、複数の縫合用ステーブル511をそれぞれ收容する複数のステーブル收容スロット512が上下方向に貫通して2列直線上に穿設されている(図11参照)。

【0131】

切断/縫合ドライブ機構520は、図12乃至14、16に示すように、下顎505のチャンネル551下部の長手方向に穿設された下部軸支持穴553内に回転自在に並設され、前半部と後半部とに左右いずれか逆ねじの雄ねじ555a、555bが形成された切断/縫合ドライブシャフト555と、切断/縫合ドライブシャフト555の左右逆ねじの雄ねじ555a、555bにそれぞれ螺合してチャンネル551内を相互に前後逆方向に往復移動することにより複数の縫合用ステーブル511を順次駆出するための楔機能を有する傾斜面556a、557aが形成された先側ステーブル駆出駒556及び後側ステーブル駆出駒557と、からなっている。

【0132】

一对のリニアカッター558、559は、共にステーブルカートリッジ510の左右いずれか一方の側面に沿って近接通過するように配置され、図12、13に示すように、それぞれ先側ステーブル駆出駒556及び後側ステーブル駆出駒557上に載置され、双方の刃先が対向するように配置されて上顎504側に向け立設されている。リニアカッター558、559の上部先端刃先には、それぞれ凹状切欠き部558a、559aが形成されている。この凹状切欠き部558a、559aは、前記サーキュラー吻合装置1のガイド電線100を切らずに生体管T(図1参照)のみを切断するための逃げ機能を有する。

【0133】

また、一对のリニアカッター558、559の上部先端刃先は、図13に示す切断/縫合ドライブシャフト555の中央部555cで合致するとき、鋏の刃と同様なずれ違い重合するように構成することが望ましい。これにより、生体管T(図1)の切断が有効に行われる。この際にも、凹状切欠き部558a、559aは、サーキュラー吻合装置1のガイド電線100を切らずに生体管Tのみを切断するための逃げ機能を保持するように形成される。

【0134】

上顎開閉ドライブシャフト554及び切断/縫合ドライブシャフト555は、それぞれ後端部にカップリング561、563を介して操作部602の後述するモータにより駆動され、支持軸部506内に挿通されたフレキシブル駆動シャフト560、562と連結されている。

【0135】

上顎504は、従来の種々のリニア切断/縫合装置と同様の構成とすることができるが、この実施例1では、図12、15に示すように、下顎505に対応する平面長方形の上

10

20

30

40

50

顎本体 5 4 0 と、上顎本体 5 4 0 の下面に下顎 5 0 5 のステーブルカートリッジ 5 1 0 と対向するように配置されたステーブルガイド 5 4 4 と、上顎本体 5 4 0 の後端部に穿設された略長方形の溝部 5 4 1 に設けられ、上顎 5 0 4 を上下方向に開閉する上顎開閉機構 5 3 0 と、を備えている。上顎本体 5 4 0 の後端面には、下顎本体 5 5 0 の後端部 5 5 0 b 直立部の蟻溝型スライド溝 5 5 0 a にスライド自在に係合して支持される蟻溝型スライド溝 5 4 2 が形成されている。

【 0 1 3 6 】

ステーブルガイド 5 4 4 の下面には、対向するステーブルカートリッジ 5 1 0 の複数のステーブル収容スロット 5 1 2 (図 1 1 参照) から駆出される縫合用ステーブル 5 1 1 の先端を受け止めて生体管 T (図 1 参照) の病巣部 T 3 断端部を縫合して閉鎖する状態に縫合用ステーブル 5 1 1 を形成するための複数のステーブル成形溝 5 4 4 a が、ステーブルカートリッジ 5 1 0 のステーブル収容スロット 5 1 2 (図示 1 1) に対応して 2 列直線上に穿設されている。

10

【 0 1 3 7 】

上顎開閉機構 5 3 0 は、従来のリニア切断 / 縫合装置とは異なり、例えば図 1 2 乃至 1 5 に示すように、上顎本体 5 4 0 の溝部 5 4 1 の一方の側面に形成されたラック 5 4 3 と、先端部にラック 5 4 3 と歯合するピニオン 5 5 4 a が形成された上顎開閉ドライブシャフト 5 5 4 と、下顎本体 5 5 0 の蟻溝型スライド溝 5 5 0 a にスライド自在に係合 / 支持される上顎本体 5 4 0 の蟻溝型スライド溝 5 4 2 と、からなっている。上顎開閉ドライブシャフト 5 5 4 が正逆回転してピニオン 5 5 4 a に歯合するラック 5 4 3 を介し上顎本体 5 4 0 を上下方向にスライドさせることにより、上顎 5 0 4 が下顎 5 0 5 に対して開閉する。

20

【 0 1 3 8 】

次に、上記した本発明のサーキュラー吻合装置 1 及びリニア切断 / 縫合装置 5 0 0 を有する NOTES 用外科手術システムを用い、生体管 T 例えば腸管の病巣部 T 3 を切除してその生体管の切断端部双方同士を吻合する NOTES 用外科手術方法について、図 1 乃至 1 7 を参照し説明する。

【 0 1 3 9 】

図 1 7 は、本発明の一実施形態 (実施例 1) の NOTES 用外科手術システムを用いた NOTES 用外科手術方法の主要手順を示すブロック図である。

30

【 0 1 4 0 】

生体 M 例えば人の生体管 T として腸管を例にした場合の実施例 1 の NOTES 用外科手術方法は、次のような主な段階を有する。

【 0 1 4 1 】

まず、各種診断により特定された腸管 T の病巣部 T 3 を外部から内視鏡 6 0 0 を用いて観察するための適宜複数個の内視鏡用腹腔 M b、M d を腹部に開口する (内視鏡用腹腔施術段階 1 S) 。

【 0 1 4 2 】

内視鏡用腹腔 M d、M b からカニューレ M c を介し内視鏡 6 0 0 を挿入して腸管 T の病巣部 T 3 を外部から確認する (外部病巣部確認段階 2 S) 。これ以降の各段階においても、詳細な説明は省略するが、引き続きこの内視鏡 6 0 0 により、さらにサーキュラー吻合装置 1 及びリニア切断 / 縫合装置 5 0 0 の各操作ユニット 1 4 0、5 0 9 の各種のモニター及び運転表示灯 L E D を介して注意深く腸管 T の内部から観察 / 確認しながら慎重に外科手術が行われる。

40

【 0 1 4 3 】

前記外部病巣部確認 2 S 後、サーキュラー吻合装置 1 のアンビル部 3 がヘッド部 4 に連結された状態の生体管内挿入本体 2 を人体 M の自然開口部である例えば肛門 M a から腸管 T 内の病巣部 T 3 を先端のアンビル部 3 が十分通過するまで挿入する (サークュラー吻合装置挿入段階 1 1 S) 。このとき、図 1 に示すように、アンビル部 3 は、套管針 3 4 b 後端部のモノポーラ電極部 3 4 c (図 4) が腸管病巣部 T 3 の先端側近傍位置 C 1 を通過し

50

た腸管 T 1 内まで挿入される。

【 0 1 4 4 】

次に、腸管 T 1 内まで挿入されたアンビル部 3 を内視鏡 6 0 0 の図示しない先端処置具により位置ずれしないように保持して、サーキュラー吻合装置 1 の操作部 6 の巻取り装置 1 1 0 の解放操作によりガイド電線 1 0 0 を解放するとともにプッシュ管駆動モータ 9 0 の前進操作によりプッシュ管 7 を前進させてアンビル軸 3 4 の連結機構を介してアンビル部 3 を前方に押出すことによりヘッド部 4 から離間させて前記腸管 T 1 内に残置した状態で、引き続きヘッド部 4 側の生体管内挿入本体 2 を徐々に引き抜き、ヘッド部 4 の前端面が腸管病巣部 T 3 の後端側近傍位置 C 2 を通過した腸管 T 1 内まで後退させる（アンビル部離間段階 1 2 S）。この際に、プッシュ管駆動モータ 9 0 の後退操作によりアンビル軸 3 4 とのロック解除（被ロック部 3 5 からロック部 5 4 が係合解除され離脱）を行ってプッシュ管 7 を退避位置（図 5、図 6 参照）まで後退させる。このアンビル部離間操作は、腸管 T の外部から内視鏡 6 0 0 により観察 / 確認するとともに、内視鏡先端部 1 2 2 がサーキュラー吻合装置 1 のヘッド部 4 内まで挿通されたワイヤレス内視鏡 1 2 0 により腸管 T の内部からも観察 / 確認する。

10

【 0 1 4 5 】

前記アンビル部離間が内視鏡 6 0 0 及びワイヤレス内視鏡 1 2 0 により確認した後、内視鏡用腹腔 M b 又は M d からカニユーレ M c を介してリニア切断 / 縫合装置 5 0 0 のエンド・エフェクタ 5 0 3 が閉口された状態の生体腔内挿入本体 5 0 1 を前記腸管病巣部 T 3 の近傍まで挿入する（リニア切断 / 縫合装置挿入段階 2 1 S）。

20

【 0 1 4 6 】

なお、前記アンビル部離間段階 1 2 S で、リニア切断 / 縫合装置 5 0 0 のエンド・エフェクタ 5 0 3 により、腸管 T 1 内に挿入されたアンビル部 3 を腸管 T 1 ごと外側から把持した状態で、ヘッド部 4 側の生体管内挿入本体 2 を引き抜き腸管 T 1 の C 2 位置まで後退させることもできる。これにより、アンビル部 3 を腸管病巣部 T 3 の前端側近傍位置 C 1 に保持した状態で、ヘッド部 4 を病巣部 T 3 の後端側近傍位置 C 2 に正確に離間することができる。

【 0 1 4 7 】

引き続き、リニア切断 / 縫合装置 5 0 0 の操作部 6 0 2 の顎開閉モータ 5 0 7 を駆動操作しエンド・エフェクタ 5 0 3 の上顎 5 0 4 を開口して前記腸管病巣部 T 3 の前端側又は後端側近傍位置 C 1、C 2 のいずれか一方を把持するように顎開閉モータ 5 0 7 を駆動操作しエンド・エフェクタ 5 0 3 の上顎 5 0 4 を閉口させる（腸管病巣部端部把持段階 2 2 S）。この際、エンド・エフェクタ 5 0 3 が上下顎 5 0 4、5 0 5 の開口部の長手方向中央部（切断 / 縫合ドライブシャフト 5 5 5 の中央部 5 5 5 c に相当する）が前記 C 1 又は C 2 部の腸管 T 3 の中心軸に略一致する状態で把持していることを内視鏡 6 0 0 により腸管 T 3 の外部から確認する。

30

【 0 1 4 8 】

前記腸管病巣部端部把持を内視鏡 6 0 0 により確認した後、操作部 6 0 2 の切断 / 縫合モータ 5 0 8 を駆動操作しエンド・エフェクタ 5 0 3 の下顎 5 0 5 内の一对の先側ステーブル駆出駒 5 5 6 及び先側リニアカッター 5 5 8 と後側ステーブル駆出駒 5 5 7 及び後側リニアカッター 5 5 9 とをそれぞれ前後逆方向からエンド・エフェクタ 5 0 3 の開口部の中央部まで相互に接近する方向に移動することにより、図 7 に示すように、複数の縫合用ステーブル 5 1 1 を前後両端から順次駆出して前記サーキュラー吻合装置 1 のガイド電線 1 0 0 を包み込むように腸管病巣部 T 3 の C 1、C 2 部のいずれか一方を横断方向直線状に巾着縫合する（以下、巾着縫合部 T 1 a 又は T 2 a という）と同時に、中間部にそれぞれ前記逃げ用凹状切欠き部 5 5 8 a、5 5 9 a を有するリニアカッター 5 5 8 及び 5 5 9（図 1 2、1 3 参照）によりサーキュラー吻合装置 1 のガイド電線 1 0 0 を切らずに腸管病巣部 T 3 のみを横断方向に前後両側から挟むように直線状に切断する（腸管病巣部一端切断 / 縫合段階 2 3 S）。

40

【 0 1 4 9 】

50

引き続き、腸管病巣部 T 3 の C 1、C 2 部位の他方を前記腸管病巣部端部把持段階 2 2 S 及び腸管病巣部一方端切断 / 縫合段階 2 3 S と全く同様の手順により横断方向直線状に切断し巾着縫合して閉鎖する（腸管病巣部他方端切断 / 縫合段階 2 4 S）。

【 0 1 5 0 】

前記腸管病巣部一方端及び他方端切断 / 縫合段階 2 3 S、2 4 S において、各縫合用ステーブル 5 1 1 は上顎 5 0 4 のステーブルガイド 5 4 4 下面のステーブル成形溝 5 4 4 a と先側、後側ステーブル駆出駒 5 5 6、5 5 7 との間で押圧されて前記腸管 T 1 の C 1 又は T 3 の C 2 部位のいずれか一方の腸管 T 1 又は T 3 を横断方向直線状に縫合する状態に成形され、一對の前後側リニアカッター 5 5 8、5 5 9 の各刃先は腸管病巣部 T 3 の C 1（腸管 T 1 側）、C 2（腸管 T 2 側）部位のいずれか一方を前後から挟み込むようにして横断方向直線状に切断する。一對のリニアカッター 5 5 8、5 5 9 は、共にステーブルカートリッジ 5 1 0 の左右いずれか一方の側面に沿って通過するように配置されているため、C 1、C 2 部に対して腸管病巣部 T 3 側に一對のリニアカッター 5 5 8、5 5 9 が位置するようにエンド・エフェクタ 5 0 3 の上下方向の向きを合せるように逆向きにしてそれぞれ腸管病巣部一方端及び他方端の切断 / 縫合を行う。

10

【 0 1 5 1 】

このとき、前記両端を切断された腸管病巣部 T 3 は、エンド・エフェクタ 5 0 3 の上顎 5 0 4 と下顎 5 0 5 との間に把持された状態となる。また、サーキュラー吻合装置 1 のガイド電線 1 0 0 は、一對のリニアカッター 5 5 8、5 5 9 の各刃先の凹状切欠き部 5 5 8 a、5 5 9 a（図 1 2、1 3 参照）の間に挟まれた状態で切断されずに残置される。

20

【 0 1 5 2 】

この腸管病巣部切断 / 縫合完了後、リニア切断 / 縫合装置 5 0 0 のエンド・エフェクタ 5 0 3 が閉口された状態の生体腔内挿入本体 5 0 1 を内視鏡用腹腔 M b 又は / 及び M d から引き抜いて取り出す（リニア切断 / 縫合装置取出し段階 2 5 S）。このとき、前記切断されてエンド・エフェクタ 5 0 3 に把持された腸管病巣部 T 3 はリニア切断 / 縫合装置 5 0 0 と共に内視鏡用腹腔 M b 又は M d 外に取り出される。この段階では、図 7 に示すように、アンビル部 3 側の巾着縫合部 T 2 a 部とヘッド部 4 側の巾着縫合部 T 2 a 部とが対向した状態となる。ただし、実際はアンビル部 3 とヘッド部 4 の各主軸 X、X 0 は、ほとんど図 7 のように一致することはなくずれた状態となる。

【 0 1 5 3 】

なお、前記両端を切断された腸管病巣部 T 3 を別途前記内視鏡 6 0 0 の図示しない先端処置具により把持して内視鏡用腹腔 M d 又は / 及び M b から取り出すこともできる。

30

【 0 1 5 4 】

前記リニア切断 / 縫合装置取出し後、サーキュラー吻合装置 1 の操作部 6 のモノポーラ電源 ON 操作によりガイド電線 1 0 0 を介してモノポーラ電極部 3 4 c にモノポーラ電流を通電するとともにアンビル軸回転モータ 3 0 7 を駆動操作しアンビル軸 3 4 を回転させながら、巻取り装置 1 1 0 の巻取り操作によりガイド電線 1 0 0 を徐々に牽引してアンビル部 3 をヘッド部 4 に引き寄せるとともにプッシュ管駆動モータ 9 0 を駆動操作しプッシュ管 7 のロック部 5 4 先端をヘッド部 4 先端まで前進させ（図 3 参照）（このときロック部 5 4 前端面が巾着縫合部 T 1 a に近接する）、アンビル軸 3 4 後端側の巾着縫合部 T 2 a 部をヘッド部 4 側の巾着縫合部 T 1 a に当接させ（このとき実際は、アンビル部 3 とヘッド部 4 の各主軸 X、X 0 は、ほとんど図 7 のように一直線状にならず交叉した状態で）、前記腸管のアンビル部 3 側及びヘッド部 4 側双方の巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位（図 7）を順次焼灼して套管針 3 4 b により開口しアンビル軸 3 4 を挿通させる（腸管巾着縫合部焼灼段階 1 3 S）

40

【 0 1 5 5 】

この際、套管針 3 4 b が連結されたアンビル軸 3 4 が回転することにより、モノポーラ電極部 3 4 c へのモノポーラ電流通電による生体管巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位の焼灼部の焼き付きを防止して焼灼及び套管針 3 4 b による開口が順調に行われる。巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位が焼灼されて開口されたアンビル 3 側及びヘッド部 4 側焼灼開口部（

50

いずれも図示しない)は、焼灼されて止血されているとともにそれぞれアンビル軸 3 4 (及び被ロック部 3 5)、ロック部 5 4 (及びプッシュ管 7)に密着状態で挿通されるようになっていたが、内視鏡 6 0 0 の図示しない先端処置具により腸管 T の外部から前記焼灼開口部をそれぞれ被ロック部 3 5 からアンビル軸 3 4 後端部(套管針 3 4 b を含む)、ロック部 5 4 からさらにプッシュ管 7 前端部 7 a に挿通させるように位置調整した状態で、糸で固縛することにより腸管 T 1、T 2 内からの異物漏出を防止するとともにその後の処置における信頼性はさらに向上する。

【0156】

引き続き、ヘッド部 4 から離間して人体 M 内で定まらない姿勢(ヘッド部 4 に対し傾斜状態)で浮遊しているアンビル部 3 をヘッド部 4 に連結する際に、図 1 0 に示すように、前記アンビル姿勢制御システムにより、前記腸管巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位を挿通したアンビル部 3 の套管針 3 4 b 後端部をガイド電線 1 0 0 により牽引してロック部 5 4 内又はロック部 5 4 の後端部に連設するプッシュ管 7 の前端部 7 a 近傍内に当接した状態の套管針 3 4 b 後端部を基点(一時的固定点)として、その時点のヘッド部 4 の Y 0、Z 0 軸回り角度センサー 4 0 2、4 0 3 からの角度データに略一致するようにアンビル軸 3 4 の目標角度が与えられ、アンビル部 3 の姿勢を自動制御する(アンビル部姿勢制御段階 1 4 S)。

【0157】

このアンビル部姿勢制御段階 1 4 S においても、腸管 T の外部から内視鏡 6 0 0 により観察/確認するとともに、ワイヤレス内視鏡 1 2 0 により腸管 T の内部からも観察/確認する。

【0158】

前記アンビル部姿勢制御によりアンビル軸 3 4 の主軸 X 軸とヘッド部 4 の主軸 X 0 軸とを略一致させた後、図 5 に示すように、引き続き巻取り装置 1 1 0 の巻取り操作によりガイド電線 1 0 0 を牽引してアンビル軸 3 4 をロック部 5 4 内からさらにプッシュ管 7 内に嵌合させるとともに、アンビル軸 3 4 の被ロック部 3 5 をプッシュ管 7 前端部 7 a のロック部 5 4 に係合/ロックさせ、アンビル部 3 とヘッド部 4 との連結/ロック状態とする(アンビル部連結/ロック段階 1 5 S)。この際、アンビル部 3 はヘッド部 4 に対して、図 8 に示すように、アンビル部 3 側の腸管 T 1 及びヘッド部 4 側の腸管 T 2 の腸管壁厚さを加えた値に略等しい所定ギャップ E を有して双方の腸管 T 1、T 2 を重合し挟持した状態でロックされる。

【0159】

このアンビル部連結/ロック段階 1 5 S においても、腸管 T の外部から内視鏡 6 0 0 により観察/確認するとともに、ワイヤレス内視鏡 1 2 0 により腸管 T の内部からも観察/確認する。

【0160】

その後、操作部 6 のステーブル/カッター駆出モータ 9 1 の駆動操作によりドライバーチューブ 5 2 を介しステーブル/カッター駆出部材 4 2 を前進(駆出)させ、複数の吻合用ステーブル 1 0 及びサーキュラーカッター 4 5 を同時に前方のそれぞれアンビル部 3 及び裏打ちワッシャ 3 7 に向けて駆出し、図 8 に示すように、アンビル部 3 側の腸管 T 1 及びヘッド部 4 側の腸管 T 2 を重合して吻合用ステーブル 1 0 により横断方向円形状に吻合すると同時に円筒状のサーキュラーカッター 4 5 により前記双方の巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 側腸管 T 4、T 5 を輪切り(円形)状に切断して切り離す(腸管切断端部吻合段階 1 6 S)。これにより、吻合されたアンビル部 3 側の腸管 T 1 及びヘッド部 4 側の腸管 T 2 内が挿通状態に連結復帰して修復されることになる。

【0161】

このとき、各吻合用ステーブル 1 0 はアンビル 3 1 後端面のステーブル成形溝 3 1 b とステーブル駆出フィンガ 4 3 との間で軸方向に押圧されて前記腸管 T 4、T 5 を円形状に吻合する状態に成形され、サーキュラーカッター 4 5 の刃先はアンビル 3 1 内の裏打ちワッシャ 3 7 の後端面に喰い込むように押圧されて双方の巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 側腸管

10

20

30

40

50

T 4、T 5を輪切り状に切断する。そして、切断された巾着縫合部T 1 a、T 2 a部側腸管T 4、T 5は、サーキュラーカッター4 5内に残置された状態となる。

【0 1 6 2】

前記腸管切断端部双方同士吻合完了後、サーキュラー吻合装置1のアンビル部3がヘッド部4に連結/ロックされた状態の生体管内挿入本体2を肛門Maから引き抜いて取り出す(サーキュラー吻合装置取出し段階1 7 S)。このとき、前記切断されてサーキュラーカッター4 5内に残置された巾着縫合部T 1 a、T 2 a側腸管T 4、T 5はサーキュラー吻合装置1と共に肛門Ma外に取り出される。

【0 1 6 3】

以上述べたように、本発明の実施例1によれば、サーキュラー吻合装置1の生体管内挿入本体2が生物の自然開口部から病巣部T 3を有する生体管T内に挿入され、アンビル部3がヘッド部4に対して生体管病巣部T 3の前/後端部近傍部C 1、C 2まで離間した状態で、別途生体Mの内視鏡用生体腔部M b又はM dから挿入されたりニア切断/縫合装置5 0 0及びこれと同時に別途内視鏡用生体腔部M d又はM bから挿入された内視鏡6 0 0により観察しながら生体管T外から病巣部T 3が切断除去された後にその生体管の切断端部双方同士の吻合をサーキュラー吻合装置1により生体管T内から半自動的あるいは自動的に行うことができるので、従来のような大掛かりな腹部切開などの生体手術を省いて手術時間及び手術侵襲を低減し、手術の操作性及び信頼性、ならびに経済性に優れた自然開口部越管腔内視鏡手術(N O T E S)用外科手術システムを提供することが可能となる。

【0 1 6 4】

なお、前記実施の形態の他に、サーキュラー吻合装置1及びリニア切断/縫合装置5 0 0の各部材や機構の形状及び構成等は任意に変更することができる。例えば、いずれも図示しないが、リニア切断/縫合装置5 0 0の上顎開閉機構5 3 0を、前記ピニオン/ラック機構に換えてモータ駆動の回転ナット/ねじ機構などにより上顎5 0 4を平行型開閉するように構成することや、あるいは従来の子々の形態によるような後端部が回転自在に軸支された上顎を前開きさせる傾斜型開閉機構とすることも本発明者により自在に可能である。

【0 1 6 5】

また、サーキュラー吻合装置1のプッシュ管駆動機構6 4及びステーブル/カッター駆出機構6 6における前記モータ駆動式回転ナット/ねじ機構に換えて、いずれも例えば「ロボシリンダー」などの商品名で市販されている公知の小型電動シリンダー等のマイクロリニアアクチュエータにより構成することも本発明者により自在に可能である。

【0 1 6 6】

図1 8は実施例1の変形実施形態によるサーキュラー吻合装置のヘッド部4 Cの主要構成概念を示す縦断面図、図1 9は図1 8のサーキュラー吻合装置の操作部6 Cの主要構成概念を示す縦断面図であって、それぞれ前記実施例1の形態の図3、図6における部材と同様の機能を有する構成部材には、説明を分かり易くするため形状が一部異なっている同一の符号を付してある。

【0 1 6 7】

実施例1の変形実施形態によるサーキュラー吻合装置のヘッド部4 Cは、図1 8に示すように、前記アンビル部3をヘッド部4 Cに連結/離脱させるためのロック部5 4が先端部7 C aに設けられたプッシュ管7 Cを前進/後退させるプッシュ管駆動機構4 7と、ステーブル/カッター駆出部材4 2を前進/後退させるステーブル/カッター駆出機構4 8と、ガイド細線部材(ガイド電線)1 0 0を巻取り/解放するための巻取り装置1 1 2及びガイドローラ1 1 3と、これらの駆動機構/装置(駆動部)と操作部6 Cとの操作制御信号のワイヤレスで遣り取りを行うアンテナ4 1 1付きワイヤレス送受信器4 1 0と、これらの電源である電池4 1 2とが内部に収容されている点が、前記実施例1のサーキュラー吻合装置1のヘッド部4とは相異しており、その他の構成は前記ヘッド部4と同様である。

【0 1 6 8】

10

20

30

40

50

この変形実施形態のプッシュ管駆動機構 47 及びステーブル/カッター駆出機構 48 は、いずれも前記小型電動シリンダーなどのマイクロリアアクチュエータを適用することができ、これらのアクチュエータ本体がそれぞれヘッド外筒 41 内のブラケット 41a、41b のアクチュエータ取付け孔 41c、41d 内に固着され、前/後進するロッド先端部 47a、48a がそれぞれプッシュ管 7C、ステーブル/カッター駆出部材 42 の後端面 7Cc、42a に固着されている。プッシュ管 7C 及びステーブル/カッター駆出部材 42 は、それぞれこれらマイクロリアアクチュエータのロッド先端部 47a、48a から前/後方向の推進力を受けて前/後進する。

【0169】

このような変形実施形態のヘッド部 4C の構成により、前記実施例 1 のサーキュラー吻合装置 1 の操作部 6 に設けていたプッシュ管駆動機構 64、ステーブル/カッター駆出機構 66、巻取り装置 110 等の駆動部及びこれらから支持軸部 5 内を挿通してヘッド部 4 に連結する連結管 53、プッシュ管 7、ドライバーチューブ 52 及びガイド電線 100 等の駆動部連結部材を全て省くことができるため、この変形実施形態による操作部 6C 及び支持軸部 5C の構造が大幅に簡素化され、操作性及び経済性に一層優れた NOTES 用外科手術システム及び外科手術方法を提供することができる。

【0170】

すなわち、この変形実施形態によるサーキュラー吻合装置の操作部 6C は、図 19 に示すように、ワイヤレス内視鏡 120 が内部に収容されているだけで、前記したその他の内部機能構成部材は全て省かれている点、また、支持軸部 5C は、図 18、19 に示すように、ワイヤレス内視鏡 120 の挿入管部 121 が内部に挿通されているだけで、その他の前記駆動部連結部材は全て省かれている点、前記実施例 1 のサーキュラー吻合装置 1 の操作部 6 とは相異しており、大幅に簡素化及び軽量化される。

【実施例 2】

【0171】

図 20 は本発明の実施例 2 の NOTES 用外科手術システムの主要構成概念を示す概念図、図 21 は実施例 2 のサーキュラー吻合装置 1A の主要構成概念を示す透視図、図 22 の (a) は図 21 のアンビル部 3A の構成概念を示す縦断面図、(b) は (a) の R-R 矢視断面図、図 23 の (a) は図 21 のヘッド部 4A の構成概念を示す縦断面図、(b) は (a) の Q-Q 矢視断面図、図 24 は図 21 の操作部の主要構成概念を示す縦断面図、図 25 は図 21 のアンビル部 3A とヘッド部 4A の連結状態での生体管 T 内挿入中における縦断面図、図 26 は図 25 に引続き、アンビル部 3A とヘッド部 4A の離脱状態でリニア切断/縫合装置による生体管 T 病変部 T3 切断及び巾着縫合後の縦断面図、図 27 は図 26 に引続き、套管針が形成された尖頭部 34Ab が、ガイド電線 100 (モノポーラ電流通電中) に牽引されてアンビル軸 34A から離脱するとともにアンビル部 3A 側及びヘッド部 4A 側生体管 T1、T2 の双方の巾着縫合部 T1a、T2a 部位を順次焼灼して貫通しヘッド部 4A 内後方に牽引される状態を示す縦断面図、図 28 は図 27 に引続きアンビル部 3A がヘッド部 4A に再連結される際に、操作部 6A の後端部からプッシュ管 7A 内に挿入されたアンビル部連結補助具 55 がロック部 54A (開いた状態) 及びヘッド部 3A と共に前進し押出されてアンビル軸 34A の後端部に接近した状態の縦断面図、図 29 は図 28 に引続き、アンビル部連結補助具 55 がプッシュ管 7A 内後方に後退するとともにロック調整管 53A が前進してロック部 54A が閉じ、アンビル軸 34A の被ロック部 35A に係合した状態の縦断面図、図 30 は図 29 に引続き、ロック状態のプッシュ管 7A を後退させ、アンビル部 3A が所定位置まで引寄せられてヘッド部 4A に連結した状態の縦断面図である。なお、ここに添付した図面はいずれもノットスケールで表現された主要構成概念を示す概念図であり、特に図 22、23、25 乃至 30 は内部構造を分かり易くするため軸方向に比べて径方向を拡大して表現している。

【0172】

実施例 2 の NOTES 用外科手術システムは、前記実施例 1 に対して、サーキュラー吻合装置 1A のいずれも後述するアンビル部 3A とヘッド部 4A との連結の信頼性を向上さ

10

20

30

40

50

せるための連結機構及びその関連部材の構成が相異しており、リニア切断/縫合装置500及びその他の構成は同様である。したがって、以下、実施例2の図において実施例1と同様の機能を有する構成部材には一部形状が若干異なっている同一の符号を付してあり、個々の説明は重複するので省略し、実施例1と異なる構成について説明する。

【0173】

実施例2のサーキュラー吻合装置1Aは、図20、21に示すように、先端側から、後方に略同心状に突設されたアンビル軸34Aを有するアンビル部3A、アンビル部3Aに対向して生体管Tの吻合用ステーブル10及び切断用サーキュラーカッター45(図23参照)を備えたヘッド部4A、及びヘッド部4Aに接続された長尺可撓性の支持軸部5Aを有する生体管内挿入本体2Aと、生体管内挿入本体2Aの後端部に接続され、アンビル軸34A及びヘッド部4Aの相互に係脱可能な被ロック部35A、ロック部54Aを備える連結機構のロック及びロック解除操作、吻合用ステーブル10及びサーキュラーカッター45の駆出操作等を制御する操作部6Aとから概略構成されている。

10

【0174】

アンビル部3Aは、図22(a)に示すように、アンビル軸34Aの構成が一部異なる点を除き前記実施例1のアンビル部3と同様の構成である。

【0175】

実施例2のアンビル軸34Aは、アンビル31内の後方部に主軸(X軸)に沿って突設され、套管針34Abを備えた尖頭部34Aaが後端部に着脱可能に連結されている。アンビル軸34Aの後端面には、尖頭部34Aaを連結するための尖頭部連結穴34Aeが穿設されている。尖頭部34Aaは例えば樹脂などの絶縁体からなり、前端にアンビル軸34Aの尖頭部連結穴34Aeに嵌合する小径の連結軸部34Adが形成され、後端に前記実施例1と同様なモノポーラ電極部34cを有する套管針34Abが形成されている。アンビル軸34A及び尖頭部34Aaはいずれも略同径に形成されて連結され、モノポーラ電極部34cを有する套管針34Abの後端部は後述する生体管巾着縫合部T1a、T2a部位(図26参照)を貫通し易いように尖鋭状に形成されている。尖頭部34Aaが絶縁体であってモノポーラ電極部34cを備える理由については、後述する。

20

【0176】

また、套管針34Abを有する尖頭部34Aaが連結されたアンビル軸34Aは、前記実施例1と同様に、アンビル軸支持部33cに回転自在に支持されて後述する回転手段に連結され、モノポーラ電極部34cにモノポーラ電流を通電する際にこの回転手段により回転される。

30

【0177】

尖頭部34Aaの套管針34Ab後端部のモノポーラ電極部34cには、操作部6Aからヘッド部4Aに至りプッシュ管7A内を経て挿通されたガイド細線部材であるガイド電線100が連結されている。このガイド電線100は、前記生体管Tの病巣部T3切断端部双方同士を吻合する際に、後述する操作部6Aの操作によるガイド電線100巻取りにより尖頭部34Aaをアンビル軸34Aの後端から離間させてヘッド部4A内に引き込む機能と、ガイド電線100解放によりアンビル部3Aとヘッド部4Aとの離間及びロック解除が可能となる補助機能と、尖頭部34Aaがアンビル部3A側及びヘッド部4A側生体管T1、T2双方の巾着縫合部T1a、T2a部位を焼灼し貫通してヘッド部4A側に牽引されるようにモノポーラ電極部34cにモノポーラ電流を通電することにより前記生体管T1、T2の巾着縫合部T1a、T2a部位を順次焼灼する機能との3つの機能を有する。絶縁体からなる尖頭部34Aaは、アンビル軸34A及びアンビル部3A側へのモノポーラ電流の通電を遮断する。

40

【0178】

また、尖頭部34Aaの前方近傍のアンビル軸34Aの外面には、後述するヘッド部4A内のプッシュ管7Aの先端に設けられたロック部54Aに係合/ロックされる例えば略球面体などの凸面体状に形成された被ロック部35Aが設けられている。被ロック部35A、ロック部54Aを備える連結機構の作用等の詳細については、後述する。

50

【 0 1 7 9 】

アンビル姿勢制御機構 3 0 は、前記実施例 1 と同様であるので、詳細な説明は省略する。

【 0 1 8 0 】

実施例 2 のヘッド部 4 A は、図 2 3 (a) に示すように、アンビル部 3 A をヘッド部 4 A に連結 / ロックする連結機構 (後述する) の構成が異なる点を除き前記実施例 1 のヘッド部 4 と同様の構成である。

【 0 1 8 1 】

ヘッド部 4 A の中央部には、操作部 6 A から支持軸部 5 A に至る内部中央に挿通されて (図 2 4 参照) 同心円管状に配置された後述するプッシュ管 7 A 及びロック調整管 5 3 A の前端部 7 A a 、 5 3 A a がヘッド部 4 内まで併設されている。

10

【 0 1 8 2 】

実施例 2 のドライバーチューブ 5 2 の前端部に連結されたステーブル / カッター駆出部材 4 2 は、後述する操作部 6 A の操作によりドライバーチューブ 5 2 を介して (図 2 4 参照) 前後方向に往復移動可能にロック調整管 5 3 A の外面に遊嵌されている。

【 0 1 8 3 】

実施例 2 のプッシュ管 7 A の前端部 7 A a には、後述するアンビル軸 3 4 A の被ロック部 3 5 A を係脱可能に捕捉してロックするロック部 5 4 A が設けられている (図 2 3 、 2 5 参照) 。 ロック部 5 4 A は、ヘッド部 4 A 内中央部に収設され、円周方向に複数に少なくとも 3 分割された例えば略中空球面などの凹面体状に形成されてアンビル軸 3 4 A に設けられた被ロック部 3 5 A に係脱可能に嵌合 (捕捉) する分割捕捉部 5 4 A b と、プッシュ管 7 A の前端部 7 A a に設けられ、フリー状態では分割捕捉部 5 4 A b をそれぞれ軸中心から拡径方向に大きく開くように屈曲されて弾支する複数のこの実施例では 3 本の弾性支持部材 5 4 A c とからなる。弾性支持部材 5 4 A c は、適宜な剛性及び高強度のパネ鋼又は形状記憶合金などからなり、十分な強度を保持することができる幅を有する略部分円筒状に形成されている (図 2 8 参照) 。

20

【 0 1 8 4 】

プッシュ管 7 A は、後述する操作部 6 A の操作によりアンビル部 3 A のアンビル軸 3 4 A の被ロック部 3 5 A をロック部 5 4 A により捕捉して尖頭部 3 4 A a を内部に嵌入させ後退してアンビル部 3 A をヘッド部 4 A 側に引き寄せて連結させるとともに、反対にアンビル軸 3 4 A を先端側に押し出してプッシュ管 7 A 前端部 7 A a のロック部 5 4 A からアンビル軸 3 4 A の被ロック部 3 5 A を開放してアンビル部 3 A をヘッド部 4 A から離間させるように、前後方向に往復移動可能にロック調整管 5 3 A 内に遊嵌されている (図 2 4 、 2 5 参照) 。

30

【 0 1 8 5 】

また、プッシュ管 7 A は、操作部 6 A 内を挿通する後端開口部 7 A e まで開放されており、プッシュ管 7 A 内には操作部 6 A から支持軸部 5 A に至り挿通されたガイド電線 1 0 0 が挿通され、アンビル軸 3 4 A の後端部から離脱した尖頭部 3 4 A a がガイド電線 1 0 0 により牽引されて後端開口部 7 A e 外に引き出されるようになっている (図 2 2 、 2 5 及び 2 7 参照) 。

40

【 0 1 8 6 】

さらに、実施例 2 のプッシュ管 7 A 内には、先端部が套管針状に形成されてロック部 5 4 A の分割捕捉部 5 4 A b 内を貫通する套管針状尖頭部 5 5 a 、 及び套管針状尖頭部 5 5 a に連結された長尺可撓性のシャフト部 5 5 b からなり、アンビル部 3 A をヘッド部 4 A に再連結する際の連結補助となるアンビル部連結補助具 5 5 がプッシュ管 7 A の後端開口部 7 A e から挿脱自在に挿通されるようになっている。このアンビル部連結補助具 5 5 の作用については、後述する。

【 0 1 8 7 】

実施例 2 のロック調整管 5 3 A は、プッシュ管 7 A に前進 / 後退自在に外嵌され、後述する操作部 6 A の操作によりその前端部 5 3 A a が分割捕捉部 5 4 A b の後端部まで前進

50

することにより弾性支持部材 5 4 A c を外側から押圧して分割捕捉部 5 4 A b を縮径方向に閉じ（図 2 3、2 5 ~ 2 7、2 9、3 0 等参照）、その前端部 5 3 A a が弾性支持部材 5 4 A c から後退することにより分割捕捉部 5 4 A b を拡径方向に大きく全開させる（図 2 8 参照）。

【 0 1 8 8 】

このように、アンビル部 3 A をヘッド部 4 A に連結するための連結機構は、アンビル軸 3 4 A 後端部の被ロック部 3 5 A、プッシュ管 7 A 前端部 7 A a のロック部 5 4 A 及びロック調整管 5 3 A から構成される。この連結機構は、後述する図 3 0 及び図 8 に示すように、前記生体管 T 1、T 2 の病巣部 T 3 切断端部双方同士を吻合する際に、アンビル部 3 A をヘッド部 4 A に対面状態に後述する所定のギャップ E を有して連結保持する機能、及びヘッド部 4 A 内のステーブルカートリッジ 4 4 先端面の複数のステーブル収容スロット 4 4 a とアンビル 3 1 後端面の複数のステーブル成形溝 3 1 b とが相互に正対するようにアンビル部 3 A とヘッド部 4 A の主軸（X 及び X 0 軸）回りの位置決め機能を備えることが必要である。

10

【 0 1 8 9 】

このため、前記連結機構は、従来の例えば前記特許文献 1 等に記載された種々の実施形態と同様の構成とすることができるが、この実施例 2 では一例として、相互に主軸（X、X 0 軸）周りの回転が拘束されて主軸方向に移動自在に摺接するスプライン機構が形成されている。すなわち、図 2 3（a）、（b）に示すようにロック部 5 4 A の円筒状内面には凹状スプライン溝（雌スプライン歯）5 4 A a が、図 2 2（a）、（b）に示すように被ロック部 3 5 A の外面には凸状スプライン歯（雄スプライン歯）3 5 A a が相互に吻合するように形成され、これにより、ヘッド部 4 A 内のステーブルカートリッジ 4 4 のステーブル収容スロット 4 4 a とアンビル 3 1 のステーブル成形溝 3 1 b とが相互に正対するようにアンビル部 3 A とヘッド部 4 A の軸心（X 及び X 0 軸）回りの位置決めが規定される。

20

【 0 1 9 0 】

上記プッシュ管 7 A 及び連結機構の構成はアンビル部 3 A 等の構成とともに、従来の技術にない本発明の主要な特徴の一部を示す構成となっており、これらの作用については詳しく後述する。

【 0 1 9 1 】

なお、被ロック部 3 5 A 及びロック部 5 4 A のそれぞれ前後両端段差部の外周角部はカットされ、後述する生体管 T の巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位の焼灼開口部を貫通し易いとともに、被ロック部 3 5 A がロック部 5 4 A 内に嵌入して係合し易いように、滑らかな傾斜面 3 5 A b、5 4 A b を有している。

30

【 0 1 9 2 】

このように構成された実施例 2 の連結機構により、ヘッド部 4 A に対して離間されたアンビル部 3 A が生体管 T の病巣部 T 3 が切断除去された後に再度連結される際に、ロック調整管 5 3 A の前後方向の進退操作によりプッシュ管 7 A 前端部 7 A a の分割捕捉部 5 4 A b を前進させつつ開閉することによってアンビル軸 3 4 A の被ロック部 3 5 A を捕捉してプッシュ管 7 A を後退させることでアンビル部 3 A をヘッド部 4 A 側に引き寄せるとともにロックすることが容易に可能となり、アンビル部 3 A とヘッド部 4 A との連結 / ロックの信頼性が向上する。

40

【 0 1 9 3 】

実施例 2 の支持軸部 5 A も、図 2 1、2 3、2 4 に示すように、前端部がヘッド部 4 A のヘッド外筒 4 1 に連結され、後端部が操作部 6 A の操作部筐体 6 1 に連結された外管 5 1 と、外管 5 1 の内部に順次同心円状に挿通されて併設された前記ドライバーチューブ 5 2、ロック調整管 5 3 A 及びプッシュ管 7 A とから構成され、プッシュ管 7 A 内には前記ガイド電線 1 0 0 が挿通されるようになっている。これら支持軸部 5 A を構成あるいは内部を挿通する部材は、いずれも可撓性材料からなっており、従来のサーキュラー吻合装置や内視鏡などの医療用機器に用いられている部材を適用することができる。

50

【 0 1 9 4 】

実施例 2 の操作部 6 A は、図 2 4 に示すように、前端部に支持軸部 5 A の外管 5 1 が連結された略円筒型の操作部筐体 6 1、吻合用ステーブル 1 0 及びサーキュラーカッター 4 5 を駆出させるステーブル/カッター駆出機構 6 6、プッシュ管 7 A を前進/後退させるプッシュ管駆動機構 6 7、ロック調整管 5 3 A を前進/後退させるロック調整管駆動機構 6 8、を備えている。この実施例 2 では、ステーブル/カッター駆出機構 6 6、プッシュ管駆動機構 6 7 及びロック調整管駆動機構 6 8 はいずれも電動式で、従来の特許文献 1 等のサーキュラー吻合装置の手動式の調節用ノブ機構及びステーブル/カッター駆出ハンドル機構などとは異なっている。

【 0 1 9 5 】

ステーブル/カッター駆出機構 6 6 は、実施例 1 と同様に、雄ねじチューブ 5 2 a、外歯付回転ナット 6 5、ステーブル/カッター駆動モータ 9 1、ステーブル/カッタードライブシャフト 6 3 と、から構成されており、詳細な説明は省略する。

【 0 1 9 6 】

プッシュ管駆動機構 6 7 及びロック調整管駆動機構 6 8 も、詳細な図示は省略するが、前記ステーブル/カッター駆出機構 6 6 と同様な雄ねじチューブ、外歯付回転ナット及びピニオン付き駆動モータから構成されている。

【 0 1 9 7 】

したがって、前記ドライバーチューブ 5 2 と同様に、いずれも図示しないプッシュ管駆動モータ、ロック調整管駆動モータにそれぞれ駆動される外歯付回転ナットの正/逆回転により、外歯付回転ナットに螺合された雄ねじチューブの前/後主軸方向の推進力を受けたプッシュ管 7 A、ロック調整管 5 3 A がそれぞれ前/後進するようになっている。

【 0 1 9 8 】

なお、プッシュ管 7 A の前進/後退と連動して指示器窓 6 1 d の図示しない目盛に沿って前後に傾動し、ステーブル/カッター駆出部材 4 2 の所定駆出ストロークを示す指示器やステーブル/カッター駆出機構 6 6 の誤作動防止用の安全機構等の小部材は、従来の実施形態のサーキュラー吻合装置と同様に構成できるためここでは図示及び詳細な説明を省略している。前記安全機構は、アンビル部 3 A がヘッド部 4 A に対し実施例 1 と同様な所定ギャップ E (図 8 参照) を有して連結/ロックされると、指示器と係合して指示器を指示器窓 6 1 d の図示しない目盛に沿って後方に傾動し、ステーブル/カッター駆出部材 4 2 の所定駆出ストロークを示す。

【 0 1 9 9 】

前記アンビル部 3 A ロック及び連結時のヘッド部 4 A との間の所定ギャップ E も、実施例 2 の図 3 0 の F 部が実施例 1 の図 8 と同様に示され、アンビル部 3 A 側の生体管 T 1 及びヘッド部 4 A 側の生体管 T 2 の生体管壁厚さを加えた値に略等しい。

【 0 2 0 0 】

この実施例 2 では、図 2 4 に示すように、プッシュ管 7 A は、ロック調整管駆動機構 6 8 及びプッシュ管駆動機構 6 7 を挿通しており、後端開口部 7 A e まで開放されている。さらに、操作部 6 A の後端部 6 1 a 外に、前記尖頭部 3 4 A a の套管針 3 4 A b 後端部のモノポーラ電極部 3 4 c に連結され、ヘッド部 4 A からプッシュ管 7 A 内に至り挿通されてプッシュ管 7 A の後端開口部 7 A e 近傍に設けられた一对のローラ付きガイド部 7 A f から引き出されたガイド電線 1 0 0 を図示しないモータにより巻き取りあるいは逆に解放する巻き取り装置 1 1 0 が備えられている。

【 0 2 0 1 】

前記従来安全機構及び指示器等による機械的制御構成に換えて、アンビル部 3 A に直結するガイド電線 1 0 0 の出入り量を例えば巻き取り装置 1 1 0 の巻き取り量検出センサー(図示しない)などで捕らえることによりアンビル部 3 A とヘッド部 4 A との間の所定ギャップ E 及び吻合用ステーブル 1 0 の所定ストロークを表示させることやステーブル/カッター駆動モータ 9 1 などのモータ駆動インターロックによる安全電子制御構成の変形実施形態とすることもできる。

10

20

30

40

50

【 0 2 0 2 】

この実施の変形実施形態によれば、従来の安全機構及び指示器等による複雑な機械的制御構成を省き、操作部 6 A の構成を簡略化できる。

【 0 2 0 3 】

また、ヘッド部 4 A 内には、図 2 3 (a) に示すように、カプセル内視鏡装置 1 5 0 が収設されている。

【 0 2 0 4 】

実施例 2 のカプセル内視鏡装置 1 5 0 は、いずれも図示しない撮像部である超小型カプセル型 CCD カメラ又は CMOS 撮像装置、照明部である発光ダイオード (LED)、無線で制御・操縦するコントローラ、電源部であるマイクロ電池又は電力送信及び姿勢制御用のコイル等を内蔵した例えば外形が直径 9 ~ 1 1 mm x 長さ 2 3 ~ 2 6 mm 程度のピル型の樹脂製筐体からなる。カプセル内視鏡装置としては、既に例えば Given Imaging 社の「 Pill Cam SB」、アールエフ社の「 NORIKA」、Sayaka (いずれも商品名) などが実用化され、あるいは再表 WO 2 0 0 4 / 1 1 2 5 9 3 号公報等に記載のものなどが提案されている。このため、カプセル内視鏡装置 1 5 0 の詳細な説明は省略する。

【 0 2 0 5 】

カプセル内視鏡装置 1 5 0 に低電力構成要素の発光ダイオード (LED) 及び CMOS 撮像装置を用いることにより、電源用のマイクロ電池を用いることが可能となっている。CMOS は、CCD に比べて低消費電力及びシステムオンチップの点で有利である。

【 0 2 0 6 】

操作部 6 A 内には、いずれも図示しないエア / 洗浄水供給源、エア / 洗浄水供給 / 血液・水分等吸引用のユーティリティ制御装置、ワイヤレス内視鏡ユニット等が収設されている。ワイヤレス内視鏡ユニットは、カプセル内視鏡装置 1 5 0 を動かすための制御ノブ及びこれらの制御信号を遣り取りするためのワイヤレス送受信器 (いずれも図示しない) 等を備えている。

【 0 2 0 7 】

前記撮像装置からの画像データなどの信号は、種々のデジタル又はアナログ変調技術の例えばマイクロ波又は無線周波数を使用しワイヤレス送受信器を介して操作部 6 A のワイヤレス送受信器 (図示しない) に送信される。例えば、無線チャンネルによるデジタル画像の送信には、FSK (周波数偏移変調) 変調技術を使用することができる。画像形成ユニットのいくつかの構成要素、例えば画像センサー及び照射源は、単回使用の電池操作ユニットである。このようなカプセル内視鏡装置 1 5 0 は、通常ワイヤ式内視鏡よりも一層操作性が優れるという利点がある。

【 0 2 0 8 】

操作部筐体 6 1 の上部には、図 2 0 に概念的に示すように、少なくとも内視鏡画像モニター、アンビル軸角度モニター、プッシュ管駆動モータ運転 LED (表示灯)、ロック調整管駆動モータ運転 LED、ステーブル / カッター駆動モータ運転 LED、内視鏡 ON / OFF SW (カプセル内視鏡装置 1 5 0 の運転用スイッチ)、ガイド電線解放 / 巻取り SW (巻取り装置 1 1 0 のガイド電線 1 0 0 解放 / 巻取りスイッチ)、モノポラ ON / OFF SW (モノポラ電流 ON / OFF スイッチ)、アンビル軸回転 / 停止 SW、X 軸サーボモータ運転 LED、Y 軸サーボモータ運転 LED、アンビル軸回転モータ運転 LED、アンビル軸姿勢制御 ON / OFF SW、プッシュ管前進・後退 SW、ロック調整管前進・後退 SW、ステーブル / カッター駆出 / 後退 SW、さらに図示しないが、アンビル部 3 内のワイヤレス送受信器 3 0 3 及びカプセル内視鏡装置 1 5 0 内のワイヤレス送受信器等と制御及び画像信号等を遣り取りするワイヤレス送受信器及び電池などを備える操作ユニット 1 4 0 A が設けられている。

【 0 2 0 9 】

この操作ユニット 1 4 0 A の上記構成によるワイヤレス操作によって、後述するサーキュラー吻合装置 1 A の操作が行われる。

10

20

30

40

50

【 0 2 1 0 】

また、サーキュラー吻合装置 1 A のプッシュ管駆動機構 6 4、ロック調整管駆動機構 6 8 及びステーブル/カッター駆出機構 6 6 における前記モータ駆動式回転ナット/ねじ機構に換えて、いずれも例えば「ロボシリンダー」などの商品名で市販されている公知の小型電動シリンダー等のマイクロリニアアクチュエータにより構成する変形実施形態とすることも本発明者により自在に可能である。

【 0 2 1 1 】

図 3 1 の (a) は実施例 2 の変形実施形態によるサーキュラー吻合装置のヘッド部 4 B の主要構成概念を示す縦断面図、(b) は (a) のサーキュラー吻合装置の操作部 6 B の主要構成概念を示す縦断面図であって、それぞれ前記実施形態の図 2 2、2 4 における部材と同様の機能を有する構成部材には、説明を分かり易くするため形状が一部異なっても同一の符号を付してある。

10

【 0 2 1 2 】

この変形実施形態によるサーキュラー吻合装置のヘッド部 4 B は、前記アンビル部 3 A をヘッド部 4 B に前記連結機構を介して連結/離脱させるためのプッシュ管 7 B を前進/後退させるプッシュ管駆動機構 4 7 と、ステーブル/カッター駆出部材 4 2 を前進/後退させるステーブル/カッター駆出機構 4 8 と、ロック調整管 5 3 B を前進/後退させるロック調整管駆動機構 4 9 と、これらの駆動機構と操作部 6 B との操作制御信号のワイヤレスで遣り取りを行うアンテナ 4 1 1 付きワイヤレス送受信器 4 1 0 と、これらの電源である電池 4 1 2 と、が内部に収容されている点が、前記実施例 2 のヘッド部 4 A とは相異しており、その他の構成は実施例 2 のヘッド部 4 A と同様である。なお、この変形実施形態においては、プッシュ管駆動機構 4 7 及びロック調整管駆動機構 4 9 の一部が支持軸部 5 B 内のヘッド部 4 B との連結部近傍に亘り配置されている。

20

【 0 2 1 3 】

この変形実施形態のプッシュ管駆動機構 4 7、ステーブル/カッター駆出機構 4 8 及びロック調整管駆動機構 4 9 は、いずれも前記小型電動シリンダーなどのマイクロリニアアクチュエータを適用することができ、これらのアクチュエータ本体がそれぞれヘッド外筒 4 1 及び支持軸部 5 内に突設されたブラケット 4 1 b、4 1 a のアクチュエータ取付け孔 4 1 d、4 1 c 内及びブラケット 4 1 e 前面に固着され、前/後進するロッド先端部 4 7 a、4 9 a、4 8 a がそれぞれプッシュ管 7 B、ロック調整管 5 3 B の後端開口部 7 B d、5 3 B d に設けられたエンド部材 7 B c、5 3 B c、ステーブル/カッター駆出部材 4 2 の後端面 4 2 a に固着されている。プッシュ管 7 B、ステーブル/カッター駆出部材 4 2 及びロック調整管 5 3 B は、それぞれこれらマイクロリニアアクチュエータのロッド先端部 4 7 a、4 8 a、4 9 a から主軸 (X 0 軸) 前/後方向の推進力を受けて前/後進する。

30

【 0 2 1 4 】

このような変形実施形態のヘッド部 4 B の構成により、前記実施例 2 のサーキュラー吻合装置 1 A の操作部 6 A に設けていたプッシュ管駆動機構 6 7、ステーブル/カッター駆出機構 6 6、ロック調整管駆動機構 6 8 等の駆動部及びこれらから支持軸部 5 A 内を挿通してヘッド部 4 A に連結するプッシュ管 7 A、ドライバーチューブ 5 2 及びロック調整管 5 3 A 等の長尺な駆動部連結部材を全て省くことができるため、この変形実施形態による操作部 6 B 及び支持軸部 5 B の構造が大幅に簡素化され、操作性及び経済性に一層優れた NOTES 用外科手術システムを提供することができる。

40

【 0 2 1 5 】

すなわち、この変形実施形態によるサーキュラー吻合装置の操作部 6 B は、図 3 1 (b) に示すように、いずれも図示しないエア/洗浄水供給源、ユーティリティ制御装置、ワイヤレス内視鏡ユニット等が内部に収容されているだけで、前記したその他の内部機能構成部材は全て省かれている点、また、支持軸部 5 B 内には、図 3 1 (a)、(b) に示すように、プッシュ管 7 B と同径で同軸延長状に配置され、先端部 5 6 a がブラケット 4 1 b に固着され、操作部 6 B を挿通して後端開口部 5 6 b まで開放されたガイド管 5 6 が

50

延設されているだけで、その他の前記駆動部連結部材は全て省かれている点などが、前記実施例 2 のサーキュラー吻合装置 1 A の操作部 6 A とは相異しており、大幅に簡素化及び軽量化されている。

【 0 2 1 6 】

ガイド管 5 6 内には、後端部 5 6 b からガイド電線 1 0 0 が挿通され、後端開口部 5 6 b 近傍に設けられた一对のローラ付きガイド部 7 B f から引き出されたガイド電線 1 0 0 を図示しないモータにより巻き取りあるいは逆に解放する巻き取り装置 1 1 0 がガイド部 7 B f の下方に備えられている。そして、前記アンビル軸 3 4 A の後端部から離脱した尖頭部 3 4 A a がガイド電線 1 0 0 により牽引されてガイド管 5 6 の後端開口部 5 6 b 外に引き出されるようになっている。

10

【 0 2 1 7 】

図 3 2 は、実施例 2 の N O T E S 用外科手術システムのアンビル部姿勢制御システムの主要構成概念を示すブロック図である。

【 0 2 1 8 】

実施例 2 のアンビル部姿勢制御システムは、サーキュラー吻合装置 1 A の連結機構の作用が異なる点とアンビル部連結補助具 5 5 を用いる点とを除き前記実施例 2 と同様であるため、詳細な構成の説明は省略する。

【 0 2 1 9 】

アンビル部 3 A がヘッド部 4 A (又は前記変形実施形態の 4 B) に対して離間された状態で生体管 T の病巣部 T 3 が切断除去されその生体管の切断端部双方が巾着縫合され、さらに尖頭部 3 4 A a が前記巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位を焼灼し貫通して操作部 6 A の後端部外に取り出された後で、ヘッド部 4 A から離間して生体 M (図 2 0 参照) 内で定まらない姿勢 (ヘッド部 4 A 又は 4 B に対し傾斜状態) で浮遊しているアンビル部 3 A をヘッド部 4 A (又は 4 B) に再連結する場合、操作部 6 A 後端部のプッシュ管 7 A の後端開口部 7 A e (又は前記変形実施形態においてはガイド管 5 6 の後端開口部 5 6 b) からアンビル部連結補助具 5 5 を挿入し、これと同時にカプセル内視鏡装置 1 5 0 あるいは生体 M の内視鏡用腹腔 M d 又は / 及び M b からカニューレ M c を介し挿入された内視鏡 6 0 0 (図 2 0 参照) により目視確認しながら、前記アンビル姿勢制御システムにより、アンビル軸 3 4 A の後端面がヘッド部 4 A (又は 4 B) の前面に対向するようにアンビル軸 3 4 A の角度を調整しつつ、ヘッド部 4 A (又は 4 B) 側をアンビル部 3 A の方向に前進させる。

20

30

【 0 2 2 0 】

このようにして、アンビル部連結補助具 5 5 の套管針状尖頭部 5 5 a がアンビル軸 3 4 A の後端面の連結穴 3 4 A e 内面に嵌入して当接させた状態の套管針状尖頭部 5 5 a (このとき尖頭部 5 5 a はロック部 5 4 A の前端部近傍に位置する) を基点 (一時的固定点) として、前記アンビル姿勢制御システムにより、その時点のヘッド部 4 A (又は 4 B) の Y 0、Z 0 軸回り角度センサー 4 0 2、4 0 3 からの角度データに略一致するようにアンビル軸 3 4 A の目標角度が与えられてアンビル部 3 A の姿勢が自動制御される。そして、アンビル軸 3 4 A の主軸 X 軸とヘッド部 4 A (又は 4 B) の主軸 X 0 軸とが略一致すると、図 3 0 に示すように、アンビル軸 3 4 A はプッシュ管 7 A 内に容易に嵌合してアンビル部 3 A とヘッド部 4 A との連結 / ロック状態とすることができる。

40

【 0 2 2 1 】

以上記したように、実施例 2 のサーキュラー吻合装置 1 A も、前記ワイヤレス制御によりアンビル軸 3 4 A に対するアンビル部 3 A の姿勢制御を行うアンビル姿勢制御機構 3 0、套管針 3 4 A b 後端部のモノポーラ電極部 3 4 c、モノポーラ電極部 3 4 c に連結されたガイド電線 1 0 0 及びその巻き取り装置 1 1 0、プッシュ管 7 A を前後軸方向に移動させてアンビル部 3 A を前方に押し込みヘッド部 4 A から離脱させるなどプッシュ管 7 A の前進 / 後退を行うプッシュ管駆動機構 6 7、吻合用ステーブル 1 0 及びサーキュラーカッター 4 5 を駆出 (前進) / 後退させるステーブル / カッター駆出機構 6 6、ロック調整管 5 3 A を前進 / 後退させるロック調整管駆動機構 6 8、ヘッド部 4 A 内に収設されたカプセ

50

ル内視鏡装置 150 等を備え、全てワイヤレス電子制御化されている点が、従来の前記特許文献 1 等に記載されたサーキュラー吻合装置とは異なる構成の特徴点である。

【0222】

次に、上記した実施例 2 のサーキュラー吻合装置 1A 及びリニア切断/縫合装置 500 を有する NOTES 用外科手術システムを用い、生体管例えば腸管 T の病巣部 T3 を切除してその生体管の切断端部双方同士を吻合する NOTES 用外科手術方法について、図 20 乃至 33 を参照し説明する。

【0223】

図 33 は、実施例 2 の NOTES 用外科手術システムを用いた NOTES 用外科手術方法の主要手順を示すブロック図である。

10

【0224】

生体 M 例えば人の生体管 T として腸管を例にした場合の実施例 2 の NOTES 用外科手術方法は、実施例 1 と同様な内視鏡用腹腔施術段階 1S、外部病巣部確認段階 2S を経て、以下、次のような主な段階を有する。

【0225】

前記外部病巣部確認後、サーキュラー吻合装置 1A のアンビル部 3A がヘッド部 4A に連結された状態(図 25)の生体管内挿入本体 2A を人体 M の自然開口部である例えば肛門 Ma から腸管 T 内の病巣部 T3 を先端のアンビル部 3A が十分通過するまで挿入する(サーキュラー吻合装置挿入段階 11S)。このとき、図 20 に示すように、アンビル部 3A は、套管針 34Ab 後端部のモノポーラ電極部 34c (図 22) が腸管病巣部 T3 の先端側近傍位置 C1 を通過した腸管 T1 内まで挿入される。

20

【0226】

次に、サーキュラー吻合装置 1A の操作部 6A の巻取り装置 110 の解放操作によりガイド電線 100 を解放するとともにプッシュ管駆動モータ及びロック調整管駆動モータの前進操作によりプッシュ管 7A 及びロック調整管 53A を共に前進させてロック状態のアンビル軸 34A を介しアンビル部 3A を前方に押出す。これに引き続き、ロック調整管駆動モータの後退操作によりロック調整管 53A を後退させることによりロック部 54A が拡径状態に開きアンビル軸 34A の被ロック部 35A を開放し、さらにプッシュ管駆動モータ及びロック調整管駆動モータの後退操作によりプッシュ管 7A 及びロック調整管 53A を共に退避位置(図 23 参照)まで後退させることによりアンビル部 3A をヘッド部 4A から離脱させて前記腸管 T1 内に残置した状態とする。引き続き、ヘッド部 4A 側の生体管内挿入本体 2A を徐々に引き抜き、ヘッド部 4A の前端面が腸管病巣部 T3 の後端側近傍位置 C2 を通過した腸管 T2 内まで後退させる(アンビル部離間段階 12S)。このアンビル部離間操作は、腸管 T の外部から内視鏡 600 により観察/確認するとともに、ヘッド部 4A 内に収設されたカプセル内視鏡装置 150 により腸管 T の内部からも観察/確認する。

30

【0227】

前記アンビル部離間状態を内視鏡 600 及びカプセル内視鏡装置 150 により確認した後、実施例 1 と同様な内視鏡用腹腔 Mb 又は Md からカニューレ Mc を介してのリニア切断/縫合装置挿入段階 21S、腸管病巣部端部把持段階 22S、腸管病巣部一方端切断/閉鎖段階 23S、腸管病巣部他方端切断/閉鎖段階 24S、リニア切断/縫合装置取出し段階 25S を経て、切断されてエンド・エフェクタ 503 に把持された腸管病巣部 T3 はリニア切断/縫合装置 500 と共に内視鏡用腹腔 Mb 又は Md 外に取り出される。この段階では、図 26 に示すように、アンビル部 3A 側の巾着縫合部 T1a 部とヘッド部 4A 側の巾着縫合部 T2a 部とが対向した状態となる。ただし、実際はアンビル部 3A とヘッド部 4A の各主軸 X、X0 軸は、ほとんど図 26 のように一致することなくずれた状態となる。

40

【0228】

なお、前記両端を切断された腸管病巣部 T3 を別途前記内視鏡 600 の図示しない先端処置具により把持して内視鏡用腹腔 Md 又は Mb から取り出すこともできる。

50

【 0 2 2 9 】

前記リニア切断 / 縫合装置取出し後、巻取り装置 1 1 0 の巻取り操作によりガイド電線 1 0 0 を徐々に牽引しながらヘッド部 4 A 側の生体管内挿入本体 2 A をアンビル部 3 A 側に押し込んでヘッド部 4 A 側の巾着縫合部 T 2 a をアンビル軸 3 4 A 後端側の巾着縫合部 T 1 a 部に当接させ（このとき実際は、アンビル部 3 A とヘッド部 4 A の各主軸 X、X 0 軸は、ほとんど図 7 のように一直線状にならず交叉した状態で）、サーキュラー吻合装置 1 A の操作部 6 A のモノポーラ電源 ON 操作によりガイド電線 1 0 0 を介してモノポーラ電極部 3 4 c にモノポーラ電流を通電するとともにアンビル軸回転モータ 3 0 7 を駆動操作しアンビル軸 3 4 A を回転させて前記アンビル部 3 A 側及びヘッド部 4 A 側の腸管 T 1、T 2 双方の巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位（図 2 6）を順次焼灼して尖頭部 3 4 A a を貫通させ開口する（腸管巾着縫合部焼灼段階 1 3 S）。

10

【 0 2 3 0 】

この際、套管針 3 4 A b を有する尖頭部 3 4 A a が連結されたアンビル軸 3 4 A が回転することにより、モノポーラ電極部 3 4 c へのモノポーラ電流通電による生体管巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位の焼灼部の焼き付きを防止して焼灼が順調に行われる。そして、巾着縫合部 T 1 a、T 2 a 部位が焼灼されて開口されたアンビル 3 A 側及びヘッド部 4 A 側開口部 T 1 b、T 2 b は、貫通する尖頭部 3 4 A a にガイドされてそれぞれ被ロック部 3 5 A からアンビル軸 3 4 A、ロック部 5 4 A に挿通された状態となる。開口部 T 1 b、T 2 b は焼灼されて止血されているとともにアンビル軸 3 4 A、ロック部 5 4 A に密着状態で挿通されているが、内視鏡 6 0 0 の先端処置具（図示しない）により腸管 T 3 の外部から開口部 T 1 b、T 2 b をそれぞれ被ロック部 3 5 A の前端側のアンビル軸 3 4、ロック調整管 5 3 に挿通させるように位置調整した状態（図 2 7）で、糸で固縛することにより腸管 T 1、T 2 内からの異物漏出を防止するとともにその後の処置における信頼性がさらに向上する。

20

【 0 2 3 1 】

そして、図 2 7 に示すように、ガイド電線 1 0 0 を牽引し続けて尖頭部 3 4 A a をアンビル軸 3 4 A の後端部から引き離し、プッシュ管 7 A 内を経て後端開口部 7 A e（図 5）外に離脱した尖頭部 3 4 A a を引き出す（尖頭部取出し段階 1 3 a S）。なお、この段階 1 3 a S で、図 3 1 の変形実施形態によるサーキュラー吻合装置の場合は、尖頭部 3 4 A a はガイド電線 1 0 0 に牽引されてプッシュ管 7 B 内からガイド管 5 6 内を経て後端開口部 5 6 b 外に引き出される。

30

【 0 2 3 2 】

引き続き、ヘッド部 4 A から離間して腸管 T 1 内で定まらない姿勢（ヘッド部 4 A に対し傾斜状態）で浮遊しているアンビル部 3 A をヘッド部 4 A に再連結する際に、まず図 2 8（又は変形実施形態の図 3 1）に示すように、操作部 6 A 後端部のプッシュ管 7 A の後端開口部 7 A e（又は前記変形実施形態においてはガイド管 5 6 の後端開口部 5 6 b）からアンビル部連結補助具 5 5 を套管針状尖頭部 5 5 a がプッシュ管 7 A 内を経てロック部 5 4 A の分割捕捉部 5 4 A b 内を貫通するまで挿入する（アンビル部連結補助具挿入段階 1 3 b S）。

【 0 2 3 3 】

引き続き、図 2 8 に示すように、プッシュ管駆動モータの前進操作によりプッシュ管 7 A を前進させる（このときロック部 5 4 A が拡径され最大に開いた状態となる）とともにアンビル部連結補助具 5 5 と共に生体管内挿入本体 2 A を徐々に押し込み、アンビル部連結補助具 5 5 の套管針状尖頭部 5 5 a をアンビル軸 3 4 A 後端部の連結穴 3 4 A e 内に当接させる（図 3 2 参照）（アンビル部連結補助具・アンビル軸当接段階 1 3 c S）。この際、腸管 T の外部から内視鏡 6 0 0 及び / 又は腸管 T 2 の内部からカプセル内視鏡装置 1 5 0 により観察しながら、必要に応じて前記アンビル姿勢制御システム（図 3 2）により、アンビル軸 3 4 A の傾斜角度を適宜調整することもできる。

40

【 0 2 3 4 】

そして、図 3 2 に示すように、前記アンビル姿勢制御システムにより、アンビル部連結

50

補助具 5 5 の套管針状尖頭部 5 5 a をアンビル軸 3 4 A 後端部の尖頭部連結穴 3 4 A e 内に当接した状態の套管針状尖頭部 5 5 a を基点（一時的固定点）として、その時点のヘッド部 4 A の Y 0、Z 0 軸回り角度センサー 4 0 2、4 0 3 からの角度データに略一致するようにアンビル軸 3 4 A の目標角度が与えられ、アンビル部 3 A の姿勢を自動制御する（アンビル部姿勢制御段階 1 4 S）。

【 0 2 3 5 】

このアンビル部姿勢制御段階 1 7 S においても、腸管 T の外部から内視鏡 6 0 0 により観察 / 確認するとともに、カプセル内視鏡装置 1 5 0 により腸管 T 2 の内部からも観察 / 確認する。

【 0 2 3 6 】

前記アンビル部姿勢制御によりアンビル軸 3 4 A の主軸（X 軸）心とヘッド部 4 の主軸（X 0 軸）心とを略一致させた後、図 2 9 に示すように、アンビル部連結補助具 5 5 の套管針状尖頭部 5 5 a をアンビル軸 3 4 A 後端部の尖頭部連結穴 3 4 A e 内に、生体内挿入本体 2 A をアンビル部 3 A 側に共に押し込んで、アンビル部連結補助具 5 5 の套管針状尖頭部 5 5 a をアンビル軸 3 4 A 後端部の尖頭部連結穴 3 4 A e 内に挿入し、さらにロック調整管駆動モータの前進操作によりロック調整管 5 3 A を前進させロック部 5 4 A を縮径させ閉じてアンビル軸 3 4 A の被ロック部 3 5 A を捕捉し係合 / ロックさせる（アンビル軸捕捉 / ロック段階 1 4 a S）。

【 0 2 3 7 】

腸管 T の外部から内視鏡 6 0 0 及び / 又は腸管 T 2 の内部からカプセル内視鏡装置 1 5 0 により前記アンビル軸ロック状態を確認した後、アンビル部連結補助具 5 5 をプッシュ管 7 A 内後方に後退させて、プッシュ管 7 A の後端開口部 7 A e（又は前記変形実施形態においてはガイド管 5 6 の後端開口部 5 6 b）からアンビル部連結補助具 5 5 を抜き取る（アンビル部連結補助具抜き取り段階 1 4 b S）。

【 0 2 3 8 】

次いで、図 3 0 に示すように、前記アンビル軸ロック状態を保持しながらプッシュ管駆動モータ及びロック調整管駆動モータの後退操作によりプッシュ管 7 A 及びロック調整管 5 3 A を共に退避位置まで後退させて、アンビル部 3 A とヘッド部 4 A とを対面近接させ連結状態とする（アンビル部連結段階 1 5 S）。この際、アンビル部 3 A はヘッド部 4 A に対して、図 8 に示すのと同様ように、アンビル部 3 A 側の腸管 T 1 及びヘッド部 4 A 側の腸管 T 2 の腸管壁厚さを加えた値に略等しい所定ギャップ E を有して双方の腸管 T 1、T 2 を重合し挟持した状態で連結される。

【 0 2 3 9 】

このアンビル部連結段階 1 5 S においても、腸管 T の外部から内視鏡 6 0 0 により観察 / 確認するとともに、カプセル内視鏡装置 1 5 0 により腸管 T 2 の内部からも観察 / 確認する。

【 0 2 4 0 】

その後、実施例 1 と同様に、腸管切断端部吻合段階 1 6 S により吻合されたアンビル部 3 側の腸管 T 1 及びヘッド部 4 側の腸管 T 2 内が連通状態に連結復帰して修復され、さらにサーキュラー吻合装置取出し段階 1 7 S を経て、切断されてサーキュラーカッター 4 5 内に残置された巾着縫合部の開口部 T 1 b、T 2 b 側腸管 T 4、T 5 はサーキュラー吻合装置 1 A と共に肛門 M a 外に取り出される。

【 0 2 4 1 】

このような実施例 2 の NOTES 用外科手術方法では、アンビル部 3 A がヘッド部 A に対して離間された状態で生体管 T の病巣部 T 3 が切断除去された腸管 T 1、T 2 双方の切断端部が巾着縫合され、さらに尖頭部 3 4 A a が操作部 6 A 後端外に取り出された後でアンビル部 3 A をヘッド部 4 A に再連結する際に、操作部 6 A の後端部から挿入されたアンビル部連結補助具 5 5 の套管針状尖頭部 5 5 a がアンビル軸 3 4 A 後端部の連結穴 3 4 A e 内に嵌入し易い構成となっていることから、アンビル部 3 A とヘッド部 4 A との再連結 / ロック操作が容易となり信頼性が向上する。

10

20

30

40

50

【 0 2 4 2 】

図 3 4 は実施例 2 の変形実施形態の N O T E S 用外科手術システムにおけるアンビル部補助挿入具 8 の主要構成概念を示し、アンビル部 3 A との連結状態での生体管 T 内挿入中における縦断面図、図 3 5 は図 3 4 に引続き、アンビル部 3 A とアンビル部補助挿入具 8 の離脱状態で前記リニア切断 / 縫合装置 5 0 0 による生体管 T 病変部 T 3 切断及び巾着縫合後の縦断面図である。

【 0 2 4 3 】

この変形実施形態による N O T E S 用外科手術システムは、両端とも開放され、アンビル軸 3 4 A の後端部及び尖頭部 3 4 A a が挿通可能な長尺可撓性の中空管状体 8 a と、中空管状体 8 a の後端部 8 c に設けられた把持部 8 d とからなり、前端部 8 b にアンビル軸 3 4 A の後端部及び尖頭部 3 4 A a を挿入したアンビル部 3 A との連結状態で生体管 T 内に挿入されるアンビル部挿入補助具 8 をさらに備える。

10

【 0 2 4 4 】

中空管状体 8 a 内に挿通されたガイド電線 1 0 0 により牽引されてアンビル軸 3 4 A から分離された尖頭部 3 4 A a が、中空管状体 8 a 内を経て後端部 8 c から引き出されるようになっている。このアンビル部挿入補助具 8 の作用については、後述する。

【 0 2 4 5 】

次に、上記サーキュラー吻合装置 1 A、アンビル部挿入補助具 8 及びリニア切断 / 縫合装置 5 0 0 を有する変形実施形態による N O T E S 用外科手術システムを適用し、生体管例えば腸管 T の病巣部 T 3 を切除してその生体管の切断部双方同士を吻合する N O T E S 用外科手術方法について、さらに図 3 4 乃至 3 6 を参照し説明する。

20

【 0 2 4 6 】

図 3 6 は、実施例 2 の変形実施形態の N O T E S 用外科手術システムを用いた N O T E S 用外科手術方法の主要手順を示すブロック図である。

【 0 2 4 7 】

この変形実施形態の N O T E S 用外科手術方法は、図 3 6 に示すように、前記実施例 2 の N O T E S 用外科手術方法 (図 3 3) に対して外部病巣部確認段階 2 S 後に、先ずアンビル部挿入補助具 8 を用いる点 (段階 1 1 a S ~ 1 2 c S) が異なるだけで、他の段階 1 S、2 S、2 1 S ~ 2 5 S、1 3 S ~ 1 7 S は前記実施例 2 と全く同様である。したがって、前記実施例 2 と異なる段階 1 1 a S ~ 1 2 c S について以下に説明する。

30

【 0 2 4 8 】

前記外部病巣部確認 2 S 後、中空管状体 8 a 内の後端部 8 c からガイド電線 1 0 0 が挿通されるとともに前端部 8 b にアンビル軸 3 4 A の後端部及び尖頭部 3 4 A a を挿入 (嵌着) したアンビル部 3 A との連結状態 (図 3 4) でアンビル部挿入補助具 8 を人体 M の自然開口部である例えば肛門 M a から腸管 T 内の病巣部 T 3 を先端のアンビル部 3 が十分通過するまで挿入する (アンビル部・アンビル部挿入補助具挿入段階 1 1 a S) 。このとき、図 2 0 と同様に、アンビル部 3 A は、尖頭部 3 4 A a の套管針 3 4 A b 後端部のモノポーラ電極部 3 4 c が腸管病巣部 T 3 の先端側近傍位置 C 1 を通過した腸管 T 1 内まで挿入される (図 3 5 参照) 。

【 0 2 4 9 】

次に、腸管 T 1 内まで挿入されたアンビル部 3 A を内視鏡 6 0 0 の図示しない先端処置具等により位置ずれしないように保持して、アンビル部挿入補助具 8 を徐々に引いて後退させることによりアンビル部 3 A を前端部 8 b から離脱させて前記腸管 T 1 内に残置した状態とし、図 3 5 に示すように、前端部 8 b の前端面が腸管病巣部 T 3 の後端側近傍位置 C 2 を通過した腸管 T 2 内まで後退させる (アンビル部離間段階 1 2 a S) 。このアンビル部離間操作は、腸管 T の外部から内視鏡 6 0 0 により観察 / 確認する。

40

【 0 2 5 0 】

前記アンビル部離間状態を内視鏡 6 0 0 により確認した後、内視鏡用腹腔 M b 又は M d からカニューレ M c を介してリニア切断 / 縫合装置 5 0 0 を前記腸管病巣部 T 3 の近傍まで挿入して前記実施例 2 と同様にリニア切断 / 縫合装置挿入段階 2 1 S、腸管病巣部端部

50

把持段階 2 2 S、腸管病巣部一方端切断 / 閉鎖段階 2 3 S、腸管病巣部他方端切断 / 閉鎖段階 2 4 S、リニア切断 / 縫合装置取出し段階 2 5 S を順次実施する。これにより、腸管病巣部 T 3 は、その両端近傍位置 C 1、C 2 部位が切断されると同時にリニア切断 / 縫合装置 5 0 0 と共に内視鏡用腹腔 M b 又は M d 外に取り出される。

【 0 2 5 1 】

次いで、腸管病巣部 T 3 が切除され巾着吻合された腸管 T 2 内からアンビル部挿入補助具 8 を後退させて肛門 M a 外に抜き取る（アンビル部挿入補助具抜き取り段階 1 2 b S）。この段階では、巾着吻合された腸管 T 1 内にアンビル部 3 A が残置された状態である。

【 0 2 5 2 】

次いで、操作部 6 A 後端部のプッシュ管 7 A の後端開口部 7 A e からプッシュ管 7 A 内にガイド電線 1 0 0 を挿通したヘッド部 4 A 側の生体管内挿入本体 2 A を肛門 M a から腸管 T 2 内の巾着縫合部 T 2 a 部位まで挿入する（ヘッド部側生体管内挿入本体挿入段階 1 2 c S）。この段階では、実施例 2 の図 2 6 と同様に、アンビル部 3 A 側の巾着縫合部 T 1 a 部とヘッド部 4 A 側の巾着縫合部 T 2 a 部とが対向した状態となる。ただし、実際はアンビル部 3 A とヘッド部 4 A の各主軸 X、X 0 軸は、ほとんど図 2 6 のように一致せずにはずれた状態となる。

【 0 2 5 3 】

これ以降は、前記実施例 2 と同様な腸管巾着縫合部焼灼段階 1 3 S、尖頭部取出し段階 1 3 a S、アンビル部連結補助具挿入段階 1 3 b S、アンビル部連結補助具・アンビル軸 3 4 当接段階 1 3 c S、アンビル部姿勢制御段階 1 4 S、アンビル軸捕捉 / ロック段階 1 4 a S、アンビル部連結補助具抜き取り段階 1 4 b S、アンビル部連結段階 1 5 S、腸管切断端部吻合段階 1 6 S、サーキュラー吻合装置取出し段階 1 7 S を順次実施して、吻合されたアンビル部 3 A 側の腸管 T 1 及びヘッド部 4 A 側の腸管 T 2 内が連通状態に連結復帰して修復される。

【 0 2 5 4 】

このような実施例 2 の変形実施形態による NOTES 用外科手術方法では、先に、操作とも簡易なアンビル部挿入補助具 8 にアンビル部 3 A を連結した状態で生物の自然開口部から病巣部 T 3 を有する生体管 T 内に挿入し、アンビル部 3 A をアンビル部挿入補助具 8 から離脱して残置し、それぞれ生体管病巣部 T 3 の前 / 後端部近傍位置 C 1、C 2 部位まで離間した状態で、内視鏡用生体腔部 M b 又は M d からリニア切断 / 縫合装置 5 0 0 を挿入して生体管 T の病巣部 T 3 を切断し除去する処置を行ってからアンビル部挿入補助具 8 を自然開口部から抜取った後で、生体管 T 内に挿入された生体管内挿入本体 2 のヘッド部 4 にアンビル部 3 を再連結 / ロックしてその生体管 T 1、T 2 の切断端部双方同士の吻合を生体管 T 内で行うことが容易にできる。

【 0 2 5 5 】

以上述べたように、本発明の実施例 2 によれば、サーキュラー吻合装置 1 A の生体管内挿入本体 2 A が生物の自然開口部から病巣部 T 3 を有する生体管 T 内に挿入され、アンビル部 3 A がヘッド部 4 A に対して生体管病巣部 T 3 の前 / 後端部近傍位置 C 1、C 2 部位まで離間した状態で、別途生体 M の内視鏡用生体腔部 M b 又は M d から挿入されたリニア切断 / 縫合装置 5 0 0 及びこれと同時に別途内視鏡用生体腔部 M d 又は M b から挿入された内視鏡 6 0 0 により観察しながら生体管 T 外から病巣部 T 3 が切断除去された後にその生体管 T 1、T 2 の切断端部双方同士の吻合をサーキュラー吻合装置 1 A により生体管 T 内から半自動的あるいは自動的に行う信頼性をさらに向上させることができるので、従来のような大掛かりな腹部切開などの生体手術を省いて手術時間及び手術侵襲を低減し、手術の操作性及び信頼性に一層優れる自然開口部越管腔内視鏡手術（NOTES）用外科手術システム及びこれを用いた外科手術方法を提供することが可能となる。

【 0 2 5 6 】

なお、以上述べた実施形態の他に、サーキュラー吻合装置 1、1 A 及びリニア切断 / 縫合装置 5 0 0 の各部材や機構の形状及び構成等は任意に変更することができる。

【 0 2 5 7 】

10

20

30

40

50

例えば、図37は、前記実施例1のまた別の变形実施形態のサーキュラー吻合装置のヘッド部4Dのアンビル部3Dとの連結状態の縦断面図であって、実施例1のヘッド部4における部材と同一機能の部材には、説明を分かり易くするため形状が一部異なっても同一の符号を付してある。

【0258】

この变形実施形態のヘッド部4Dは、実施例1のヘッド部4に対して、アンビル軸34の被ロック部35を係脱可能にロックするロック部54が、連結管53の前端部53aに連設されている点異なる。したがって、実施例1と同様な連結管53は後端部が図示しない操作部内に固定されているので、連結管53前端部53aのロック部54もヘッド部4Dに対して主軸(X0軸)方向への相対移動が拘束されている。

10

【0259】

この变形実施形態のロック部54は、図37に示すように、前端部がヘッド部4Dの前端部近傍まで配置されており、このロック部54に係合ロックされる被ロック部35はアンビル31の後端部近傍のアンビル軸34に配置され設けられている。

【0260】

この变形実施形態においては、ガイド電線100を解放するとともにプッシュ管7を前進させてアンビル軸34を介してアンビル部3Dを前方に押出す(このとき、同時にヘッド部4D側を後退させるようにしてアンビル部3Dから離隔してもよい)ことによりヘッド部4Dからロック解除し離脱させる。

【0261】

20

これとは反対に、プッシュ管7を後退させるとともにガイド電線100を牽引することによりアンビル部3Dをヘッド部4D側に引寄せて(このとき、同時にヘッド部4D側を前方に押し込むようにしてアンビル部3Dに近接させてもよい)、前記実施例1と同様なアンビル部姿勢制御によりアンビル軸34の主軸(X軸)心とヘッド部4Dの主軸(X0軸)心とを略一致させながらアンビル軸34をプッシュ管7内に嵌合させるとともに、アンビル軸34の被ロック部35を連結管53前端部53aのロック部54に係合/ロックさせ、アンビル部3Dとヘッド部4Dとの再連結/ロックが行われる。

【0262】

また、図38は、前記実施例2のまた別の变形実施形態のサーキュラー吻合装置のロック部54Bが開いた状態のヘッド部4Eの縦断面図であって、実施例2のヘッド部4A(図28参照)における部材と同一機能の部材には、説明を分かり易くするため形状が一部異なっても同一の符号を付してある。

30

【0263】

前記実施例2のサーキュラー吻合装置1Aにおける、フリー状態では分割捕捉部54Abをそれぞれ軸中心から拡径方向に大きく開くように屈曲されて弾支する複数の弾性支持部材54Ac(図28参照)に換えて、図38(a)、(b)に示すように、プッシュ管7Aの前端部7Aaに軸支された複数の例えばTi、SUSなどの高剛性金属材料からなる略ストレート状の分割捕捉部支持部材54Bcを拡径方向に付勢する弾性部材57を組み込んだ軸支構造を有する变形実施形態とすることもできる。

【0264】

40

この分割捕捉部支持部材54Bcの軸支構造は、図38(b)に示すように、分割捕捉部支持部材54Bcに設けられたブラケット後端部54Bcaがプッシュ管7Aの前端部7Aaに突設されたブラケット7Aaaに軸部材56を介して回転自在に軸支される。さらに、軸部材56に外嵌された捻りばねからなる弾性部材57の一端部57aがプッシュ管7Aの前端部7Aaに、他端部57bが分割捕捉部支持部材54Bcにそれぞれ固着され、この弾性部材57により前端部に分割捕捉部54Abが連設された分割捕捉部支持部材54Bcを拡径方向に付勢するよう構成されている。

【0265】

このような分割捕捉部支持部材54Bcの軸支構造により、ロック調整管53Bの拡径状に形成された前端部53Baが分割捕捉部54Abの後端部まで前進することにより、

50

二点差線で示すように、分割捕捉部支持部材 5 4 B c を外側から押圧して分割捕捉部 5 4 A b を縮径方向に閉じ、ロック調整管 5 3 B の前端部 5 3 B a が分割捕捉部支持部材 5 4 B c から後退することにより、図 3 8 (a) に示すように、分割捕捉部 5 4 A b を拡径方向に大きく全開させることが容易に可能となる。

【産業上の利用可能性】

【 0 2 6 6 】

本発明のサーキュラー吻合装置、リニア切断／縫合装置を有する NOTES 用外科手術システム、ならびに公知の腹腔鏡を併用することにより、従来のような大掛かりな腹部切開などの生体手術を省いて手術時間及び手術侵襲を低減し、手術の操作性及び信頼性、ならびに経済性に優れた自然開口部越管腔内視鏡手術 (NOTES) 用外科手術システム及び外科手術方法を実現することが可能となり、生体官外科手術分野の画期的な進歩に貢献することができる。

10

【符号の説明】

【 0 2 6 7 】

1、1 A サークュラー吻合装置

1 S 内視鏡用腹腔施術段階

2、2 A 生体管内挿入本体

2 S 外部病巣部確認段階

3、3 A、3 D アンビル部

4、4 A、4 B、4 C、4 D ヘッド部

20

5、5 A、5 B、5 C 支持軸部

6、6 A、6 B、6 C 操作部

7、7 A、7 B、7 C プッシュ管

7 a、7 A a、7 B a、7 C a 前端部

7 b ガイド口部

7 A a a ブラケット

7 A b 後端近傍部

7 B c、7 C c エンド部材

7 B d、7 C d、7 A e 後端開口部

7 A f、7 B f ガイド部

30

8 アンビル部挿入補助具

8 a 中空管状体

8 b 前端部

8 c 後端部

8 d 把持部

1 0 吻合用ステーブル (綴針)

1 1 S サークュラー吻合装置挿入段階

1 1 a S アンビル部・アンビル部挿入補助具挿入段階

1 2 S、1 2 a S アンビル部離間段階

1 2 b S アンビル部挿入補助具抜取り段階

40

1 2 c S ヘッド部側生体管内挿入本体挿入段階

1 3 S 腸管巾着縫合部焼灼段階

1 3 a S 尖頭部取出し段階

1 3 b S アンビル部連結補助具挿入段階

1 3 c S アンビル部連結補助具・アンビル軸当接段階

1 4 S アンビル部姿勢制御段階

1 4 a S アンビル軸捕捉／ロック段階

1 4 b S アンビル部連結補助具抜取り段階

1 5 S アンビル部連結段階

1 6 S 腸管切断端部吻合段階

50

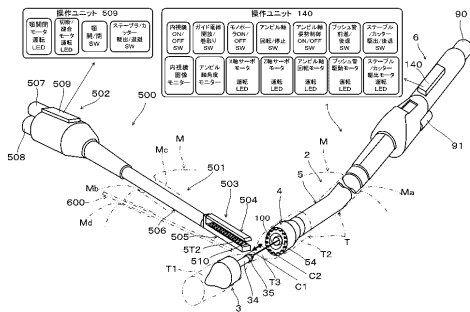
| | | |
|-----------------------|-------------------------|----|
| 1 7 S | サーキュラー吻合装置取出し段階 | |
| 2 1 S | リニア切断／縫合装置挿入段階 | |
| 2 2 S | 腸管病巣部端部把持段階 | |
| 2 3 S | 腸管病巣部一方端切断／閉鎖段階 | |
| 2 4 S | 腸管病巣部他方端切断／閉鎖段階 | |
| 2 5 S | リニア切断／縫合装置取出し段階 | |
| 3 0 | アンビル姿勢制御機構 | |
| 3 1 | アンビル | |
| 3 1 a | 溝部 | |
| 3 1 b | ステーブル成形溝 | 10 |
| 3 2 | ブラケット | |
| 3 3 | 2軸揺動機構（ジンバル機構） | |
| 3 3 a | 第2の枠体 | |
| 3 3 b | 第3の枠体 | |
| 3 3 c | アンビル軸支持部 | |
| 3 3 e | 非干渉孔 | |
| 3 3 f | 第1の枠体 | |
| 3 4 | アンビル軸 | |
| 3 4 a | 絶縁体 | |
| 3 4 A a | 尖頭部 | 20 |
| 3 4 A d | 連結軸部 | |
| 3 4 A e | 尖頭部連結穴 | |
| 3 4 b、3 4 A b | 套管針 | |
| 3 4 c | モノポーラ電極部 | |
| 3 5、3 5 A、 | 被ロック部 | |
| 3 5 a、3 5 A a | スプライン溝 | |
| 3 5 b、3 5 A b、5 4 b | 傾斜面 | |
| 3 6 | 先端キャップ | |
| 3 7 | 裏打ちワッシャ | |
| 3 8 | フレキシブルカバー | 30 |
| 4 1 | ヘッド外筒 | |
| 4 1 a、4 1 b | ブラケット | |
| 4 1 c、4 1 d | アクチュエータ取付け孔 | |
| 4 2 | ステーブル／カッター駆出部材 | |
| 4 2 a | 後端面 | |
| 4 3 | ステーブル駆出フィンガ | |
| 4 4 | ステーブルカートリッジ | |
| 4 4 a | ステーブル収容スロット | |
| 4 5 | サーキュラーカッター | |
| 4 7、6 7 | プッシュ管駆動機構 | 40 |
| 4 7 a、4 8 a、4 9 a | （マイクロリニアアクチュエータの）ロッド先端部 | |
| 4 8、6 6 | ステーブル／カッター駆出機構 | |
| 4 9、6 8 | ロック調整管駆動機構 | |
| 5 1 | 外管 | |
| 5 2 | ドライバーチューブ | |
| 5 2 a | 雄ねじチューブ | |
| 5 2 b | 雄ねじ | |
| 5 3 | 連結管 | |
| 5 3 a、5 3 A a、5 3 B a | 前端部 | |
| 5 3 A、5 3 B | ロック調整管 | 50 |

| | | |
|-------------------|------------------|----|
| 5 3 A b | 後端部 | |
| 5 3 c、5 3 B c | エンド部材 | |
| 5 3 B d | 後端開口部 | |
| 5 4、5 4 A、5 4 B | ロック部 | |
| 5 4 a、5 4 A a | スプライン歯 | |
| 5 4 A b | 分割捕捉部 | |
| 5 4 A c | 弾性支持部材 | |
| 5 4 B c | 分割捕捉部支持部材 | |
| 5 4 B c a | ブラケット後端部 | |
| 5 5 | アンビル部連結補助具 | 10 |
| 5 5 a | 套管針状尖頭部 | |
| 5 5 b | シャフト部 | |
| 5 6 | ガイド管 | |
| 5 6 a | 先端部 | |
| 5 6 b | 後端部 | |
| 5 7 | 弾性部材 | |
| 5 7 a | 一端部 | |
| 5 7 b | 他端部 | |
| 5 8 | 軸部材 | |
| 6 1 | 操作部筐体 | 20 |
| 6 1 a | 後端部 | |
| 6 1 c | モータ取付け孔 | |
| 6 1 d | 指示器窓 | |
| 6 3 | ドライブシャフト | |
| 6 3 a | ピニオン | |
| 6 4 | プッシュ管駆動機構 | |
| 6 5 | 外歯付回転ナット | |
| 6 5 a | 外歯 | |
| 6 5 b | 雌ねじ | |
| 6 5 c | 中空後半部 | 30 |
| 6 7 | プッシュ管駆動機構 | |
| 9 1 | ステーブル/カッター駆動モータ | |
| 1 0 0 | ガイド細線部材(ガイド電線) | |
| 1 1 0 | 巻取り装置 | |
| 1 4 0、1 4 0 A | (ワイヤレス)操作ユニット | |
| 1 5 0 | カプセル内視鏡 | |
| 2 0 0 | 内視鏡 | |
| 3 0 0 | Y軸サーボモータ | |
| 3 0 1 | Z軸サーボモータ | |
| 3 0 2、4 1 2 | 電池 | 40 |
| 3 0 3、4 0 3、4 1 0 | ワイヤレス送受信器 | |
| 3 0 4、4 1 1 | アンテナ | |
| 3 0 5 | Y軸回り角度センサー | |
| 3 0 6 | Z軸回り角度センサー | |
| 3 0 7 | アンビル軸回転モータ(回転手段) | |
| 3 1 0 | 角度指令生成部 | |
| 3 1 1 | 角度検出部 | |
| 3 1 2 | 指令算出部 | |
| 3 2 0 | 駆動制御部 | |
| 3 2 1 | Y軸制御部 | 50 |

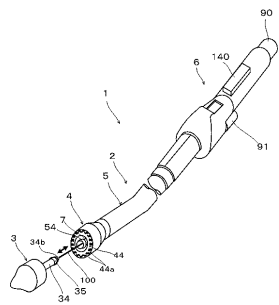
| | | |
|-----------------|------------------------------|----|
| 3 2 2 | Z 軸制御部 | |
| 4 0 1 | Y 0 軸回り角度センサー | |
| 4 0 2 | Z 0 軸回り角度センサー | |
| 5 0 0 | 切断 / 吻合装置 | |
| 5 0 1 | 本体 | |
| 5 0 2 | 操作部 | |
| 5 0 3 | エンド・エフェクタ | |
| 5 0 4 | 上顎 | |
| 5 0 5 | 下顎 | |
| 5 0 6 | 支持軸部 | 10 |
| 5 0 7 | 顎開閉モータ | |
| 5 0 8 | 切断 / 吻合モータ | |
| 5 0 9 | (ワイヤレス) 操作ユニット | |
| 5 1 0 | ステーブルカートリッジ | |
| 5 1 1 | 縫合用ステーブル | |
| 5 1 2 | ステーブル収容スロット | |
| 5 2 0 | 切断 / 吻合ドライブ機構 | |
| 5 3 0 | 上顎開閉機構 | |
| 5 4 0 | 上顎本体 | |
| 5 4 1 | 溝部 | 20 |
| 5 4 2、5 5 0 a | 蟻溝型スライド溝 | |
| 5 4 3 | ラック | |
| 5 4 3 a、5 5 4 a | 雄ねじ | |
| 5 4 4 | ステーブルガイド | |
| 5 4 4 a | ステーブル成形溝 | |
| 5 5 0 | 下顎本体 | |
| 5 5 1 | チャンネル | |
| 5 5 2 | 上部軸支持穴 | |
| 5 5 3 | 下部軸支持穴 | |
| 5 5 4 | 上顎開閉ドライブシャフト | 30 |
| 5 5 4 a | ピニオン | |
| 5 5 5 | 切断 / 吻合ドライブシャフト | |
| 5 5 5 a | 先側雄ねじ | |
| 5 5 5 b | 後側雄ねじ | |
| 5 5 6 | 先側ステーブル駆出駒 | |
| 5 5 6 a、5 5 7 a | 傾斜面 | |
| 5 5 7 | 後側ステーブル駆出駒 | |
| 5 5 7 b | 雌ねじ | |
| 5 5 8 | (先側) リニアカッター | |
| 5 5 8 a、5 5 9 a | 凹状切欠き部 | 40 |
| 5 5 9 | (後側) リニアカッター | |
| 5 6 0、5 6 2 | フレキシブル駆動シャフト | |
| 5 6 1、5 6 3 | カップリング | |
| C 1 | 生体管 (例えば腸管) 病巣部 T 3 の前端側近傍位置 | |
| C 2 | 生体管 (例えば腸管) 病巣部 T 3 の後端側近傍位置 | |
| M | 生物 (生体、例えば人) | |
| M a | 自然開口部 (例えば、肛門や口など) | |
| M b、M d | 内視鏡用生体腔 (腹腔) 部 | |
| M c | カニューレ | |
| T | 生体管 (例えば腸管などの消化管) | 50 |

- T 1 アンビル部側（口側又は先端側）生体管（例えば腸管）
- T 1 a、T 2 a （生体管（例えば腸管）切断端の）巾着縫合部
- T 1 b、T 2 b （巾着縫合部の）焼灼開口部
- T 2 ヘッド部側（肛門側又は後端側）生体管（例えば腸管）
- T 3 病巣部
- T 4 （アンビル部側（口側又は先端側）生体管（例えば腸管）の巾着縫合部 T 1 a 部位の）開口部 T 1 b 側腸管
- T 5 （ヘッド部側（肛門側又は後端側）生体管（例えば腸管）の巾着縫合部 T 2 a 部位の）開口部 T 2 b 側腸管

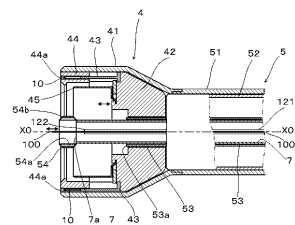
【図 1】



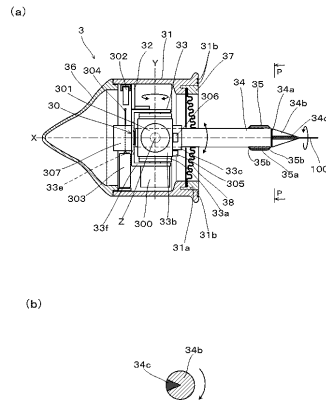
【図 2】



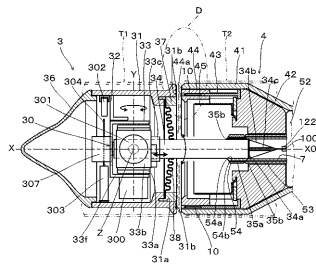
【図 3】



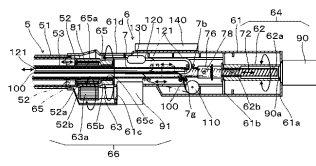
【図 4】



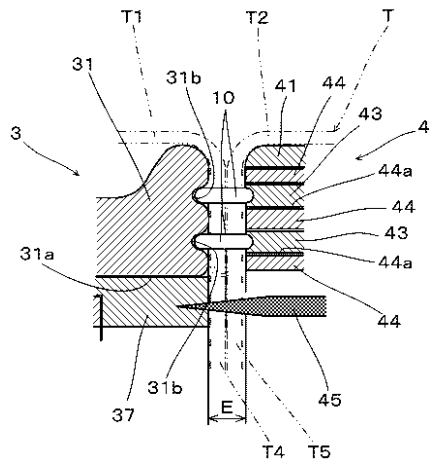
【図5】



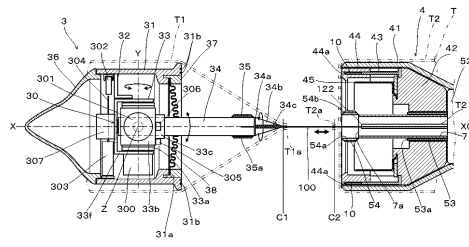
【図6】



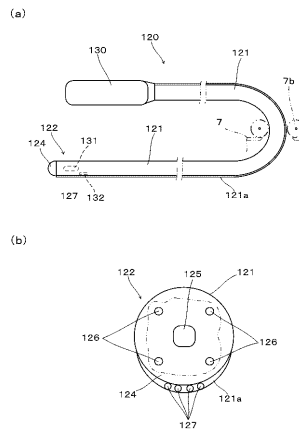
【図8】



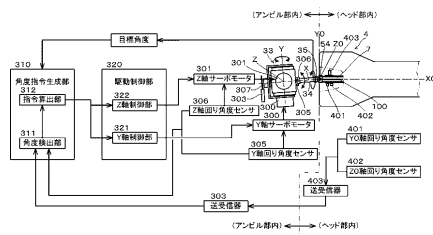
【図7】



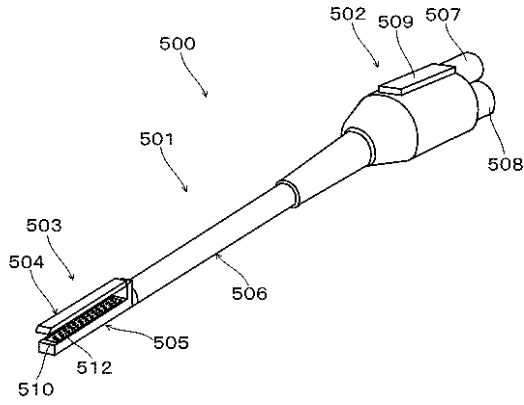
【図9】



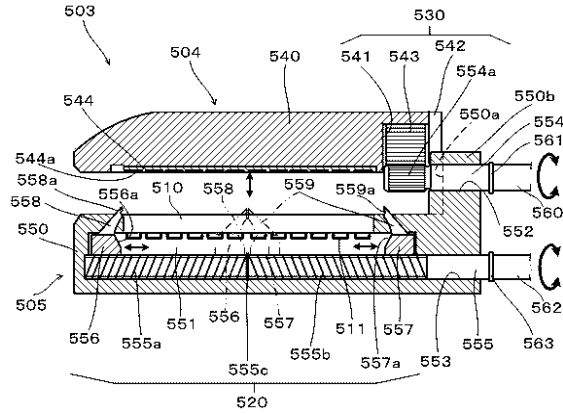
【図10】



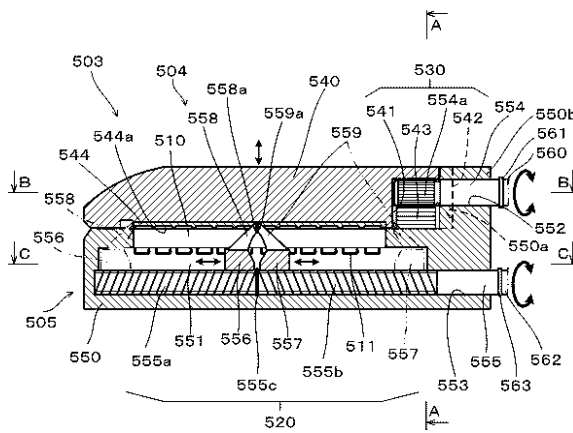
【図11】



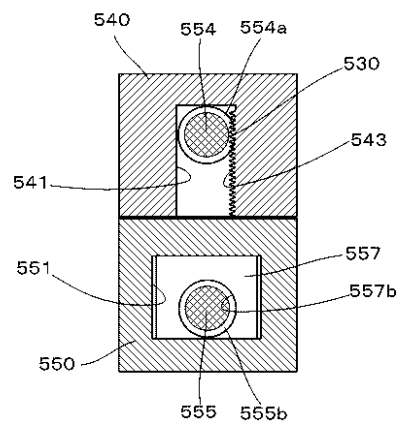
【図12】



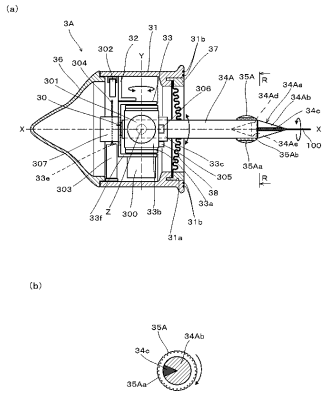
【図13】



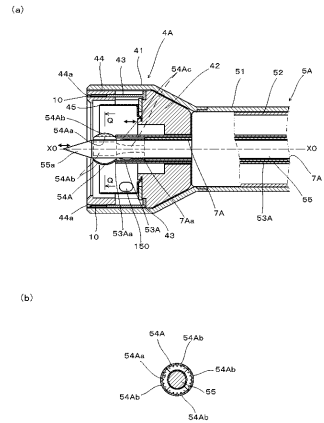
【図14】



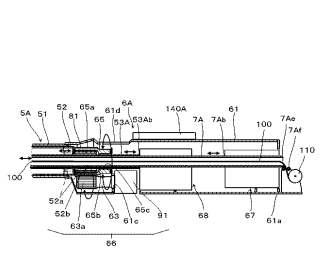
【図 22】



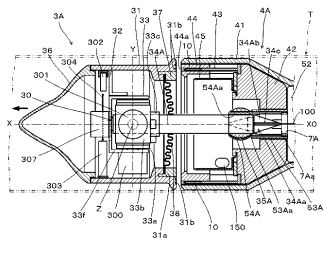
【図 23】



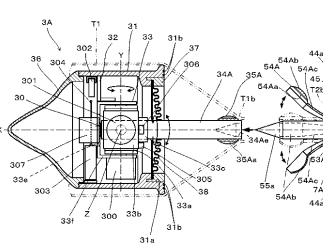
【図 24】



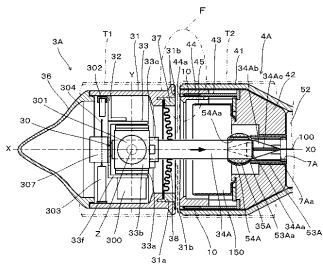
【図 25】



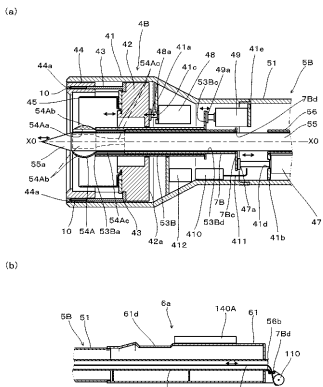
【図 28】



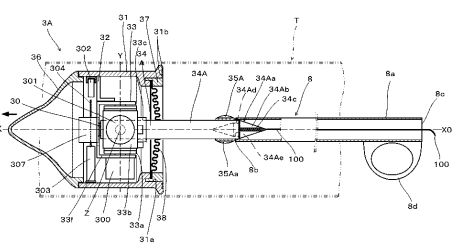
【図30】



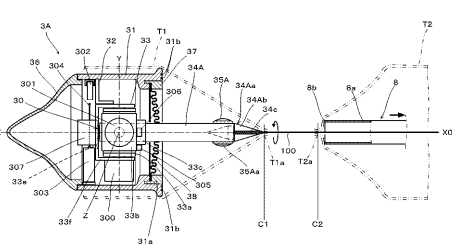
【図31】



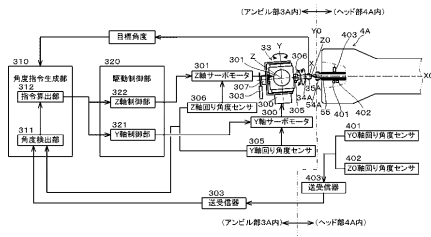
【図34】



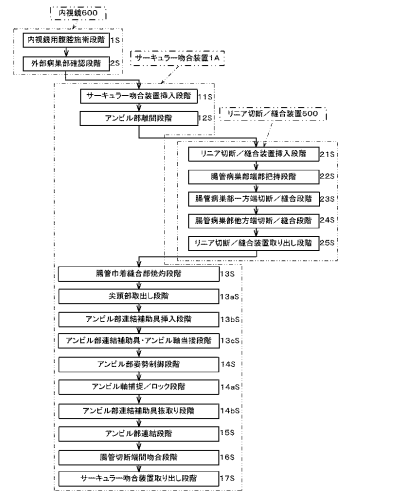
【図35】



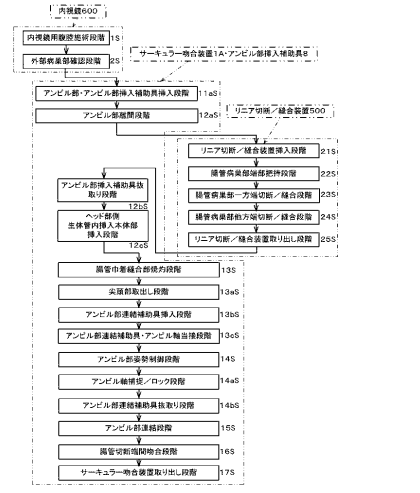
【図32】



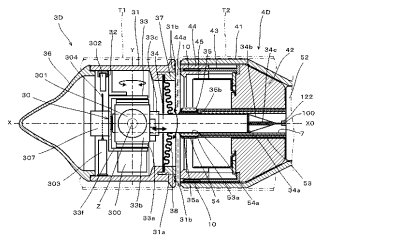
【図33】



【図36】

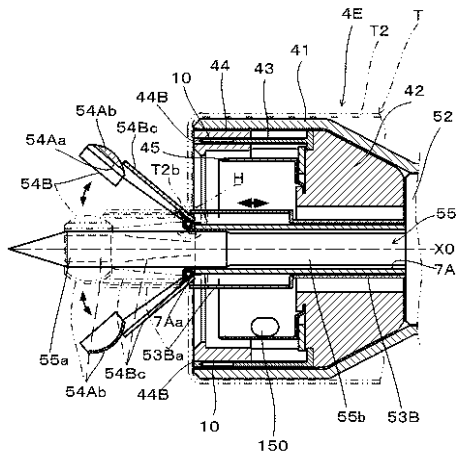


【図37】

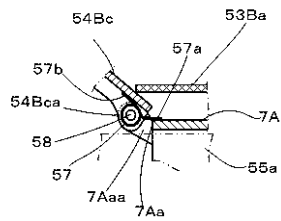


【図38】

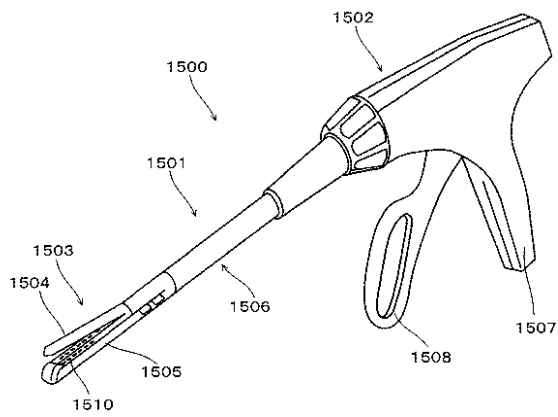
(a)



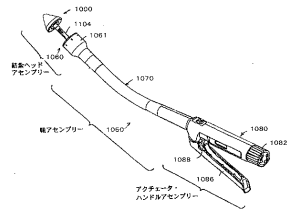
(b)



【図40】



【図39】



フロントページの続き

- (56)参考文献 米国特許第05314435 (US, A)
特表2000-515049 (JP, A)
特表2003-523254 (JP, A)
特開平06-047050 (JP, A)
特開平05-337122 (JP, A)
特開平06-030944 (JP, A)
特開平08-066406 (JP, A)
特表2005-511131 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

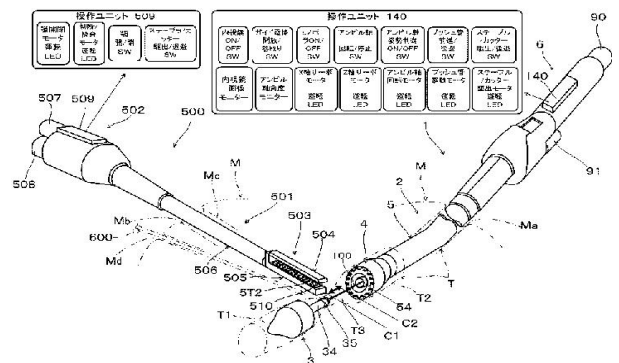
A61B 17/115
A61B 17/072
A61B 17/3211

| | | | |
|----------------|---|---------|------------|
| 专利名称(译) | 自然开口部越管腔内视镜手术(NOTES)用外科手术システム | | |
| 公开(公告)号 | JP5376380B2 | 公开(公告)日 | 2013-12-25 |
| 申请号 | JP2010510128 | 申请日 | 2009-04-28 |
| [标]申请(专利权)人(译) | 忌吃医学院 | | |
| 申请(专利权)人(译) | 学校法人自治医科大学 | | |
| 当前申请(专利权)人(译) | 学校法人自治医科大学 | | |
| [标]发明人 | 大平猛 | | |
| 发明人 | 大平 猛 | | |
| IPC分类号 | A61B17/115 A61B17/3211 A61B17/072 | | |
| CPC分类号 | A61B17/07207 A61B17/115 | | |
| FI分类号 | A61B17/11.310 A61B17/32.310 A61B17/10.310 | | |
| 优先权 | 2008119277 2008-04-30 JP | | |
| 其他公开文献 | JPWO2009133875A1 | | |
| 外部链接 | Espacenet | | |

摘要(译)

提供了一种用于减少手术侵入的NOTES手术系统。连接到导丝100的砧部3连接到插入管体2并从自然开口部分Ma插入到活体管T中，并且线性切割/闭合装置500的一对线性切割器从生物体腔Mb插入558,559切割并移除生物体管的病变部分T 3，然后彼此吻合并恢复切割的末端部分。

【 図 1 】



【 図 2 】